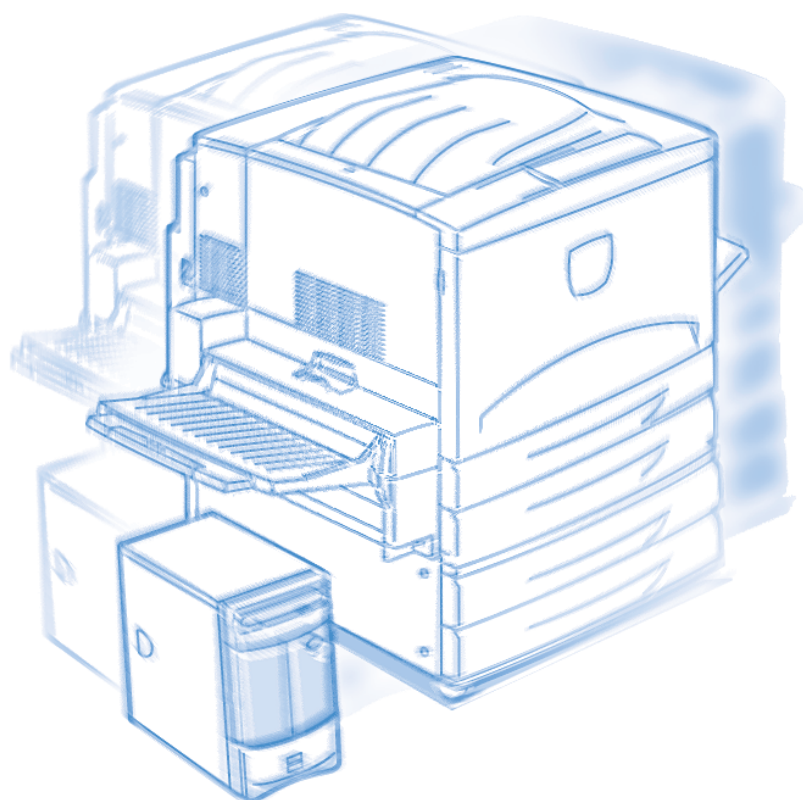
カラーレーザープリンター

DocuPrint CG835 LII

ドキュプリント

取扱説明書

THE DOCUMENT COMPANY
FUJI XEROX

このソフトの中で使用されている TOYO COLOR FINDER® のコンピュータービデオシミュレーションの色やカラープリンターにより出力された色は COLOR FINDER® 色票の色と合わない場合がありますので正確な TOYO COLOR FINDER® 1050 の色は色票で確認してください。
TOYO INK COLOR FINDER® SYSTEM AND SOFTWARE の著作権は東洋インキ製造株式会社が所有し DocuPrint CG835 L II で使用する場合に限って富士ゼロックスプリンティングシステムズ株式会社に使用許可のライセンスが与えられています。したがって、DocuPrint CG835 L II に関連して使用する以外の目的で他のディスクにコピーしたり、メモリーに読み込む事を禁じます。

東洋インキ標準色 ver.2.0 について
本プリンターは、東洋インキ製造株式会社より東洋インキ標準色 ver.2.0 の認定を受けています。
東洋インキ標準色 ver.2.0 とは、東洋インキ製造株式会社が、印刷物の標準化のために定めた規格です。
東洋インキ標準色 ver.2.0 の印刷条件は、以下の通りです。
・インキ　　　　　　：TK ハイユニティ
・イメージセッター：Creo Dolev 800
・印刷機　　　　　　：三菱ダイヤ 304 型
・用紙　　　　　　　：パールコート 104.7g/m^2（三菱製紙）
・スクリーン　　　　：175 線 / インチ スクエアドット

本プリンターは、大日本インキ化学工業株式会社より DIC 標準色の認定を受けています。
DIC 標準色とは、大日本インキ化学工業株式会社が印刷物の色の標準化のために定めた規格です。この規格は、アート紙上のオフセット・プロセス印刷の色範囲として設定したものです。
本プリンターは、D50 光源下で DIC 標準色の基準レベル電子写真方式に適合しています。これにより、標準的オフセット・プロセス印刷における印刷物の色を近似的にシミュレーションすることができます。

本プリンターは、DIC 標準色の認定を受けていますが、大日本インキ化学工業株式会社の発行している DIC カラーガイド・プロセスカラーノート見本帳（*1）の色と必ずしも一致するとは限りません。
本プリンターは、経時変化、環境変化等に伴う印画特性の変化により、プリント色に多少の色の誤差が生じる場合がありますのでご注意ください。
本プリンターは、製品個々および消耗品の特性バラツキにより、プリント色に多少の色の誤差が生じる場合がありますのでご注意ください。
本プリンターに搭載されている DIC 標準色プロファイルは、本プリンター用に開発されたものであり、大日本インキ化学工業株式会社が作成したオフセット標準印刷用プロファイル DIC 標準色プロファイル（DIC Standard Color SFC）とは異なります。
*1:DIC カラーガイド・プロセスカラーノート見本帳は、特色見本帳 DIC カラーガイド ®、DIC カラーガイド ®・パート 2 の色を、アート紙上、DIC 製プロセスインキを用いて近似的にプロセス印刷（黄、紅、藍、墨）の網点%の組み合わせで色再現したプロセス見本帳です。

富士ゼロックスプリンティングシステムズ株式会社は DocuPrint CG835 L II に搭載することにおいてデータベース DIC カラーガイド ® のライセンスを大日本インキ化学工業株式会社より受けています。

本プリンターのソフトウエアには、the Independent JPEG Group で作成されたコードの一部を利用しています。

ご注意

① 本書の内容の一部または全部を無断で複製・転載・改編することはおやめください。
② 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
③ 本書に、ご不明な点、誤り、記載もれ、乱丁、落丁などがありましたら弊社までご連絡ください。
④ 本書に記載されていない方法で機械を操作しないでください。思わぬ故障や事故の原因となることがあります。万一故障などが発生した場合は、責任を負いかねることがありますので、ご了承ください。
⑤ 本製品は、日本国内において使用することを目的に製造されています。諸外国では電源仕様などが異なるため使用できません。
また、安全法規制（電波規制や材料規制など）は国によってそれぞれ異なります。本製品および、関連消耗品をこれらの規制に違反して諸外国へ持ち込むと、罰則が科せられることがあります。
⑥ 本製品は、外国為替および外国貿易法および / または米国輸出管理規制に定める「輸出規制貨物」に該当します。つきましては、本品を外国へ輸出する場合には、日本国政府の輸出許可および / または米国政府の再輸出許可を受ける必要があります。

はじめに

このたびはDocuPrint CG835 L IIをお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
DocuPrint CG835 L II（サーバー）は、Adobe PostScriptを使用して、高品質のカラープリントを実現します。DocuPrint CG835 L IIには、ネットワークプリントサーバーとして使用するために必要なソフトウエア、およびハードウエアが準備されています。
本書は、色の調整やプリントの設定など、DocuPrint CG835 L IIをより高度に使いこなすための設定方法や情報が記載されています。なお、富士ゼロックスプリンティングシステムズ（株）の保証範囲は、DocuPrint CG835 L IIの標準構成、およびそのオプション製品に限ります。
本書の内容は、Windows 2000 Professionalの基本的な操作を習得されているかたを対象に、記述しています。

富士ゼロックスプリンティングシステムズ株式会社

目　次

◆はじめに
◆目　次
◆マニュアル体系と本書の読み方

第 1 章　色の調整

1.1 色の調整とは 2
1.1.1 色の調整でできること 2
1.1.2 色調整のヒント 3
1.2 プロファイルを使用したカラーシミュレーションの流れ 5
1.3 キャリブレーションで色を補正する（その 1） 6
1.3.1 キャリブレーションについて 6
1.3.2 キャリブレーション用画像データを用意する 7
1.3.3 自動キャリブレーションデータを作成する 10
1.3.4 測色器キャリブレーションデータを作成する 13
1.3.5 キャリブレーションデータを確認・調整する 17
1.3.6 キャリブレーションデータを割り当てる 19
1.3.7 キャリブレーションの方法を選択する 20
1.3.8 キャリブレーションの確認印刷をする 21
1.4 キャリブレーションで色を補正する（その 2） 22
1.4.1 キャリブレーションチャートをプリントする 22
1.4.2 キャリブレーションチャートをスキャンする 24
1.4.3 サーバーにアップロードする 27
1.4.4 自動キャリブレーションデータを作成する 29
1.4.5 キャリブレーションデータを割り当てる 33
1.4.6 キャリブレーションの方法を選択する 34
1.4.7 キャリブレーションの確認印刷をする 35
1.5 スキャナーの調整 36
1.5.1 スキャナ調整ファイルを作成する 36
1.5.2 スキャナ調整ファイルを削除する 38
1.5.3 サーバーにアップロードする 38
1.6 自動キャリブレーションの精度を向上させたい場合 39
1.7 RGB 用 ICC プロファイルを読み込む 40
1.7.1 RGB 色補正プロファイルを読み込む 40
1.7.2 RGB 色補正プロファイルを割り当てる 42
1.7.3 RGB 出力プロファイルを読み込む 43
1.7.4 RGB 出力プロファイルの名前を変更・削除する 45
1.7.5 RGB 出力プロファイルを割り当てる 45

1.8 CMYK プロファイルを作成する....47
1.8.1 測色データを作成する....48
1.8.2 CMYK プロファイルを作成する....51
1.8.3 CMYK プロファイルを登録する....53
1.9 用意されているカラープロファイルの種類....55
1.10 ユーザー調整カーブを作成する....57
1.10.1 ユーザー調整カーブを作成する....57
1.10.2 ユーザー調整カーブをコピーする....59
1.10.3 ユーザー調整カーブを更新・名前を変更・削除する....59
1.10.4 ユーザー調整カーブを割り当てる....60

第 2 章 プリントの調整と設定

2.1 両面プリントのずれを微調整する....64
2.1.1 両面プリントの微調整をする....64
2.2 プリント濃度のムラを補正する....70
2.2.1 目視による濃度ムラ補正手順の流れ....70
2.2.2 濃度計を使って濃度ムラを補正する....74
2.3 用紙に合わせて転写電圧を調整する....75
2.4 白黒印刷の連続プリント時に用紙間隔を調整する....76
2.5 EPS（JPEG エンコーディング）画像の扱いについて....77
2.6 K オーバープリントの設定....79
2.7 プリントオプションについて....80

第 3 章 リファレンス

3.1 WebManager....82
3.2 StatusMonitor（Macintosh）....88
3.2.1 サーバーに接続する....88
3.2.2 StatusMonitor のウィンドウ....91
3.2.3 StatusMonitor を終了する....96

第 4 章 フォントについて

4.1 市販フォントのインストール....100
4.2 フォント情報の確認とバックアップ....101
4.3 代替フォントの指定....107

第 5 章　その他の情報

5.1 エラージョブメッセージ一覧 110
5.2 プリンタードライバーのインストール 119
5.2.1 Windows 95/98/Me 用プリンタードライバーのインストール 119
5.2.2 Windows NT 4.0 用プリンタードライバーのインストール 124
5.3 Microsoft Windows Network で使用する場合 136
5.4 Windows 2000/XP で共有プリンターを使う場合 139
5.5 Mac OS X から IPP を使う場合 141
5.6 NetWare で使用する場合 142
5.7 TCP/IP からのプリント使用制限の設定 151
5.8 AppleTalk を使用する場合の注意事項 152
5.9 PostScript ファイルを作成する 153
5.9.1 Macintosh の場合 153
5.9.2 Windows の場合 154
5.10 SunRaster と XWD について 157
5.11 ディスプレイの調整 159
5.12 リカバリー CD-ROM の使い方 161
5.13 カスタムサイズの用紙へのプリント 164
5.14 セキュリティに関する設定 166
5.14.1 Administrator のパスワードについて 166
5.14.2 FTP の匿名アクセスについて 167
5.15 使用上のご注意 169
5.16 eye-one_Reader と測色器について 170
5.16.1 eye-one_Reader の操作 170
5.16.2 測色器の使い方 176
5.17 用語集 178

索　引 181

マニュアル体系と本書の読み方

マニュアルの種類

本製品では、次のマニュアルを用意しています。使用目的に合わせてご利用ください。

■お使いいただくために

同梱品のご案内と、箱を開けてから、印刷できるまでのプリンターの設置手順の概要を説明しています。まず、このマニュアルを見て、プリンターの同梱品を確認してください。
そのあと、以下の取扱説明書と合わせて参照しながら、プリンターを設置してください。

■取扱説明書（プリンター編）

プリンター本体の設置手順を説明しています。
また、プリンター本体の電源の入 / 切、用紙のセット方法、紙づまりの処置、消耗品の交換など、日常プリンターを使用するときに必要なことがらについて説明しています。

■取扱説明書（導入編）

DocuPrint CG835 L IIのパッケージに同梱されているハードウエアの接続方法、プリントサーバーとして使用するためのシステムのセットアップ方法、およびDocuPrint CG835 L IIの操作方法について説明しています。「取扱説明書（導入編）の内容」を参照してください。

■取扱説明書（サーバー編）＜本書＞

色の調整やプリントの設定など、DocuPrint CG835 L IIをより高度に使いこなすための設定方法や情報が記載されています。

注記

プリンターに添付 / 同梱されている『お使いいただくために』、『取扱説明書（プリンター編）』に、参照先として『取扱説明書（サーバー編）』と記載されている場合は、本書または『取扱説明書（導入編）』を参照してください。

前提知識と前提条件

本書は、サーバーとして本機を日常で使用するときに読んでいただきたいマニュアルです。本書の内容は、お使いのOSの環境の基本的な知識や操作方法を習得されていることを前提に記述しています。お使いのOSの基本的な知識や操作方法については、OS に付属の説明書をお読みください。また、『取扱説明書(導入編)』をお読みになり、DocuPrint CG835 L IIの基本的な機能や操作方法を理解されていることを前提に、より高度な使用方法を説明しています。
本書を読み始める前に、次の項目を確認してください。

■『取扱説明書（導入編)』の内容を理解していること

■接続対象となる機器やソフトウエアが明確になっていること

■本機を接続するために必要な製品については、販売店やカタログなどからの情報によって、準備できていること

本書の表記

①本文中の「コンピューター」は、パーソナルコンピューター、Macintosh、ワークステーション、ホスト装置の総称です。

②本文中では、説明する内容によって、以下のマークを使用しています。

注記 注意すべき事項を記述しています。必ずお読みください。

補足 補足事項を記述しています。

参照 参照先を記述しています。

③本文中では、以下の記号を使用しています。

参照「　　」：参照先は、本書内です。

参照『　　』：参照先は、本書内ではなく、ほかの説明書です。

「　　」：フォルダ、ファイル、アプリケーション、CD-ROM、機能などの名称や入力文字などを表します。

[　　]：コンピューター上のメニュー、コマンド、ウィンドウやダイアログボックスとそれらに表示されるボタンやメニュー、項目などの名称を表します。

〈　　〉キー：キーボード上のキーを表しています。

④チェックボックスがチェックされている状態をオン、チェックされていない状態をオフで表します。

本書の構成

本書は、以下のような構成になっています。

第 1 章　色の調整

プリンターのキャリブレーション方法とカラープロファイルの作成方法、およびプロファイルを使用したシミュレーションの流れについて説明しています。

第 2 章　プリントの調整と設定

プリント時の各種調整や設定について説明しています。

第 3 章　リファレンス

WebManager や StatusMonitor について説明しています。

第 4 章　フォントについて

市販のフォントのインストールや代替フォントの指定について説明しています。

第 5 章　その他の情報

各種設定や制限事項、リカバリー CD-ROM の使い方などについて説明しています。

取扱説明書（導入編）の内容

第 1 章 サーバーをセットアップしましょう

セットアップの前に
- 同梱品を確認する
- 各部の名称
- サーバーを設置する
- サーバーを起動する / 停止する

サーバー環境を設定する
- IP アドレスを設定する
- Windows 2000 のアカウントを設定する
- AppleTalk で使用する場合
- ServerManager にログインする
- TCP/IP ネットワークで使用する場合
- スタートアップページのプリント

第 2 章 ソフトウエアをインストールしましょう

インストールの前に
- クライアント PC の動作環境
- インストールの方法
- サーバーからダウンロードする場合

Macintosh をお使いの場合
- Mac OS X 用プリンターを作成する
- Macintosh 用プリンタードライバーをインストールする （68K/PowerPC 搭載の Macintosh）

Windows をお使いの場合
- Windows 2000/XP 用のプリンタードライバーをインストールする

便利なソフトウエアをクライアントにインストールする
- Macintosh をお使いの場合
- Windows をお使いの場合
- PageMaker 用 PPD のインストール

市販のフォントをインストールする

第 3 章 プリントしましょう

プリントの基本操作
- 基本的なプリント操作の流れ
- 印刷データをプリントする
- サーバーで印刷データを編集・プリントする
- エラーシートがプリントされたときは
- プリントオプションをカスタマイズする
- サーバーの設定情報をバックアップする

用紙について

第 4 章 便利な機能

色分版合成機能を使って仕上がりを確認する

PDF 受信機能を使う［E メールプリント］
- 環境設定をする
- PDF ファイルを受信する
- 通信状況を確認する
- 通信状況をファイルとして保存する
- 通信状況をプリントする
- プロパティを確認する

FTP を使ってプリントする

カラーパッチやコメントをつける［メモ書き］

DropPrintLite を使ってプリントする

Web ブラウザーで印刷データを管理する（WebManager）
- WebManager ででできること
- WebManager を表示する
- WebManager にログインする
- 印刷データを確認・操作する
- サーバーやプリンターの状況を確認する
- サーバーの設定を確認する
- WebManager 画面からプリントする

第 5 章 リファレンス

プリンタードライバー
- 各タブ共通の項目
- ［ページ］タブ
- ［カラー］タブ
- ［排出指定］タブ
- ［出力指定］タブ
- ［画質］タブ
- ［ユーザー情報］タブ

DropPrintLite

ServerManager
- ServerManager のウィンドウ
- ServerManager の機能ボタン
- ［ジョブ］メニュー

プリントオプション
- ［情報］タブ
- ［ページ］タブ
- ［カラー］タブ
- ［排出指定］タブ
- ［出力指定］タブ
- ［画質］タブ
- ［ユーザー］タブ
- 固有のプリントオプション

第 6 章 困ったときは
エラーウィンドウが表示されたら
エラージョブメッセージ一覧
Q&A
付　録
主な仕様
- 製品の仕様
オプション製品について
- オプション製品の種類
- ハードディスクの取り付け
- 拡張メモリーの取り付け
用語集
『取扱説明書（サーバー編）』（電子マニュアル）の内容
索引

1章 色の調整

1.1　色の調整とは 2
1.2　プロファイルを使用した カラーシミュレーションの流れ 5
1.3　キャリブレーションで色を補正する（その 1）.................... 6
1.4　キャリブレーションで色を補正する（その 2）.................... 22
1.5　スキャナーの調整 36
1.6　自動キャリブレーションの精度を向上させたい場合 39
1.7　RGB 用 ICC プロファイルを読み込む 40
1.8　CMYK プロファイルを作成する 47
1.9　用意されているカラープロファイルの種類 55
1.10　ユーザー調整カーブを作成する 57

この章では、色の調整機能について説明します。

人間の目で色の微妙な違いを判断することは、簡単にはできません。
しかし、スキャナーや測色器を使えば、色をデータとして扱えるので、計算によって自動的に色を安定させる補正をしたり、商業印刷をシミュレーションするカラープロファイルを作成したりできます。

1.1 色の調整とは

色は、表示・入力・出力方法によって、結果が同じように再現されるとは限りません。加えて、プリンターは使用条件、頻度により色再現性が劣化します。そこで、何らかの方法を使って、表示・入力した色と、印刷結果が同じになるように調整する必要があります。それを「色の調整」と呼びます。

1.1.1 色の調整でできること

本機には、色の調整を行うための以下の機能があります。
お使いのシステムや用途に応じてご利用ください。

■プリント結果を安定させるキャリブレーション

プリンターは、使用条件、頻度により色再現性が劣化します。デザインイメージと同じイメージをプリントするには、プリント結果を安定させておくことがポイントになります。
本機には、色再現性の劣化を補正して、プリント結果を安定させるキャリブレーション機能があります。

キャリブレーションは、サーバー、またはクライアント PC に接続されたスキャナーを使って行います。また、測色器を使って行うこともできます。

参照
「1.3 キャリブレーションで色を補正する（その 1)」

■RGB カラープロファイルの作成

モニターやスキャナーで使用した ICC プロファイルを、サーバーのカラープロファイルとして登録できます。このプロファイルを使用してプリントすれば、印刷機に近い色味で校正出力ができます。

参照
「1.7 RGB 用 ICC プロファイルを読み込む」

■CMYK プロファイルの作成

印刷物をターゲットとして印刷シミュレーションをするための、より精度の高い CMYK プロファイルを作成できます。作成には、ICC（International Color Consortium）プロファイルも使用できます。

参照
「1.8 CMYK プロファイルを作成する」

■CMYK プロファイルを使った印刷シミュレーション

CMYK プロファイル作成機能で作成したプロファイル、または標準で用意しているプロファイルを指定して、オフセット印刷の色味をシミュレーションできます。
また、印刷会社、デザイン会社やクライアントなど環境が違っても、それぞれをサーバーに登録しておけば、切り替えて色味をシミュレーションできます。

参照
「1.2 プロファイルを使用した カラーシミュレーションの流れ」

■ユーザー調整カーブによる CMYK 調整

ユーザー調整カーブを作成すれば、CMYK それぞれの色の濃度を自由に調整できます。

参照
「1.10 ユーザー調整カーブを作成する」

1.1.2 色調整のヒント

入力、表示、そして出力にいたるまで、一貫して正確な色を保持することは簡単なことではありません。色と印刷についての知識を学ぶことも必要になるでしょう。
ここでは、色調整を成功させるためのヒントをいくつか用意しました。期待どおりのプリント結果が得られなかったときや、ワークフローを見直すときの参考にしてください。

印刷会社との打ち合わせ

プロセス校正や印刷物のような CMYK 出力の場合は、紙質やインク、印刷方法、環境要素もあいまって、色再現の領域が変化します。また、印刷機ごとに、使用すべきスクリーン線数や角度、網点などの設定は異なります。印刷会社と十分に打ち合わせをしてください。

ICC プロファイルと、その他のプロファイル

必ずしも ICC プロファイルを使う必要はありませんが、使用するとカラー管理が簡単になります。より厳密なカラーシミュレーションを行う場合は、測色データを作成することをお勧めします。

ユーザー調整カーブの活用

ユーザー調整カーブは、キャリブレーション機能と分離されているうえ、CMYK それぞれの色の濃度を調整できます。カーブを操作するだけで、明るさや色調を自由に変えることができます。ユーザー調整カーブを活用してください。

入力機器と出力機器の補正

モニター、スキャナー、およびプリンターの性能は、時間が経つと変化します。デバイスのキャリブレーションは、色の調整において重要なプロセスのひとつです。アプリケーションの操作を始める前に、必ず行ってください。

アプリケーションとプリントオプションの設定

プリントオプションの項目に、設定忘れはありませんか？ また、アプリケーションの RGB、CMYK、および ICC プロファイル設定情報に、誤りはありませんか？ 付属のマニュアルを参照して、もう一度確認してください。

測色をするときの注意

測色器のキャリブレーションや測色方法は、カラーシミュレーションの精度に大きく影響します。測色器に関する情報をお読みのうえ、正しくご利用ください。

色パッチの確認

印刷された各パッチに、汚れや色ムラがないことを確認します。汚れなどがあった場合は、印刷会社に再度印刷してもらってください。

1.2 プロファイルを使用したカラーシミュレーションの流れ

プロファイルを使用したカラーシミュレーションの流れを説明します。

デバイスを調整

Step1

スキャナーを調整します。

参照「1.5 スキャナーの調整」

プリンターをキャリブレーション

Step2

プリンターのキャリブレーションをします。

参照「1.3 キャリブレーションで色を補正する（その1）」

プロファイルの用意

Step3

ICCプロファイルを読み込みます。
プロファイルを用意するか、
サーバーで作成します。

参照「1.6」～「1.8」の各節

ジョブの編集と最終チェック

Step4

クライアントからジョブを送信。
サーバーでジョブを最終チェックします。

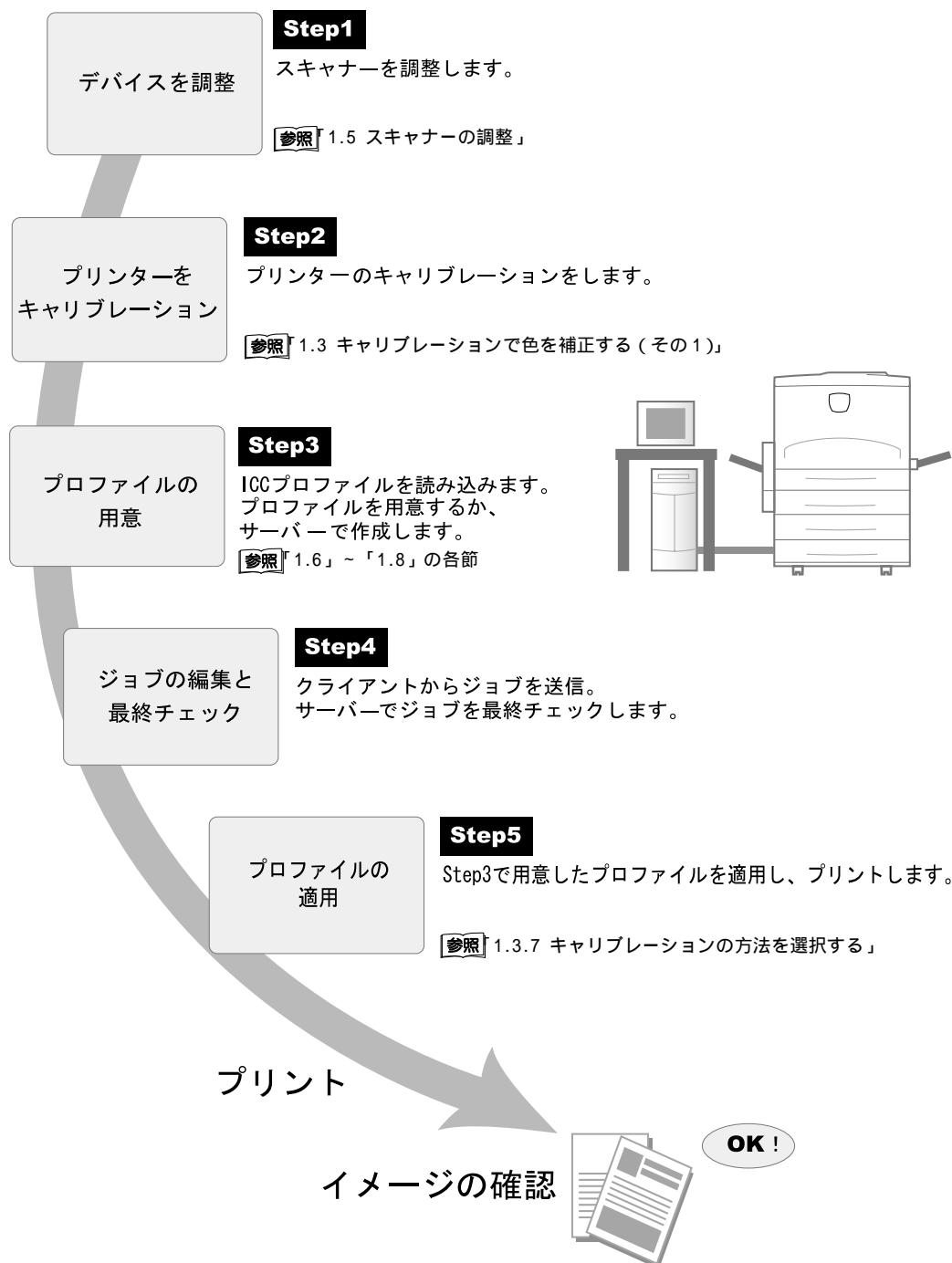
プロファイルの適用

Step5

Step3で用意したプロファイルを適用し、プリントします。

参照「1.3.7 キャリブレーションの方法を選択する」

プリント

イメージの確認

1.3 キャリブレーションで色を補正する（その1）

キャリブレーションを使用した色補正について説明します。

1.3.1 キャリブレーションについて

キャリブレーションとは

プリンターは、使用環境やプリント枚数などによって、プリントされる色が変化してしまいます。キャリブレーションとは、このような変化を補正する機能です。
作成したキャリブレーションデータを、任意の用紙トレイに割り当てます。

注記
キャリブレーション中は、受信印刷データはRIP処理されません。

キャリブレーションの種類

DocuPrint CG835 L IIでは、次のような方法でキャリブレーションができます。

■自動キャリブレーション

キャリブレーションチャートを、サーバー、またはクライアントPCに接続されたスキャナーから読み込む方法です。以下のスキャナーが使用できます。

＜サーバーに直接接続されたスキャナー＞
- **EPSON ES-10000G**
- **EPSON ES-8500**
- **EPSON ES-2200**

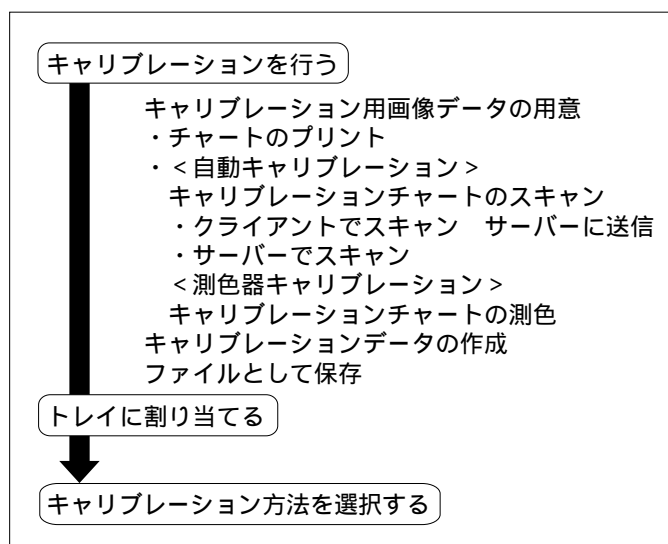
＜クライアントPCに接続されたスキャナー＞
- **DocuColor 1255（Print Server接続機）**
- **EPSON GT-9700F**
- **EPSON ES-10000G**
- **EPSON ES-8500**
- **EPSON ES-2200**

■測色器キャリブレーション

測色器を使って、キャリブレーションチャートを測る方法です。

キャリブレーションの流れ

キャリブレーションの流れについて説明します。

注記
正しいキャリブレーション結果を得るためには、自動キャリブレーションを行う前に「1.5 スキャナーの調整」を参照して、スキャナーを調整してください。

参照
EPSON GT-9700F および EPSON ES-2200 をクライアント PC に接続して、キャリブレーションを行う手順は、「1.4 キャリブレーションで色を補正する（その 2）」をご覧ください。

1.3.2　キャリブレーション用画像データを用意する

まず、キャリブレーションチャートをサーバー、またはクライアント PC に接続されているスキャナーでスキャンします。または、Eye-One を使って測色します。ここでは、自動キャリブレーションの画面を例に、キャリブレーション用画像データを用意する手順を説明します。

補足
- キャリブレーションチャートをプリントするため､用紙トレイにA4サイズ以上の用紙をあらかじめセットしておきます。
- キャリブレーションには、J 紙（弊社標準紙）を使用してください。

操作手順

1 **スキャナーを使用してキャリブレーションをする場合は、［カラー調整］メニューから［自動キャリブレーション］を選択します。測色器を使用する場合は、［測色器キャリブレーション］を選択します。**

［自動キャリブレーション］または［測色器キャリブレーション］ダイアログボックスが表示されます。

補足

自動キャリブレーションの場合は、 ボタンをクリックしても［自動キャリブレーション］ダイアログボックスを表示できます。

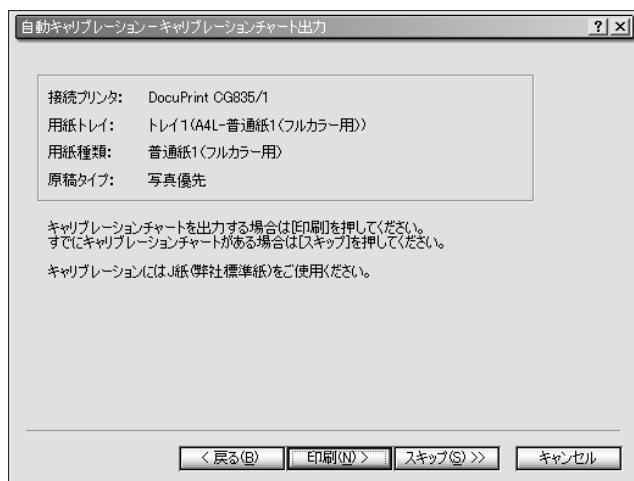
2 **［接続プリンタ］から、キャリブレーションをするプリンターを選択し、［新規作成］をクリックします。**

［自動キャリブレーション - 出力設定］ダイアログボックスが表示されます。

3 **出力する［トレイ］、［原稿タイプ］、［排出先］を指定し、［次へ］をクリックします。**

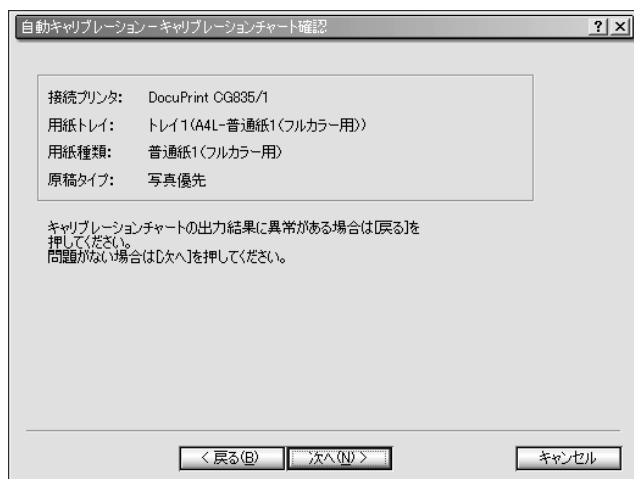
補足

プリントオプションで、［原稿タイプ］から［文字 / 写真（写真優先）］を選択した場合は、［写真優先］に割り当てられたキャリブレーションデータが使用されます。［文字 / 写真（文字優先）］を選択した場合は、［文字優先］に割り当てられたキャリブレーションデータが使用されます。

［自動キャリブレーション - キャリブレーションチャート出力］ダイアログボックスが表示されます。

4 **設定した内容を確認し、［印刷］をクリックします。**

しばらくすると、はじめにマシン調整シート（キャリブレーションでは使用しません）がプリントされ、続いてキャリブレーションチャートがプリントされます。

［自動キャリブレーション - キャリブレーションチャート確認］ダイアログボックスが表示されます。

注記

プリントされたキャリブレーションチャートの各パッチに、汚れや色ムラがないことを確認してください。汚れなどがあった場合は、再度プリントしてください。

5 **キャリブレーションチャートが正しくプリントされていることを確認します。**

6 **キャリブレーションチャートをクライアントPCに接続されているスキャナーでスキャンする場合は、[自動キャリブレーション - キャリブレーションチャート確認］ダイアログボックスの［キャンセル］をクリックして作業を中断します。**

参照
クライアント PC に接続されているスキャナーでキャリブレーションチャートをスキャンする方法については、「1.5 スキャナーの調整」を参照してください。

キャリブレーションチャートをサーバーに直接接続されているスキャナーでスキャンする場合は、[自動キャリブレーション - キャリブレーションチャート確認］ダイアログボックスの［次へ］をクリックして、後述の「1.3.3 自動キャリブレーションデータを作成する」の手順 3 に進みます。

キャリブレーションチャートを Eye-One で測色する場合は、「1.3.4 測色器キャリブレーションデータを作成する」の手順 3 に進みます。

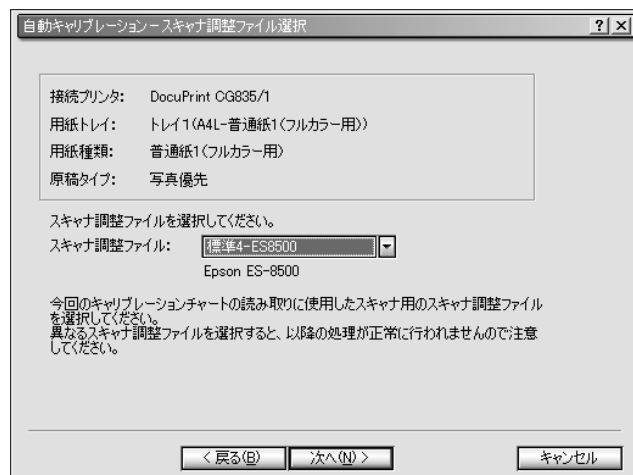
1.3.3　自動キャリブレーションデータを作成する

操作手順

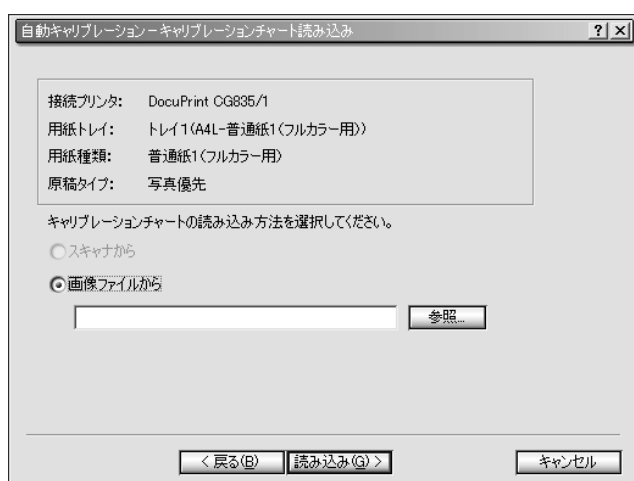
1 **前述の「1.3.2 キャリブレーション用画像データを用意する」の手順 1 〜 3 までを実行します。**

［自動キャリブレーション - キャリブレーションチャート出力］ダイアログボックスが表示されます。

2 **ここでは、キャリブレーションチャートをプリントする必要がないので、[スキップ］をクリックします。**

［自動キャリブレーション - スキャナ調整ファイル選択］ダイアログボックスが表示されます。

3 ［スキャナ調整ファイル］を選択し、［次へ］をクリックします。

注記
- スキャナ調整ファイルには、使用しているスキャナーに合ったファイルを選択してください。
- 一度もスキャナーの調整を行っていない場合は、標準ファイルの中から、使用するスキャナーに対応するファイルを選択してください。

［自動キャリブレーション - キャリブレーションチャート読み込み］ダイアログボックスが表示されます。

4 サーバーに接続されたスキャナーから読み込む場合は、［スキャナから］を選択します。

クライアント PC に接続されたスキャナーで、スキャンしたキャリブレーションチャートを読み込む場合は、［画像ファイルから］を選択します。

補足

［スキャナから］は、［サーバーの環境設定］の［スキャン］タブで、［スキャナを使う］チェックボックスがオンになっているときに選択できます。

5 ［スキャナから］を選択した場合は、プリントされたキャリブレーションチャートをスキャナーにセットします。

補足
- キャリブレーションチャートの上に白紙を 5 枚以上重ねて置いてください。
- DocuColor 1255 の場合は、チャートの上部（天）をコピーガラスの左側に、左辺を奥の辺に合わせて置きます。EPSON 社のスキャナーの場合は、「1.4 キャリブレーションで色を補正する（その 2）」を参照してください。

［画像ファイルから］を選択した場合は、［参照］をクリックしてキャリブレーションチャートの画像ファイルを指定します。

補足

DropPrintLite を使ってサーバーに送信された画像ファイル（TIFF）は、「D:\Fuji Xerox\Print Server Series\cpsi\ColorProfile\Calibration\DPCG835_1\AutoCalibration」フォルダに保存されています。

6 ［読み込み］をクリックします。

補足

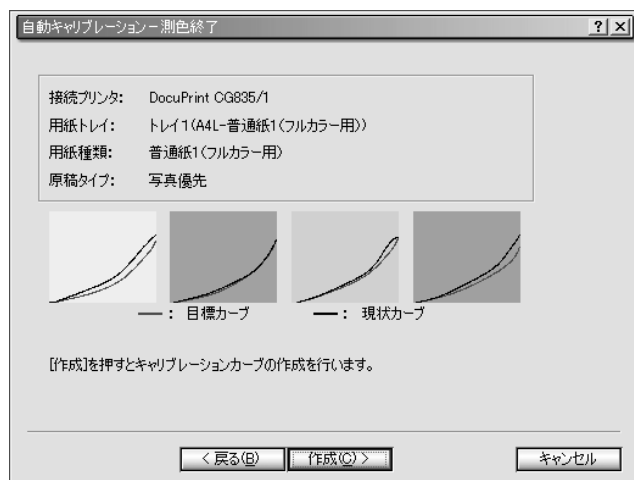
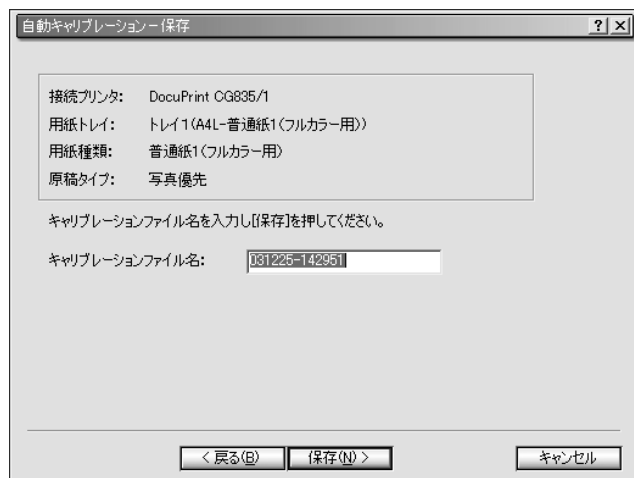
キャリブレーションチャートから読み取られたパッチ濃度の状態によっては、プリンターの濃度調整を行う必要があります。この場合には、自動的に濃度調整を行う画面になるので、指示に従って濃度調整を行ってください。そのあとで、自動キャリブレーションを最初からやり直してください。濃度調整についての詳細は、後述の「●●● プリンターの濃度を調整する」を参照してください。

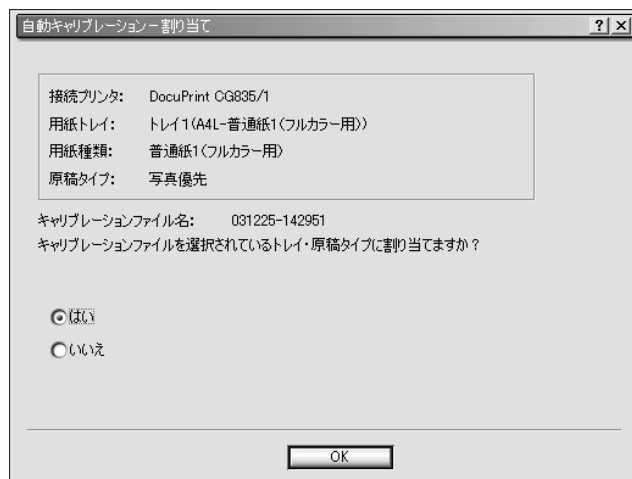
測色が始まります。
測色が終了すると、［自動キャリブレーション - 測色終了］ダイアログボックスが表示されます。

7 ［作成］をクリックします。

測色した結果を保存するための［自動キャリブレーション - 保存］ダイアログボックスが表示されます。

8　［キャリブレーションファイル名］にファイル名を入力し、［保存］をクリックします。

補足

ファイル名のデフォルトは、「YYMMDD-HHMMSS」です。

［自動キャリブレーション - 割り当て］ダイアログボックスが表示されます。

9　キャリブレーションファイルを、選択しているトレイ、および原稿タイプに割り当てるかどうかを選択し、［OK］をクリックします。

測色した結果が新しいキャリブレーションファイルとして保存され、［自動キャリブレーション］ダイアログボックスに戻ります。ダイアログボックスを閉じるときは、［終了］をクリックします。

引き続き、「1.3.6 キャリブレーションデータを割り当てる」に進んでください。

1.3.4　測色器キャリブレーションデータを作成する

測色器を使って、キャリブレーションを行う手順について説明します。

注記

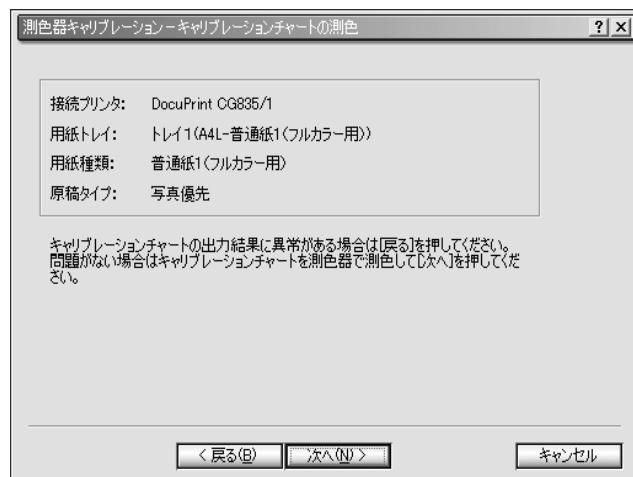
- 測色器の使い方には注意事項があります。測色を始める前に「5.16 eye-one_Reader と測色器について」を参照してください。
- 測色データ形式は、［三刺激値（CIELAB)］を選択してください。

操作手順

1　前述の「1.3.2 キャリブレーション用画像データを用意する」の手順 1 ～ 3 までを実行します。

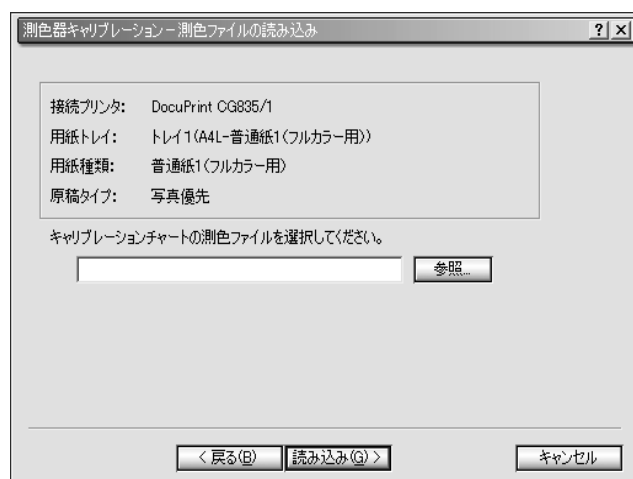
［測色器キャリブレーション - キャリブレーションチャート出力］ダイアログボックスが表示されます。

2　ここでは、キャリブレーションチャートをプリントする必要がないので、[スキップ] をクリックします。

［測色器キャリブレーション - キャリブレーションチャートの測色］ダイアログボックスが表示されます。

3　キャリブレーションチャートを Eye-One を使って測色し、[次へ] をクリックします。

参照

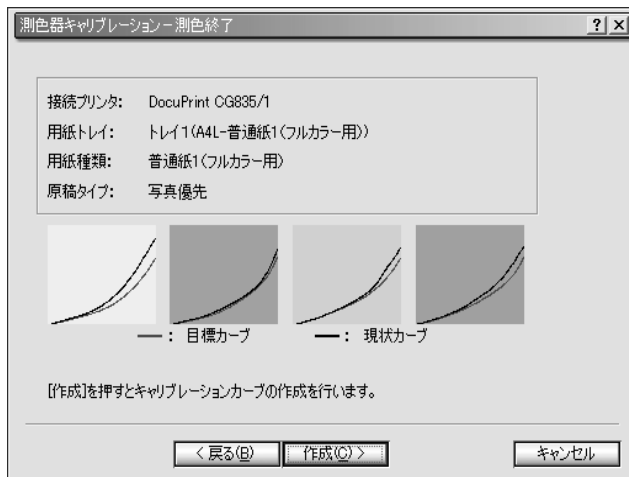
Eye-One の使い方については、「5.16 eye-one_Reader と測色器について」を参照してください。

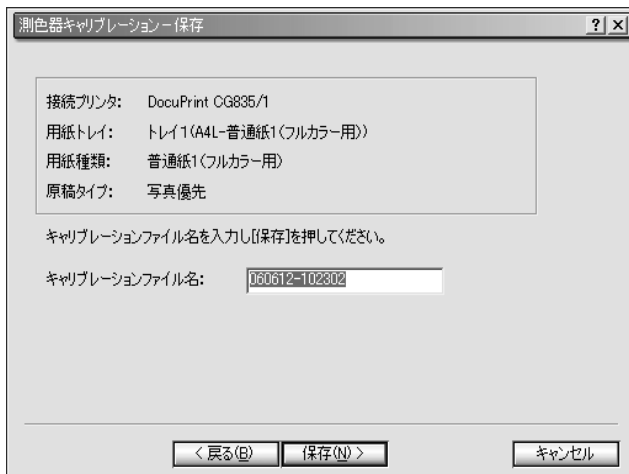
［測色器キャリブレーション - 測色ファイルの読み込み］ダイアログボックスが表示されます。

4　[参照] をクリックし、作成した測色ファイルを指定します。

5 ［読み込み］をクリックします。

補足

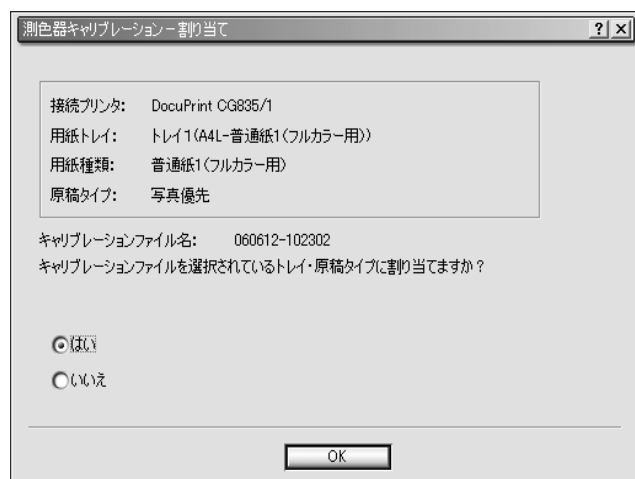
測色ファイルから読み取られたパッチ濃度の状態によっては、プリンターの濃度調整を行う必要があります。この場合には、自動的に濃度調整を行う画面になるので、指示に従って濃度調整を行ってください。そのあとで、測色器キャリブレーションを最初からやり直してください。濃度調整についての詳細は、後述の「 プリンターの濃度を調整する」を参照してください。

測色が始まります。
測色が終了すると、［測色器キャリブレーション - 測色終了］ダイアログボックスが表示されます。

6 ［作成］をクリックします。

測色した結果を保存するための［測色器キャリブレーション - 保存］ダイアログボックスが表示されます。

7 **［キャリブレーションファイル名］にファイル名を入力し、［保存］をクリックします。**

補足

ファイル名のデフォルトは、「YYMMDD-HHMMSS」です。

［測色器キャリブレーション - 割り当て］ダイアログボックスが表示されます。

8 **キャリブレーションファイルを、選択しているトレイ、および原稿タイプに割り当てるかどうかを選択し、［OK］をクリックします。**

測色した結果が新しいキャリブレーションファイルとして保存され、［測色器キャリブレーション］ダイアログボックスに戻ります。ダイアログボックスを閉じるときは、［終了］をクリックします。

引き続き、「1.3.6 キャリブレーションデータを割り当てる」に進んでください。

1.3.5 キャリブレーションデータを確認・調整する

キャリブレーションデータを確認したり、プリンターの濃度調整を行う方法について説明します。

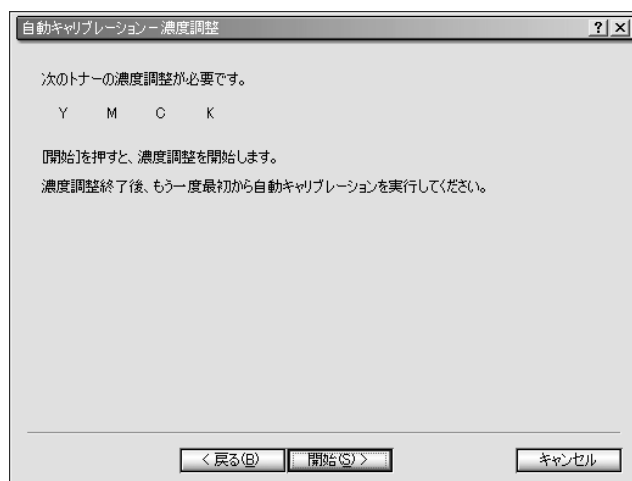
キャリブレーションデータを確認する

過去に作成したキャリブレーションデータと、現在のプリンターの状態を比較できます。
キャリブレーションデータを確認したい場合は、［カラー調整］メニューから［自動キャリブレーション］/［測色器キャリブレーション］を選択し、［確認］をクリックします。
表示されたダイアログボックスで、［キャリブレーションファイル］から現在と比較するデータを選択し、［確認］をクリックします。

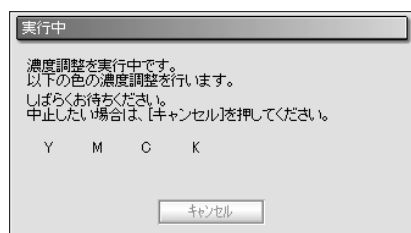
参照

［確認］をクリックすると、［自動キャリブレーション - 出力設定］/［測色器キャリブレーション - 出力設定］ダイアログボックスが表示されます。以降の操作については、「1.3.3 自動キャリブレーションデータを作成する」の手順 6、「1.3.4 測色器キャリブレーションデータを作成する」の手順 5 まで同様です。前項の手順を参照してください。なお、［確認］をクリックしたときのマシンの状態によって、マシン調整シートは出力されない場合もあります。
測色した CMYK の色結果を表す、［自動キャリブレーション - 測色終了］/［測色器キャリブレーション - 測色終了］ダイアログボックスが表示されたら、［OK］をクリックします。

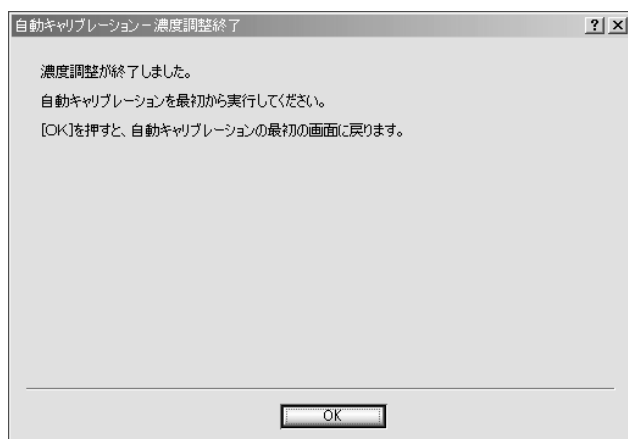
プリンターの濃度を調整する

キャリブレーションチャートから読み取られたパッチ濃度に問題があった場合には、プリンターの濃度調整を行います。
濃度調整が必要な場合は、［自動キャリブレーション - キャリブレーションチャート読み込み］/［測色器キャリブレーション - 測色ファイルの読み込み］ダイアログボックスで［読み込み］をクリックしたときに、［自動キャリブレーション - 濃度調整］/［測色器キャリブレーション - 濃度調整］ダイアログボックスが表示され、濃度調整が必要なトナーの色が表示されます。
［開始］をクリックすると、濃度調整が始まります。濃度調整が終了するまでは、プリンターの電源を切らないでください。

補足

［自動キャリブレーション - 濃度調整］で、［戻る］をクリックすると［キャリブレーションチャートの読み込み］ダイアログボックスに戻ります。
また、［キャンセル］をクリックすると、［自動キャリブレーション］ダイアログボックスの画面に戻ります。

濃度調整の実行中は、次のような進捗状況を示す画面が表示されます。

注記

濃度調整には、数分かかります。濃度調整を行うトナーの数によって、時間は異なります。

濃度調整が終了すると、次の画面が表示されます。[OK］をクリックするとキャリブレーションの画面に戻るので、キャリブレーションをやり直してください。

注記
キャリブレーションは、キャリブレーションチャートの出力からやり直してください。

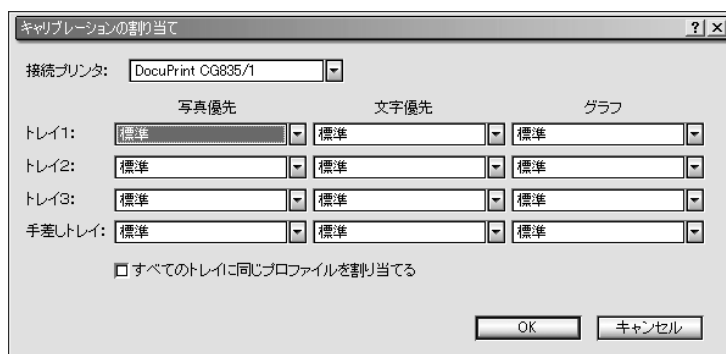
1.3.6　キャリブレーションデータを割り当てる

作成したキャリブレーションデータをプリントに適用するには、用紙トレイに割り当てる必要があります。
トレイごとに、原稿タイプに合わせたキャリブレーションデータの割り当てができます。

補足
1 つのキャリブレーションデータを、複数のトレイに割り当てることもできます。

操作手順

1　[カラー調整] メニューから [キャリブレーションの割り当て] を選択します。

［キャリブレーションの割り当て］ダイアログボックスが表示されます。

2　[接続プリンタ] から、キャリブレーションデータを割り当てるプリンターを選択します。

3 **［トレイ1］～［トレイ3］、または［手差しトレイ］で、作成したデータを選択し、［OK］をクリックします。**

補足
［すべてのトレイに同じプロファイルを割り当てる］をチェックすると、各原稿タイプで［トレイ1］だけがキャリブレーションデータを選択可能になり、［トレイ1］に割り当てたキャリブレーションデータが［トレイ2］、［トレイ3］、［手差しトレイ］にも割り当てられます。キャリブレーションデータをひとつだけ使う場合はここをチェックします。

作成したキャリブレーションデータをプリントに反映するときは、キャリブレーション方法を選択する必要があります。
引き続き「1.3.7 キャリブレーションの方法を選択する」に進んでください。

1.3.7 キャリブレーションの方法を選択する

キャリブレーションの結果を適用するためには、キャリブレーション方法を選択する必要があります。

操作手順

1 **［カラー調整］メニューから、［キャリブレーション方法の選択］を選択します。**
［キャリブレーション方法の選択］ダイアログボックスが表示されます。

2 **［接続プリンタ］から、対象になるプリンターを選択します。**

3 **［通常プロファイル］の［キャリブレーション］を選択し、［OK］をクリックします。**

■通常プロファイル
通常のプリント処理に、キャリブレーション結果を適用します。
デフォルトは、［なし］です。

1.3.8 キャリブレーションの確認印刷をする

作成したキャリブレーションデータをサンプルに適用したものと、何も適用しないものの 2 枚がプリントされます。
2 枚のプリント結果を比較することで、キャリブレーションの効果を確認できます。

色の調整
1

操作手順

1 ［カラー調整］メニューから、［キャリブレーション確認印刷］を選択します。

［キャリブレーションの効果の確認］ダイアログボックスが表示されます。

2 ［接続プリンタ］から、対象になるプリンターを選択します。

3 確認したいキャリブレーションデータが割り当てられている［トレイ］、［原稿タイプ］、［排出先］を選択し、［印刷］をクリックします。

初めにキャリブレーションが適用されていないサンプルが、続いて、選択したキャリブレーションデータが適用されたサンプルがプリントされます。

4 ［終了］をクリックします。

1.4 キャリブレーションで色を補正する（その 2）

ここでは、EPSON GT-9700F および EPSON ES-2200 を利用した、自動キャリブレーションの手順について説明しています。
自動キャリブレーションは、以下の手順で実施します。

① キャリブレーションチャートのプリント(DocuPrint CG835 LⅡで実施します)
② チャートのスキャン (クライアント PC で実施します)
③ サーバーへのアップロード (クライアント PC で実施します)
④ スキャナ調整ファイルの作成 (DocuPrint CG835 L Ⅱで実施します)
⑤ 自動キャリブレーションデータの作成 (DocuPrint CG835 L Ⅱで実施します)
⑥ キャリブレーションデータの割り当て (DocuPrint CG835 L Ⅱで実施します)
⑦ キャリブレーション方法の選択 (DocuPrint CG835 L Ⅱで実施します)
⑧ キャリブレーション確認印刷 (DocuPrint CG835 L Ⅱで実施します)

EPSON ES-10000G、EPSON ES-8500 もクライアント PC に接続してスキャンできます。この場合は EPSON Scan での使用になります。設定については、「1.4.2 キャリブレーションチャートをスキャンする」の手順 3 の注記を参照してください。
初めて自動キャリブレーションを行う場合や、より正確にキャリブレーションする場合は、スキャナ調整を実施してください。スキャナ調整については「1.5 スキャナーの調整」を参照してください。

1.4.1 キャリブレーションチャートをプリントする

キャリブレーションチャートをプリントする手順について説明します。

補足

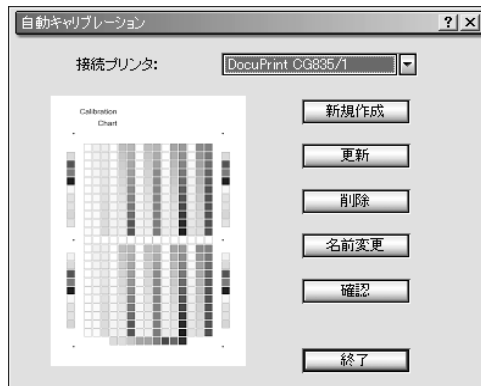
- キャリブレーションチャートをプリントするため、用紙トレイにA4サイズ以上の用紙をあらかじめセットしておきます。
- キャリブレーションには、J 紙 (弊社標準紙) を使用してください。

操作手順

1 [FX_ServerManeger] ウィンドウの ボタンをクリックします。

［自動キャリブレーション］ダイアログボックスが表示されます。

補足

［カラー調整］メニューから［自動キャリブレーション］を選択しても、［自動キャリブレーション］ダイアログボックスを表示できます。

2 **［接続プリンタ］から、キャリブレーションをするプリンターを選択し、［新規作成］をクリックします。**

［自動キャリブレーション - 出力設定］ダイアログボックスが表示されます。

3 **出力する [トレイ]、[原稿タイプ]、[排出先］を指定し、[次へ] をクリックします。**

[自動キャリブレーション - キャリブレーションチャート出力] ダイアログボックスが表示されます。

4　設定した内容を確認し、[印刷] をクリックします。

しばらくすると、はじめにマシン調整シート (キャリブレーションでは使用しません) がプリントされ、続いてキャリブレーションチャートがプリントされます。

注記
- プリントされたキャリブレーションチャートの各パッチに、汚れや色ムラがないことを確認してください。汚れなどがあった場合は、再度プリントしてください。
- キャリブレーションチャートは A4 サイズ以上の用紙にプリントしてください。
- キャリブレーションには、J 紙（弊社標準紙）を使用してください。

5　キャリブレーションチャートが正しくプリントされていることを確認したら、[自動キャリブレーション - キャリブレーションチャート確認] ダイアログボックスの [キャンセル] をクリックして作業を中断し、そのチャートをクライアント PC に接続されているスキャナーでスキャンします。

これで、キャリブレーションチャートのプリントは完了です。引き続き、出力したキャリブレーションチャートをスキャンし、キャリブレーション用画像ファイルの準備をします。

1.4.2　キャリブレーションチャートをスキャンする

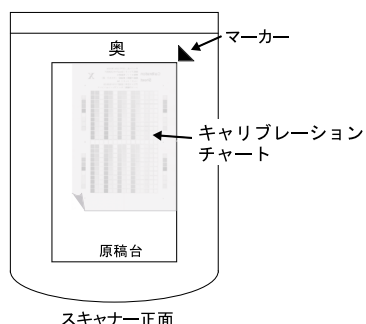
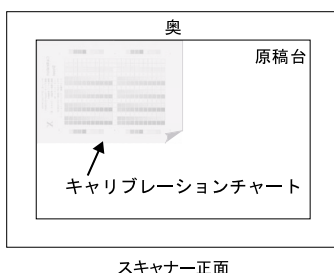
ここでは Photoshop からチャートをスキャンする手順を例に説明します。

注記
スキャナーで設定する項目が表示される画面は、ドライバーのバージョンによって異なります。

操作手順

1　スキャンするチャートを、スキャナーの原稿台の上にセットします。
このとき、チャートはおもて面を下にして置いてください。EPSON ES-2200 の場合は、チャートの上部（天）を原稿台の奥に、左辺を右側に合わせて置きます。EPSON ES-10000G、ES-8500 の場合は、チャートの上部（天）を原稿台の左側に、左辺を奥に合わせて置きます。詳細については、スキャナーに付属の取扱説明書を参照してください。

<ES-2200 の場合 >

<ES-10000G、ES-8500 の場合 >

注記

キャリブレーションチャートをスキャンする場合は、チャートの上に白紙を 5 枚以上重ねて置いてください。

2 **Photoshop の [ファイル] メニューから、GT-9700F の場合は [読み込み] → [EPSON TWAIN 5]、ES-2200 の場合は [読み込み] → [EPSON TWAIN Pro] を選択します。**

GT-9700F の場合は [EPSON TWAIN 5] ウィンドウが、ES-2200 の場合は [EPSON TWAIN Pro] ウィンドウが表示されます。

注記

ES-2200 では、[EPSON Scan] ウィンドウが表示される場合があります。

3 **[原稿種] を「原稿台」に設定します。GT-9700F の場合は、[アンシャープマスク] を [Off] に設定します。**

<GT-9700F の場合 >

<ES-2200 の場合 >

注記

ES-2200 で、[EPSON Scan] ウィンドウが表示される場合は、次の項目を設定してください。その場合、手順 4 と 5 の操作は不要です。手順 6 へ進んでください。

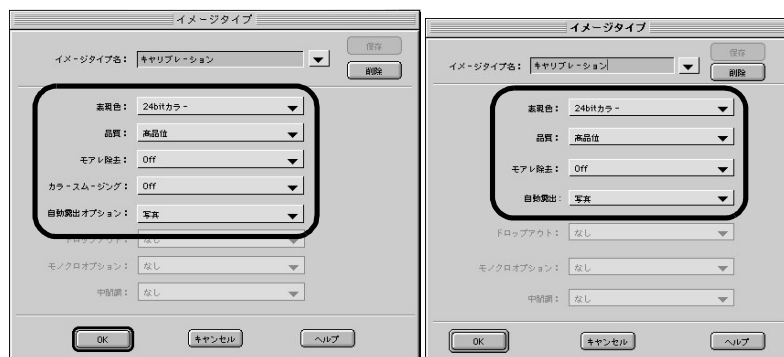
モード：プロフェッショナルモード

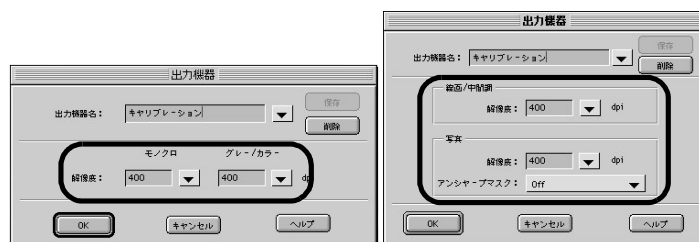
原稿種：反射原稿	取込装置：原稿台	自動露出：写真向き
イメージタイプ：24bit カラー	品質：高品位	解像度：400dpi
出力サイズ：等倍	幅：210.0	高さ：297.0
ズーム：100%	トリミング：なし	アンシャープマスクフィルタ：OFF

モアレ除去フィルタ：OFF

4 **[イメージタイプ] をクリックし、各項目を次のように設定します。[イメージタイプ名] は任意に付けてください。[イメージタイプ名] に日付などの名称を付けると、後で確認するときに便利です。**

- **表現色：24bit カラー**
- **品質：高品位**
- **モアレ除去：Off**
- **カラースムージング：Off(ES-2200 の場合は、この項目の設定は不要です)**
- **自動露出オプション:写真(ES-2200の場合は､項目名は[自動露出]になります)**

<GT-9700F の場合 >　　**<ES-2200 の場合 >**

5 **[出力機器] をクリックし、GT-9700F の場合は [解像度：モノクロ] と [解像度：グレー / カラー] を [400]dpi に設定します。**
ES-2200 の場合は [解像度：線画 / 中間調] と [解像度：写真] を [400]dpi に、[アンシャープマスク] を [Off] に設定します。

<GT-9700F の場合 >　　**<ES-2200 の場合 >**

設定終了後、GT-9700F の場合は [EPSON TWAIN 5] で、ES-2200 の場合は [EPSON TWAIN Pro] ウィンドウで、解像度が 400dpi に設定されていることを確認してください。

6 **[環境設定] をクリックし、[カラー] 画面の色補正方法の選択で [色補正なし] を設定します。**

7 **[OK] をクリックします。**

8 **[プレビュー] をクリックします。**
原稿が読み込まれ、ウィンドウの右側にプレビュー表示されます。
正しく読み込まれているかどうかを確認してください。
Gray Scale Target をスキャンした場合は、チャートの大きさに合わせてマウスでドラッグして、取り込む範囲を指定することもできます。

9 **[取り込み] をクリックします。**
原稿が読み込まれ、アプリケーションのウィンドウにスキャンしたイメージデータが表示されます。

10 **Photoshop で [ファイル] → [別名で保存] を選択します。**
任意のファイル名を付けて、TIFF 形式で保存します。
TIFF オプションでは、[バイトデータの順序] を [IBM PC] にし、[LZW 圧縮] のチェックボックスは、オフにします。

これで、キャリブレーション用画像ファイルの準備は完了です。引き続き、保存したファイルをサーバーへアップロードします。

1.4.3 サーバーにアップロードする

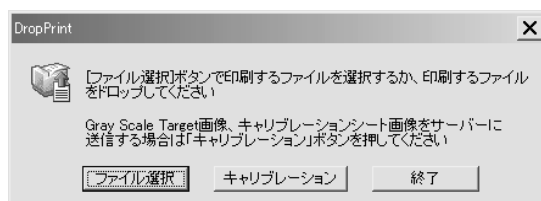
サーバーにキャリブレーション用画像ファイルを送信するには、DropPrintLite を使います。DropPrintLite の起動方法は、Windows と Macintosh で異なります。

補足
クライアント PC に DropPrintLite がインストールされていない場合は、『取扱説明書（導入編）』を参照してインストールしてください。

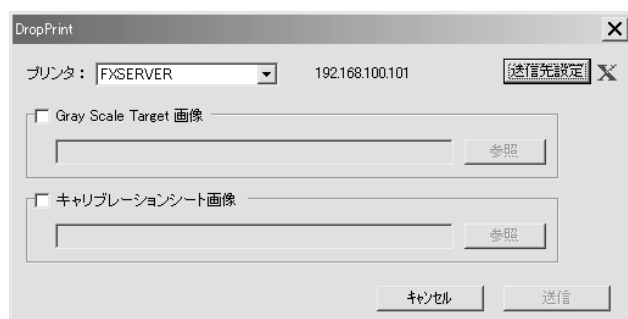
Windows の場合

操作手順

1 **［スタート］→［プログラム］→［Fuji Xerox］→［DocuPrint CG835 L II］→［DropPrintLite］を選択します。**

DropPrintLite の起動ダイアログボックスが表示されます。

2 **[キャリブレーション]をクリックします。**

画像を選択するダイアログボックスが表示されます。

補足

［プリンタ］が選択できない場合は、［送信先設定］ボタンをクリックして、送信先にサーバーを登録する必要があります。

3 **サーバーにアップロードする画像のチェックボックスをオンにし、[参照]をクリックしてサーバーに送信するファイル名を指定します。**

4 **[送信]をクリックします。**

指定した画像が、サーバーに送信されます。

DropPrintLiteを終了する場合は、起動ダイアログボックスで［終了］をクリックします。

Macintosh の場合

操作手順

1 **クライアントの[Print Server Series]フォルダ内の[DropPrintLite]フォルダをダブルクリックします。**

［Print Server Series］フォルダは、インストール時に作成されたフォルダです。

［DropPrintLite］フォルダの内容が表示されます。

2　[FXPSS DropPrintLite］をダブルクリックします。

DropPrintLite が起動します。

3　［ファイル］メニューから［キャリブレーション］を選択します。

画像ファイルを選択するダイアログボックスが表示されます。

補足

［プリンタ］が選択できない場合は、［送信先設定］ボタンをクリックして、送信先にサーバーを登録する必要があります。

4　サーバーにアップロードする画像のチェックボックスをオンにし、[参照］をクリックしてサーバーに送信するファイル名を指定します。

5　[送信］をクリックします。

指定した画像が、サーバーに送信されます。

DropPrintLite　を終了する場合は、［ファイル］メニューから［終了］を選択します。<Command>+<Q> キーでも終了できます。

これで、サーバーへのアップロードは完了です。
自動キャリブレーションを行う場合は「1.4.4 自動キャリブレーションデータを作成する」へ進んでください。

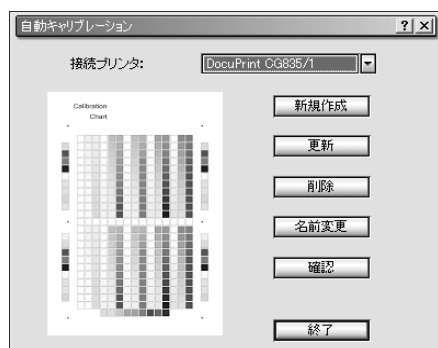
1.4.4　自動キャリブレーションデータを作成する

操作手順

1　[FX_ServerManeger] ウィンドウの ボタンをクリックします。

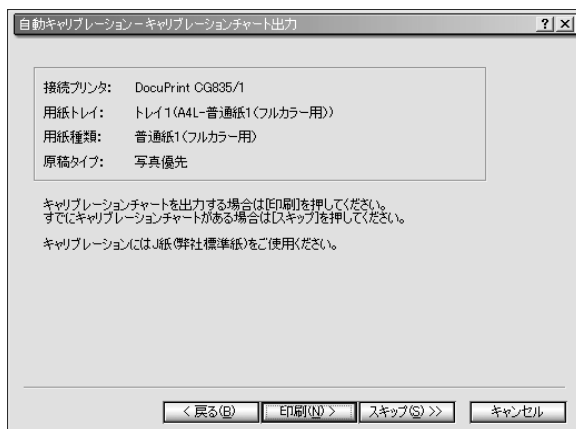
[自動キャリブレーション] ダイアログボックスが表示されます。

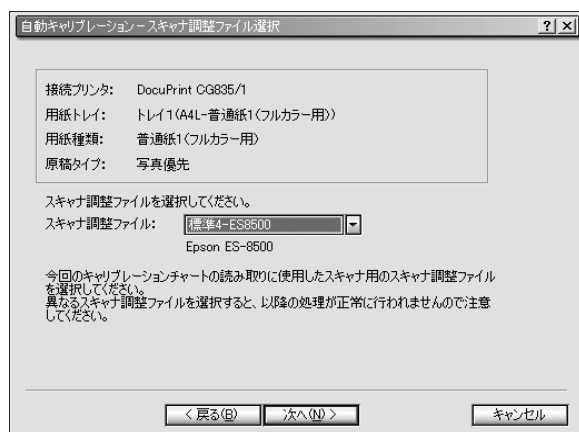
補足

[カラー調整] メニューから [自動キャリブレーション] を選択しても、[自動キャリブレーション] ダイアログボックスを表示できます。

2 **[接続プリンタ] から、キャリブレーションをするプリンターを選択し、[新規作成] をクリックします。**

[自動キャリブレーション - 出力設定] ダイアログボックスが表示されます。

3 **出力する [トレイ]、[原稿タイプ]、[排出先] を指定し、[次へ] をクリックします。**

[自動キャリブレーション - キャリブレーションチャート出力] ダイアログボックスが表示されます。

4　**ここでは、キャリブレーションチャートをプリントする必要がないので、[スキップ] をクリックします。**

[自動キャリブレーション - スキャナ調整ファイル選択] ダイアログボックスが表示されます。

5　**［スキャナ調整ファイル］を選択し、［次へ］をクリックします。**

補足

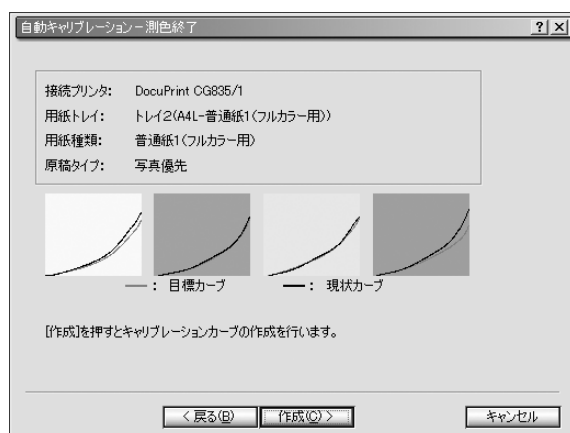
- スキャナ調整ファイルには、使用しているスキャナーに合ったファイルを選択してください。
- 一度もスキャナーの調整を行っていない場合は、標準ファイルの中から、使用するスキャナーに対応するファイルを選択してください。

[自動キャリブレーション - キャリブレーションチャート読み込み] ダイアログボックスが表示されます。

6 [参照] をクリックして、キャリブレーションチャートの画像ファイルを指定し、[読み込み] をクリックします。

補足

- DropPrint2 を使ってサーバーに送信された画像ファイルは、「D:\Fuji Xerox\Print Server Series\cpsi\ColorProfile\Calibration\DPCG835_1\AutoCalibration」フォルダに保存されています。
- キャリブレーションチャートから読み取られたパッチ濃度の状態によっては、プリンターの濃度調整を行う必要があります。この場合には、自動的に濃度調整を行う画面になるので、指示に従って濃度調整を行ってください。そのあとで、自動キャリブレーションを最初からやり直してください。濃度調整についての詳細は、「 プリンターの濃度を調整する」を参照してください。なお、濃度調整には数分かかります。濃度調整を行うトナーの数によって、かかる時間が異なります。

指定した画像ファイルを使った、測色が始まります。
測色が終了すると、[自動キャリブレーション - 測色終了] ダイアログボックスが表示されます。

7 [作成] をクリックします。

測色した結果を保存するための [自動キャリブレーション - 保存] ダイアログボックスが表示されます。

8 **[キャリブレーションファイル名] にファイル名を入力し、[保存] をクリックします。**

補足

ファイル名のデフォルトは、「YYMMDD-HHMMSS」です。

測色した結果が新しいキャリブレーションファイルとして保存され、[自動キャリブレーション] ダイアログボックスに戻ります。

[自動キャリブレーション] ダイアログボックスを閉じるときは、[終了] をクリックします。

これで、キャリブレーションファイルの作成は完了です。引き続き、「1.4.5 キャリブレーションデータを割り当てる」に進んでください。

1.4.5 キャリブレーションデータを割り当てる

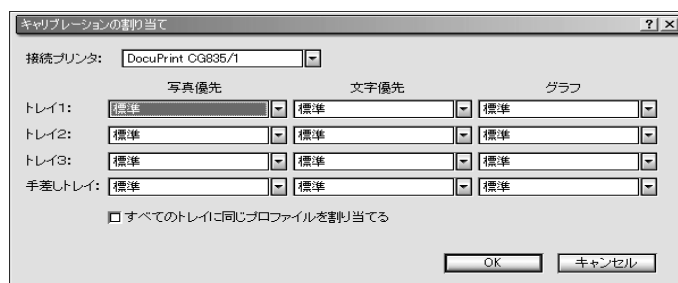
作成したキャリブレーションデータをプリントに適用するには、用紙トレイに割り当てる必要があります。
トレイごとに、原稿タイプに合わせたキャリブレーションデータの割り当てができます。

補足

1 つのキャリブレーションデータを、複数のトレイに割り当てることもできます。

操作手順

1 **[カラー調整] メニューから [キャリブレーションの割り当て] を選択します。**

[キャリブレーションの割り当て] ダイアログボックスが表示されます。

2 **[接続プリンタ] から、キャリブレーションデータを割り当てるプリンターを選択します。**
［トレイ 1］～［トレイ 3］、または［手差しトレイ］で、作成したデータを選択し、[OK] をクリックします。

補足
［すべてのトレイに同じプロファイルを割り当てる］をチェックすると、各原稿タイプで［トレイ 1］だけがキャリブレーションデータを選択可能になり、［トレイ 1］に割り当てたキャリブレーションデータが［トレイ 2］、［トレイ 3］、［手差しトレイ］にも割り当てられます。
キャリブレーションデータをひとつだけ使う場合はここをチェックします。

これで、キャリブレーションデータの割り当ては完了です。引き続き、「1.4.6 キャリブレーションの方法を選択する」へ進んでください。

1.4.6 キャリブレーションの方法を選択する

自動キャリブレーションの結果をプリント時に適用するためには、キャリブレーション方法を選択する必要があります。

操作手順

1 **[カラー調整]メニューから、[キャリブレーション方法の選択]を選択します。**
[キャリブレーション方法の選択] ダイアログボックスが表示されます。

2 **[接続プリンタ] から、対象になるプリンターを選択します。**

3 **[通常プロファイル] の [キャリブレーション] を選択し、[OK] をクリックします。**

■通常プロファイル
通常のプリント処理に、キャリブレーション結果を適用します。
デフォルトは、[なし] です。

これで、キャリブレーション方法の選択は完了です。引き続き、「1.4.7 キャリブレーションの確認印刷をする」へ進んでください。

1.4.7 キャリブレーションの確認印刷をする

作成したキャリブレーションデータをサンプルに適用したものと、何も適用しないものの 2 枚がプリントされます。
2 枚のプリント結果を比較することで、キャリブレーションの効果を確認できます。

操作手順

1 **[カラー調整] メニューから、[キャリブレーション確認印刷] を選択します。**

[キャリブレーションの効果の確認] ダイアログボックスが表示されます。

2 **[接続プリンタ] から、対象になるプリンターを選択します。**

確認したいキャリブレーションデータが割り当てられている ［トレイ］、［原稿タイプ］、［排出先］ を選択し、[印刷] をクリックします。

初めにキャリブレーションが適用されていないサンプルが、続いて、選択したキャリブレーションデータが適用されたサンプルがプリントされます。

3 **[終了] をクリックします。**

1.5 スキャナーの調整

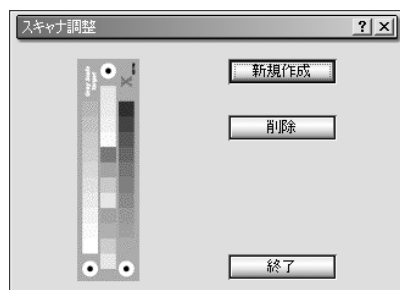
自動キャリブレーションの前に、スキャナーの調整を実施すると、より正確なデータを取得することができます。
スキャナーの調整を行うためには、スキャナーで本機に付属のGray Scale Targetをスキャンする必要があります。また、クライアントでスキャンした場合は、その画像ファイルをDropPrintLiteを使ってサーバーにアップロードする必要があります。
クライアントでスキャンする場合は「1.4.2 キャリブレーションチャートをスキャンする」、サーバーでスキャンする場合は「1.5.1 スキャナ調整ファイルを作成する」を参照してください。

注記
Gray Scale Targetはサーバーに同梱されています。Gray Scale Targetを扱うときは、端を持ち、表面を汚さないようにしてください。

1.5.1 スキャナ調整ファイルを作成する

スキャナーで読み込んだ、Gray Scale Targetの画像データから、スキャナーを調整するためのファイルを新規に作成する手順について説明します。
事前にGray Scale Targetの正確な濃度値を測定し、サーバーにセットすると、さらにキャリブレーションの精度を向上させることができます。「1.6 自動キャリブレーションの精度を向上させたい場合」を参照してください。

操作手順

1 ServerManagerの[カラー調整]メニューから、[スキャナ調整]を選択します。
［スキャナ調整］ダイアログボックスが表示されます。

2 ［新規作成］をクリックします。

［スキャナ調整 -Gray Scale Target 読み込み］ダイアログボックスが表示されます。

サーバーに接続したスキャナーから読み込む場合は、［スキャナから］を選択します。
クライアント PC に接続されたスキャナーで、スキャンした画像ファイルを読み込む場合は、［画像ファイルから］を選択し、［スキャナ］から調整するスキャナー名を選択して［参照］をクリックして Gray Scale Target の画像ファイルを指定します。

補足

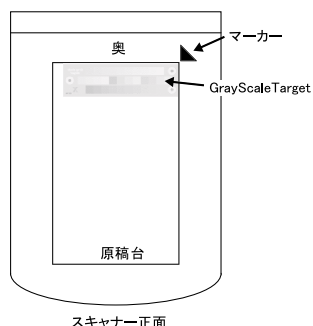
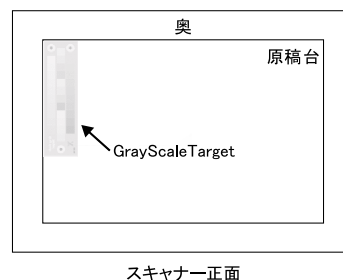
- ［スキャナから］は、［サーバーの環境設定］ の［スキャン］ タブで、［スキャナを使う］がオンになっている場合に選択できます。
- DropPrintLite を使ってサーバーに送信された画像ファイルは、「D:\Fuji Xerox\DPrint Server Series\cpsi\ColorProfile\Calibration\DPCG835_1\AdjustScanner」フォルダに保存されています。

3 ［読み込み］をクリックします。

注記

スキャナーで Gray Scale Target をスキャンするときに、置き方がずれていると、「Gray Scale Target が正しい位置に置かれていません。正しい位置に置いてください」というメッセージが表示されます。この場合は Gray Scale Target の位置を確認し、再度 Gray Scale Target のスキャンからやり直してください。EPSON ES-2200 の場合は、Gray Scale Target の上部（天）を原稿台の奥に、左辺を右側に合わせて置きます。EPSON ES-10000G、ES-8500 の場合は、Gray Scale Target の上部（天）を原稿台の左側に、左辺を奥にに合わせて置きます。詳細については、スキャナーに付属の取扱説明書を参照してください。

<ES-2200 の場合 >

<ES-10000G、ES-8500 の場合 >

画像ファイルの読み込みが完了すると、［スキャナ調整 - 保存］ダイアログボックスが表示されます。

4　スキャナ調整ファイルのファイル名を入力し、［OK］をクリックします。

補足

ファイル名のデフォルトは、「YYMMDD-HHMMSS」です。

［スキャナ調整］ダイアログボックスに戻ります。ダイアログボックスを閉じるときは、［終了］をクリックします。

1.5.2　スキャナ調整ファイルを削除する

スキャナ調整ファイルを削除したい場合は、［カラー調整］メニューから［スキャナ調整］を選択して、［削除］をクリックします。
表示された［スキャナ調整 - 削除］ダイアログボックスで、削除するスキャナ調整ファイルを選択し、［削除］をクリックします。確認のためのダイアログボックスで、［はい］をクリックします。

補足

スキャナ調整ファイルのうち、少なくとも最新から 2 番めまでのスキャナ調整ファイルはバックアップとして残しておいてください。

1.5.3　サーバーにアップロードする

サーバーにアップロードする方法については、「1.4.3 サーバーにアップロードする」を参照してください。

1.6 自動キャリブレーションの精度を向上させたい場合

Eye-One または X-Rite938 濃度計をお持ちの場合は、濃度計で Gray Scale Target の正確な濃度値を測定し、サーバーに設定することによって、キャリブレーション精度を向上させることができます。
以下に手順を説明します。

操作手順

1 **Gray Scale Target のすべてのパッチを Eye-One または X-Rite を使って測色します。**
色空間に StatusA の濃度を設定して測定してください。
Gray Scale Target の測色の順番は、次のとおりです。
① Gray Scale Target のいちばん上の行(薄いグレイ)を左から順番に測色します。
② Gray Scale Target のいちばん下の行(濃いグレイ)を左から順番に測色します。
③ Gray Scale Target の真ん中の行を左から順番に測色します。
32 色、すべてのパッチを測色してください。

注記
Gray Scale Target を扱うときには、それぞれ端を手で持ち、表面を汚さないようにしてください。

2 **「D:￥Fuji Xerox\Print Server Series\etc」ディレクトリの targetdataT.txt ファイルを開きます。**

3 **測定した結果の数値を、targetdataT.txt に書き込みます。**
数値を書き込むときには、小数第 4 位を四捨五入し、小数点以下 3 桁のデータとして書き込んでください。
なお詳細は、targetdataT.txt 内の説明をお読みください。

4 **targetdataT.txt の最後にある測色器名の設定を、使用した測色器に変更します。**
たとえば、Eye-One を使用した場合は、次のように変更します。

■変更前

```
GSTCMeterName=X-Rite          # eye-one | X-Rite
```

■変更後

```
GSTCMeterName=eye-one         # eye-one | X-Rite
```

5 **編集した targetdataT.txt ファイルを保存します。**

以上で操作は終了です。

1.7 RGB 用 ICC プロファイルを読み込む

モニターが RGB データをどのように表示するか、あるいはスキャナーが原稿を読み取ってどのような RGB データに変換するかは、機器固有の特性によって異なります。モニターやスキャナーに用意されている ICC プロファイルを RGB 色補正プロファイルに適用してプリントすると、各機器の特性を補正し、プリント結果の色味をより近づけることができます。(ただし、完全に合うことを保障するものではありません。)

モニターやスキャナーに使用した ICC プロファイルをプリントに適用することで、プリント結果の色味をより近づけることができます。
次の 2 種類の RGB 用 ICC プロファイルをサーバーに読み込み、プリントに反映できます。

- **モニターおよびスキャナー用 RGB 色補正プロファイル**
- **モニターへの出力用 RGB 出力プロファイル**

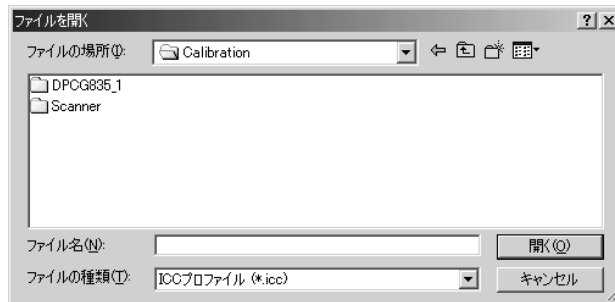
1.7.1 RGB 色補正プロファイルを読み込む

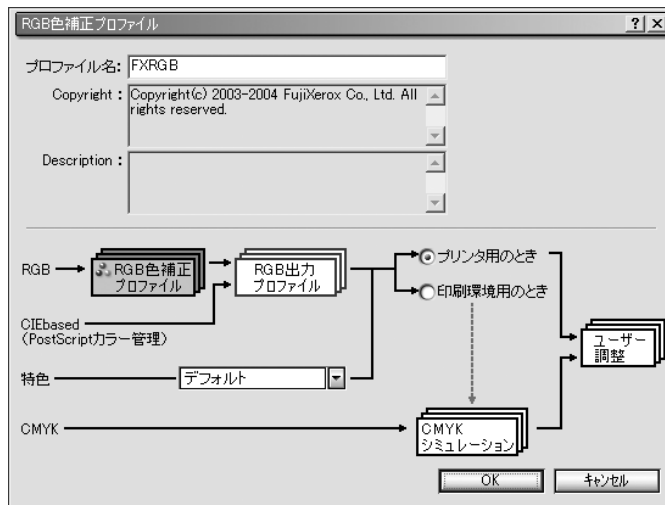
操作手順

1 **[カラー調整] メニューから [RGB 色補正プロファイルの読み込み] を選択します。**

[RGB 色補正プロファイル] ダイアログボックスが表示されます。

2 ［読み込み］をクリックします。

［ファイルを開く］ダイアログボックスが表示されます。

3 読み込む ICC プロファイルを選択し、［開く］をクリックします。

プロファイルの情報を確認するダイアログボックスが表示されます。

4 必要であればプロファイル名を変更し、［OK］をクリックします。

注記

次の項目は、プロファイル名に使用できません。

・「標準」　・「fxsRGBCSA」　・読み込み済みのプロファイルと同じ名前

プロファイルがサーバーに読み込まれ、一覧に表示されます。

［RGB 色補正プロファイル］ダイアログボックスを閉じるときは、［終了］をクリックします。

引き続き、「1.7.2　RGB 色補正プロファイルを割り当てる」に進んでください。

RGB 色補正プロファイル名を変更する

サーバーに読み込んだ RGB 色補正プロファイルの名前を変更したい場合は、RGB 色補正プロファイルの一覧からプロファイルを選択して［プロパティ］をクリックし、表示されたプロパティダイアログボックスで名前を変更し、［OK］をクリックします。

RGB 色補正プロファイルを削除する

読み込んだ RGB 色補正プロファイルを削除したい場合は、RGB 色補正プロファイルの一覧からプロファイルを選択して［削除］をクリックし、確認のためのダイアログボックスで［はい］をクリックします。

補足
割り当てられているプロファイルを削除した場合は、自動的に［標準］に変更されます。

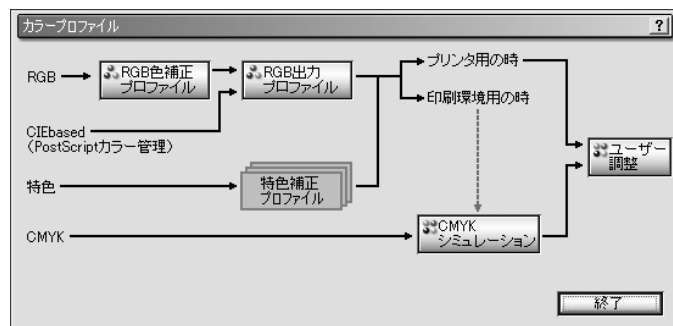
1.7.2 RGB 色補正プロファイルを割り当てる

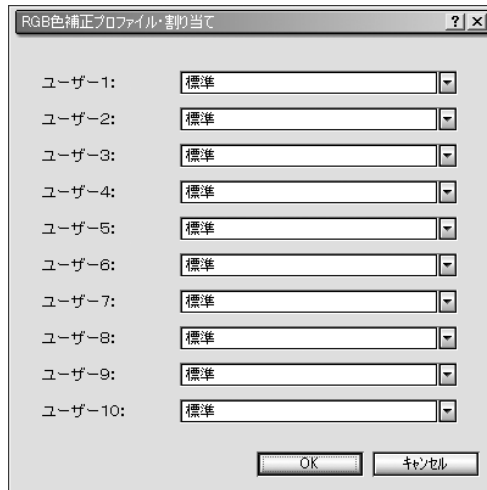
サーバーに読み込んだ RGB 色補正プロファイルをプリントに適用するには、サーバーに登録する必要があります。プロファイルを登録すると、プリント時にプリントオプションから選択できます。

操作手順

1 **ボタンをクリックします。**

［カラープロファイル］ダイアログボックスが表示されます。

補足
［カラー調整］メニューから［カラープロファイルの割り当て］を選択しても、［カラープロファイル］ダイアログボックスを表示できます。

2　**［RGB 色補正プロファイル］をクリックします。**

［RGB 色補正プロファイル・割り当て］ダイアログボックスが表示されます。

3　**ユーザー 1 ～ 10 に割り当てる ICC プロファイル名を選択します。**

デフォルトでは、すべてに［標準］が設定されています。

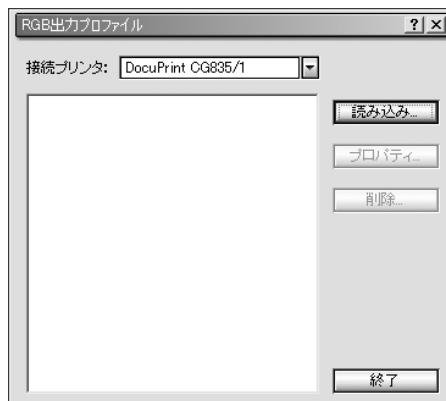
4　**［OK］をクリックします。**

割り当てたプロファイルをプリントに適用するときは、プリントオプションの［カラー］タブの［RGB 色補正］で、ユーザー 1 ～ 10 を選択してください。

1.7.3　RGB 出力プロファイルを読み込む

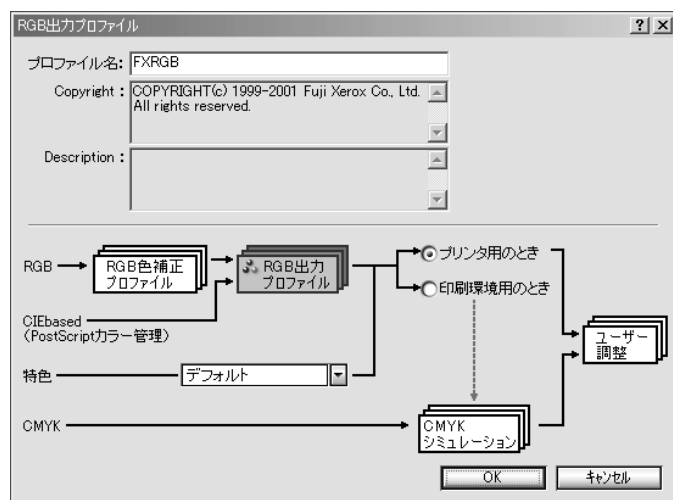
操作手順

1　**［カラー調整］メニューから［RGB出力プロファイルの読み込み］を選択します。**

［RGB 出力プロファイル］ダイアログボックスが表示されます。

2　**［接続プリンタ］から、ICC プロファイルを設定するプリンターを選択し、［読み込み］をクリックします。**

［ファイルを開く］ダイアログボックスが表示されます。

3　**読み込む ICC プロファイルを選択して、［開く］をクリックします。**

プロファイルの情報を確認するダイアログボックスが表示されます。

4　**特色用のプロファイルの変換モードと、出力形態を指定します。**

補足

特色用の［デフォルト］は、プリンター用です。印刷環境には適していません。

必要であればプロファイル名を変更し、［OK］をクリックします。

注記

次の項目は、プロファイル名に使用できません。

・「標準」　　　　・読み込み済みのプロファイルと同じ名前

プロファイルがサーバーに読み込まれ、一覧に表示されます。

［RGB 出力プロファイル］ダイアログボックスを閉じるときは、［終了］をクリックします。

引き続き、「1.7.5　RGB 出力プロファイルを割り当てる」に進んでください。

1.7.4 RGB 出力プロファイルの名前を変更・削除する

RGB 出力プロファイル名を変更する

サーバーに読み込んだ RGB 出力プロファイルの名前を変更したい場合は、RGB 出力プロファイルの一覧からプロファイルを選択して［プロパティ］をクリックし、表示されたプロパティダイアログボックスで名前を変更し、[OK］をクリックします。

RGB 出力プロファイルを削除する

読み込んだ RGB 出力プロファイルを削除したい場合は、RGB 出力プロファイルの一覧からプロファイルを選択して［削除］をクリックし、確認のためのダイアログボックスで［はい］をクリックします。

補足

割り当てられているプロファイルを削除した場合は、自動的に［標準］に変更されます。

1.7.5 RGB 出力プロファイルを割り当てる

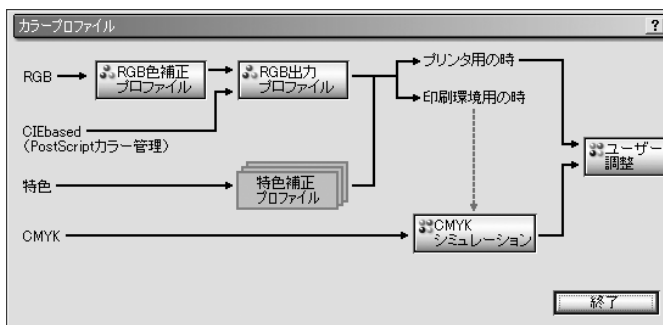
サーバーに読み込んだ RGB 出力プロファイルをプリントに適用するには、サーバーに登録する必要があります。
プロファイルを登録すると、プリント時にプリントオプションから選択できます。

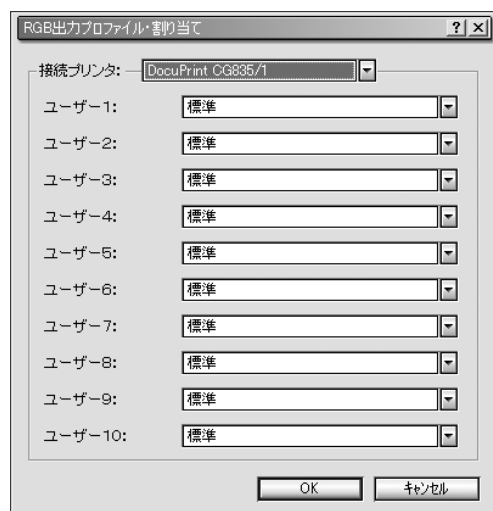
操作手順

1 **ボタンをクリックします。**

［カラープロファイル］ダイアログボックスが表示されます。

補足

［カラー調整］メニューから［カラープロファイルの割り当て］を選択しても、［カラープロファイル］ダイアログボックスを表示できます。

2 **［RGB 出力プロファイル］をクリックします。**

［RGB 出力プロファイル・割り当て］ダイアログボックスが表示されます。

3 **［接続プリンタ］から、ICC プロファイルを設定するプリンターを選択し、ユーザー 1 ～ 10 に割り当てる ICC プロファイル名を選択します。**

デフォルトでは、すべてに［標準］が設定されています。

4 **［OK］をクリックします。**

割り当てたプロファイルをプリントに適用するときは、プリントオプションの［カラー］タブの［RGB 出力プロファイル］で、ユーザー1～10を選択してください。

1.8 CMYKプロファイルを作成する

印刷の仕上がりに近い色味をプリンターで再現するために、CMYK プロファイルを作成し、シュミレーションが行えます。

CMYK プロファイルの作成には、以下の 2 とおりの方法があります。

- **GretagMacbeth社の測色器「Spectrolino/SpectroScan」と、測色用ソフトウエア「SpectroChart」または「SpectroChart Lite」を使用する方法**
- **GretagMacbeth 社の測色器「Eye-One」と、測色用ソフトウエア「eye-one_Reader」を使用する方法**

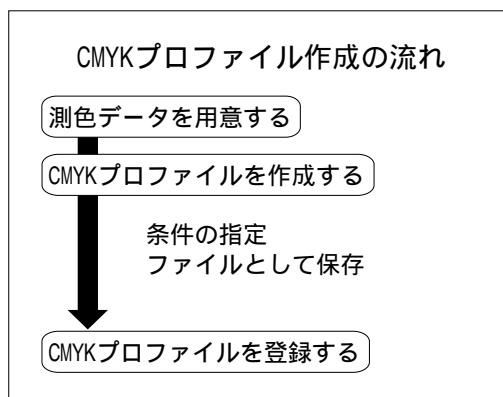
作成には、ICC（International Color Consortium）プロファイルも使用できます。

補足

以降、とくに断らないかぎり、SpectroChart と記載した場合は SpectroChart と SpectroChart Lite の両方を表します。

参照

GretagMacbeth 社の製品については、同製品の取扱説明書を参照してください。
eye-one_Reader については、「5.16 eye-one_Reader と測色器について」を参照してください。

色の調整 1

1.8.1　測色データを作成する

CMYK プロファイルの作成には、サーバーで作成した印刷およびプリンターの測色データを使用します。また、各測色データの代わりに、ICC プロファイルを使用することもできます。
ここでは、サーバーで測色データを作成する場合の手順について説明します。

注記
CMYK プロファイルの作成に ICC プロファイルを使用すると、作業時間を短縮できます。また、より厳密な印刷シミュレーションを行う場合は、測色データを作成することをお勧めします。

操作手順

1 **次の場所から、パッチデータをコピーします。**

D:\Fuji Xerox\Print Server Series\bin\CMYKProfiler\ チャートフォルダ

■「Spectrolino/SpectroScan」を使用する場合

- **CMYK_Gretag.eps**

■「Eye-One」を使用する場合

- **CMYK_eye-one_1.eps**
- **CMYK_eye-one_2.eps**
- **CMYK_eye-one_3.eps**

2 **必要に応じてパッチデータにイメージを追加し、測色チャートを作成します。**

測色チャートには、肌色を含むイメージ、特に注目したいハイライトカラーを含むイメージや通常取り扱うイメージのうち代表的なものなどを、パッチと一緒にレイアウトしておくことをお勧めします。

3 **印刷会社や印刷工場など、プリンターでシミュレーションしたい印刷環境に、手順 2 で作成した測色チャートを提供し、実際に印刷してもらいます。**

注記
印刷された各パッチに汚れや色ムラがないことを確認し、汚れなどがあった場合は、再度印刷してもらってください。

4 **入手した印刷物を測色します。**

■「Spectrolino/SpectroScan」を使用する場合

左上のパッチから順に横へ測色します。

■「Eye-One」を使用する場合

1 枚目（1/3）の左上のパッチから順に横へ測色します。1 枚目の測色が終わったら、2 枚目（2/3）、3 枚目（3/3）と測色してください。

できあがったプロファイルは、印刷プロファイルとして使用します。

5 **次の場所にあるパッチデータを ServerManager の［ジョブ読み込み］機能を使用してプリントします。**

D:\Fuji Xerox\Print Server Series\bin\CMYKProfiler\チャートフォルダ

■「Spectrolino/SpectroScan」を使用する場合

- **DPCG835_Gretag.eps**
  ［ジョブ］→［ジョブ読み込み］でこのファイルを選択します。パッチデータが読み込まれ、ServerManager の保持リストに追加されます。
  次に、保持リストにある DPCG835_Gretag を選択し、［ジョブ］→［ジョブ編集］を選択します。［ジョブ編集］のダイアログボックスが表示されたら、［グラフィックス］タブで、［プリント方向］を［横］に指定し、左下のプリントボタンをクリックしてプリントします。

■「Eye-One」を使用する場合

- **DPCG835_eye-one_1.eps**
- **DPCG835_eye-one_2.eps**
- **DPCG835_eye-one_3.eps**
  ［ジョブ］→［ジョブ読み込み］で DPCG835_eye-one_1.eps を選択します。パッチデータが読み込まれ、ServerManager の保持リストに追加されます。
  次に、保持リストにある DPCG835_eye-one-1 を選んで、［ジョブ］→［再開］を選択します。パッチデータがプリントされます。DPCG835_eye-one_2.eps、DPCG835_eye-one_3.eps も同様にプリントします。

6 **プリント結果を測色器を使って測色します。**

■「Spectrolino/SpectroScan」と「SpectroChart」または「SpectroChart Lite」を使用する場合
左上のパッチから順に横へ測色します。

■「Eye-One」と「eye-one_Reader」を使用する場合
1 枚め（1/3）の左上のパッチから順に横へ測色します。1 枚めの測色が終わったら、2 枚め（2/3）、3 枚め（3/3）と測色してください。

できあがったプロファイルは、プリンタープロファイルとして使用します。

「Spectrolino/SpectroScan」での測色時の注意
- 測色の仕方は、GretagMacbeth 社の測色器「Spectrolino/SpectroScan」に付属の取扱説明書を参照してください。
- 書き出しフォーマットは、CIE-Lab を選択してください。
  測色時の設定は、次のとおりです。
  ・観測光源　：D50
  ・観測視野　：2°
  ・フィルター：No
  ・白色基準　：Abs
- ファイルフォーマット形式は、IT8 を選択してください。
- フィルターは付けないでください。 U （フィルターなし）を選択してください。また、測色時の写りを防ぐため、測色対象と同じ用紙を下に敷いて測色してください。
- パッチデータは、右下の白パッチまでの、すべてを測色してください。
- 読み込み用の CSV ファイルは、同梱の Software Pack 内の“\etc\SpectroChartLite\FX1188.csv”を使用してください。

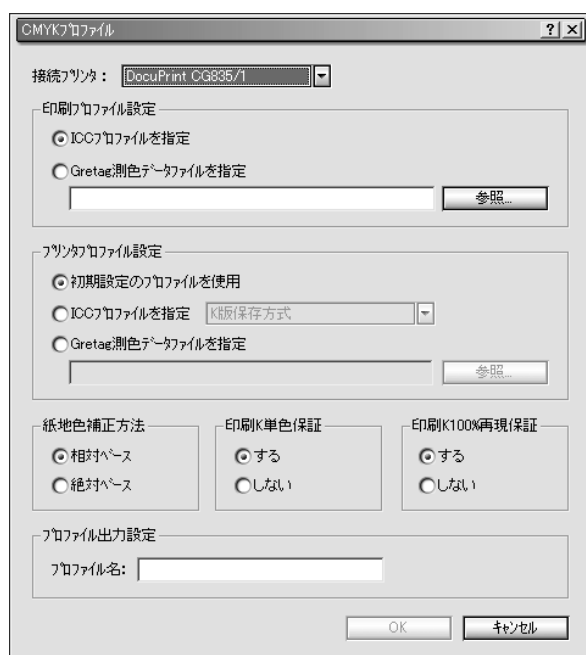
「Eye-One」での測色時の注意
- 測色パッチパターンは、「PrintServer Series DPCG835 Chart」を選択してください。
- 測色データ形式は、「三刺激値（CIELAB）」を選択してください。
- 測色方式は、「ストリップ測色」、または「ダブルストリップ測色」をお勧めします。なお、測色するときは、左上のパッチが右上にくるように用紙をたてにして、上から下に向かって「Eye-One」をスライドさせて測色すると作業が楽にできます。
- 測色時の裏写りを防ぐため、測色対象の下に同じサイズの用紙を数枚下に敷いて測色してください。

引き続き、「1.8.2 CMYK プロファイルを作成する」に進んでください。

1.8.2 CMYK プロファイルを作成する

操作手順

1 **［カラー調整］メニューから［CMYK プロファイルの読み込み］を選択します。**

［CMYK プロファイル］ダイアログボックスが表示されます。

2 **［接続プリンタ］からプリンターを選択し、作成する CMYK プロファイルの条件を指定します。**
指定できる条件には、次の項目があります。

■印刷プロファイル設定

［ICC プロファイルを指定］と［Gretag 測色データファイルを指定］があります。「 1.8.1 測色データを作成する」で作成したデータを使用する場合は、［Gretag 測色データファイルを指定］を選択します。デフォルトは、［ICC プロファイルを指定］です。
どちらかを選択し、プロファイル名を入力します。

■プリンタプロファイル設定

［初期設定のプロファイルを使用］、［ICC プロファイルを指定］、［Gretag 測色データファイルを指定］があります。
［初期設定のプロファイルを使用］を選択した場合は、プリンターのデフォルトのプロファイルが使用されます。
［ICC プロファイルを指定］を選択した場合は、以下から選択します。デフォルトは［K 版保存方式］です。

- **K 版保存方式**

  Gretag 測色データファイルを指定した場合と同様に印刷の墨版をできるだけ保存したカラープロファイルを作成するモードです。プリンタ ICC プロファイルの墨版生成規則は適用されません。

- **パーセプチャル**

  相対的な色域にもとづき、プリンタ ICC プロファイルの Perceptual タグを使用して印刷 ICC プロファイルと合成します。プリンタ ICC プロファイルの墨版生成規則は適用されますが、印刷の墨版は保存されません。

- **サチュレーション**

  相対的な色域にもとづき、プリンタ ICC プロファイルの Saturation タグを使用して印刷 ICC プロファイルと合成します。プリンタ ICC プロファイルの墨版生成規則は適用されますが、印刷の墨版は保存されません。

- **相対カラリメトリック**

  相対的な色域にもとづき、プリンタ ICC プロファイルの Colorimetric タグを使用して印刷 ICC プロファイルと合成します。プリンタ ICC プロファイルの墨版生成規則は適用されますが、印刷の墨版は保存されません。

- **絶対カラリメトリック**

  絶対的な色域にもとづき、プリンタ ICC プロファイルの Colorimetric タグを使用して印刷 ICC プロファイルと合成します。プリンタ ICC プロファイルの墨版生成規則は適用されますが、印刷の墨版は保存されません。

「1.8.1 測色データを作成する」で作成したデータを使用する場合は、[Gretag 測色データファイルを指定] を選択します。
デフォルトは [初期設定のプロファイルを使用] です。[Gretag 測色データファイルを指定] を選択した場合は、プロファイル名を入力します。

■紙地色補正方法

紙地色補正とは、用紙の違いによって再現される色が変わる現象を調整する方法のことです。
[相対ベース] と [絶対ベース] があります。[相対ベース] を選択すると、印刷物とプリンターで使用する用紙の紙地色を基準に調整されます。それぞれの基準に従って、カラー画像の全体的なバランスを取りながら処理されます。
[絶対ベース] を選択すると、印刷物の色をそのまま再現するように調整されます。
デフォルトは [相対ベース] です。

■印刷 K 単色保証

印刷原稿に含まれる墨 (K) 単色のデータを、プリンターの K 単色で再現します。
[する] と [しない] があります。[しない] を選択すると、色トナーが混じる場合があります。デフォルトは [する] です。

■印刷 K100% 再現保証

印刷原稿に含まれる K100%のデータを、プリンターの K100%で再現します。[する] と [しない] があります。[しない] を選択すると、K100%にならない場合があります。デフォルトは [する] です。

3 ［プロファイル出力設定］に、作成するプロファイル名を入力し、［OK］をクリックします。

CMYK プロファイルの作成が始まり、［進行状況］ダイアログボックスが表示されます。

4 処理の完了を知らせるダイアログボックスが表示されたら、［終了］をクリックします。

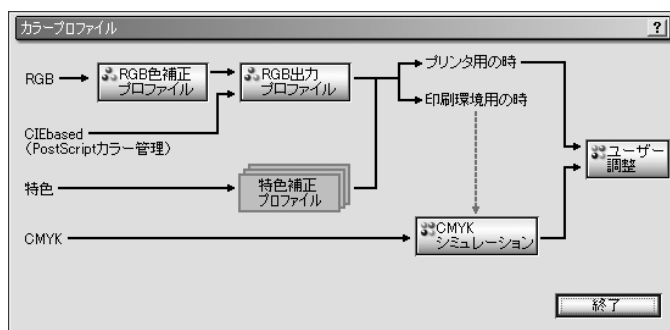
1.8.3 CMYK プロファイルを登録する

作成した CMYK プロファイルをプリントに適用するには、サーバーに登録する必要があります。
プロファイルを登録すると、プリント時に指定するプリントオプションの［カラー］タブにある［CMYK シミュレーション］で、プロファイルを選択できます。

操作手順

1 ボタンをクリックします。

［カラープロファイル］ダイアログボックスが表示されます。

補足
［カラー調整］メニューから［カラープロファイルの割り当て］を選択しても、［カラープロファイル］ダイアログボックスを表示できます。

2 **［CMYK シミュレーション］を選択します。**

［CMYK シミュレーション・割り当て］ダイアログボックスが表示されます。

3 **［接続プリンタ］から、カラープロファイルを設定するプリンターを選択して、［プロファイル］の1～10で、割り当てるカラープロファイル名を選択します。**

デフォルトでは、上記画面のとおりにプロファイルが割り当てられています。カラープロファイルの種類については、「1.9 用意されているカラープロファイルの種類」を参照してください。

4 **［OK］をクリックします。**

作成したカラープロファイルをプリントに適用するときは、プリントオプションの［カラー］タブで、［CMYK 色補正］をオンにして［CMYK シミュレーション］でプロファイルを選択する必要があります。
このときにキャリブレーション結果を反映させたい場合は、［カラー調整］メニューから［キャリブレーション方法の選択］を選択し、［通常プロファイル］でキャリブレーション方法を指定する必要があります。

1.9 用意されているカラープロファイルの種類

通常プロファイルとして、次のカラープロファイルを用意しています。

■TypeD

日本で使用されている代表的な印刷物のインク色に近づくように補正します。これにより、標準的オフセット・プロセス印刷における印刷物の色に近づくように補正できます。

■TypeD（IE オフ）

[TypeD] の IE オフのカラープロファイルです。

■DIC 標準色

印刷物の色の標準化のために大日本インキ化学工業株式会社が定めた規格です。標準的なオフセット・プロセス印刷で、印刷物の色を近似的にシミュレーションできるプロファイルです。

■DIC 標準色（IE オフ）

[DIC 標準色] の IE オフのカラープロファイルです。

■JapanColor2001（アート紙）

社団法人日本印刷学会発行の、「Japan Color 色再現印刷 2001」のアート紙（ISO 規格用紙タイプ 1）印刷がシミュレーションできるプロファイルです。

■JapanColor2001（コート紙）

社団法人日本印刷学会発行の、「Japan Color 色再現印刷 2001」のコート紙（ISO 規格用紙タイプ 3）印刷がシミュレーションできるプロファイルです。

■JapanColor2001（マット紙）

社団法人日本印刷学会発行の、「Japan Color 色再現印刷 2001」のマットコート紙（ISO 規格用紙タイプ 2）印刷がシミュレーションできるプロファイルです。

■JapanColor2001（上質紙）

社団法人日本印刷学会発行の、「Japan Color 色再現印刷 2001」の上質紙（ISO 規格用紙タイプ 4）印刷がシミュレーションできるプロファイルです。

■雑誌広告基準カラー

雑誌広告基準カラー（JMPA カラー）がシミュレーションできるプロファイルです。

■雑誌広告基準カラー V2（2004）

雑誌広告基準カラー（JMPA カラー）Ver.2 がシミュレーションできるプロファイルです。

■雑誌広告基準カラー（IE オフ）

[雑誌広告基準カラー] の IE オフのカラープロファイルです。

■東洋インキ標準色 ver.2.0

「東洋インキ標準色 ver.2.0」とは、印刷物の標準化のために東洋インキ製造株式会社が定めた規格です。「東洋インキ標準色 ver.2.0」の印刷条件は、次のとおりです。

インキ	：TK ハイユニティ
イメージセッター	：Creo Dolev 800
印刷機	：三菱ダイヤ 304 型
用紙	：パールコート 104.7g/㎡（三菱製紙）
スクリーン	：175 線 / インチ スクエアドット

■色補正なし

■色補正なし（IE オフ）

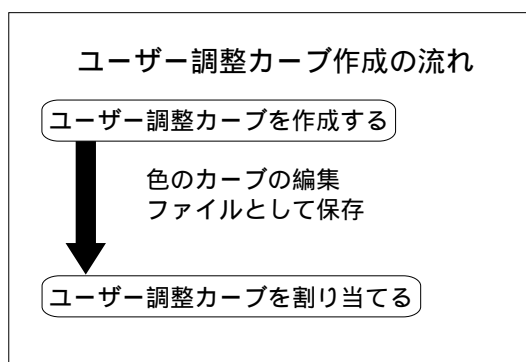
補足

- IE とは、Image Enhancement の略で、文字の輪郭などをくっきりさせる機能です。K100%の濃度が低い印刷環境をシミュレーションする CMYK プロファイルの場合、黒のグラデーションで、99 〜 100%の部分に段差が目立ってしまうことがあります。このような場合には、Image Enhancement のチェックをはずしてください。
- プリンターの状態によっては、IE がオンのとき、グラデーションなどがきれいにプリントされない場合があります。この場合は、IE オフのカラープロファイルを選択してください。

1.10 ユーザー調整カーブを作成する

ユーザー調整カーブのプロファイルを作成する手順について説明します。

ユーザー調整カーブについて

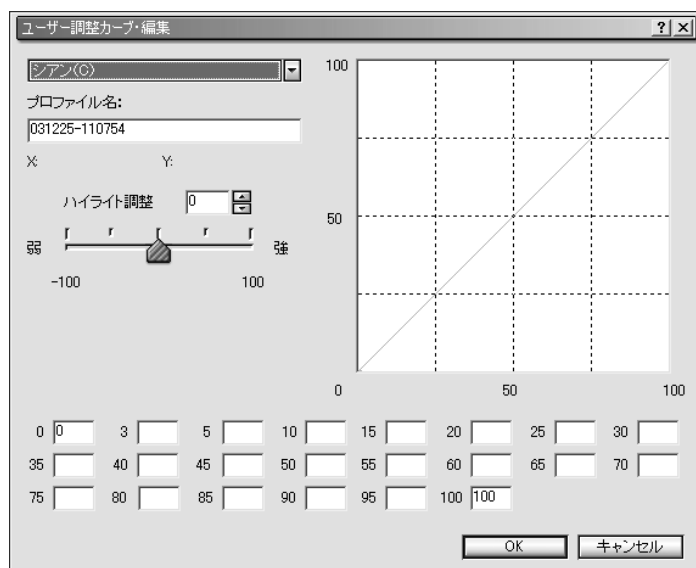
ユーザー調整カーブは、CMYK それぞれの色の濃度を自由に調整できる機能です。キャリブレーション機能と分離されているので、たとえば「シアンが全体的に濃いめ」といったプロファイルを作成しておけば、キャリブレーションデータとの組み合わせによって、さまざまな色の変化を付けることができます。
作成したプロファイルは、ユーザー調整 1 ～ 10 に割り当てます。

1.10.1 ユーザー調整カーブを作成する

操作手順

1 ［カラー調整］メニューから［ユーザー調整カーブ］を選択します。

［ユーザー調整カーブ］ダイアログボックスが表示されます。

2 ［新規作成］をクリックします。

［ユーザー調整カーブ・編集］ダイアログボックスが表示されます。

3 編集する色の曲線を選択します。

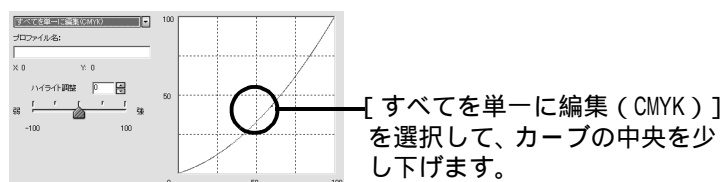
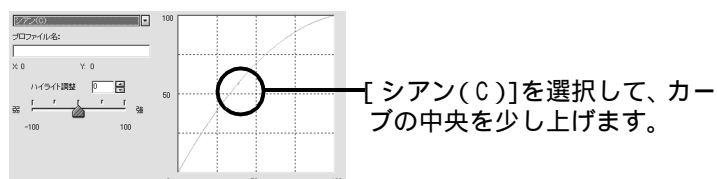
［シアン（C)］、［マゼンタ（M)］、［イエロー（Y)］、［ブラック（K)］、［すべてを単一に編集（CMYK)］、［すべてを表示（CMYK)］から選択できます。

［すべてを表示（CMYK)］は、すべてのカーブを確認するときに選択します。ただし、編集はできません。

4 曲線上の点をマウスでドラッグ、または数値を入力して編集します。

グラフの点をマウスでドラッグして編集した場合、自動的にスムージング処理がされます。

数値は、0、3、5 ～ 100%までの 5%きざみの横軸に対して、縦軸の数値を入力できます。数値を入力すると、コントロールポイントが作成されます。

■設定例 1: 明るくしたいとき

■設定例 2：青みを強くしたいとき

5 **必要に応じて、[ハイライト調整]のスライダーを動かして調整します。**

スライダーの調整は、-100 ～ 100 の範囲で調整できます。ただし、スライダーによる調整はグラフには反映されません。

6 **[プロファイル名]に新しいプロファイルの名前を入力し、[OK]をクリックします。**

補足

ファイル名のデフォルトは、「YYMMDD-HHMMSS」です。

[ユーザー調整カーブ]ダイアログボックスに戻ります。ダイアログボックスを閉じるときは、[終了]をクリックします。

引き続き、「1.10.4 ユーザー調整カーブを割り当てる」に進んでください。

1.10.2 ユーザー調整カーブをコピーする

ユーザー調整カーブをコピーしたいときは、[カラー調整]メニューから[ユーザー調整カーブ]を選択し、表示されたダイアログボックスでコピーしたいプロファイルを選択して、[複製]をクリックします。

1.10.3 ユーザー調整カーブを更新・名前を変更・削除する

ユーザー調整カーブを更新する

ユーザー調整カーブを更新したいときは、[カラー調整]メニューから[ユーザー調整カーブ]を選択し、表示されたダイアログボックスで更新したいプロファイルを選択し、[更新]をクリックします。

参照

以降の操作については、「1.10.1 ユーザー調整カーブを作成する」の手順 2 以降と同じです。手順 2 以降を参照してください。

ユーザー調整カーブの名前を変更する

ユーザー調整カーブの名前を変更したいときは、[カラー調整]メニューから[ユーザー調整カーブ]を選択して、名前を変更したいプロファイルを選択し[名前変更]をクリックします。表示されたダイアログボックスで新しい名前を入力し、[OK]をクリックします。

ユーザー調整カーブを削除する

ユーザー調整カーブを削除したいときは、［カラー調整］メニューから［ユーザー調整カーブ］を選択し、表示されたダイアログボックスで削除するプロファイルを選択し、［削除］をクリックします。確認のためのダイアログボックスで［はい］をクリックします。

補足

標準ファイルは削除できません。また、削除されたユーザー調整カーブが割り当てられている場合、その割り当ては自動的に［無調整］に変更されます。

1.10.4 ユーザー調整カーブを割り当てる

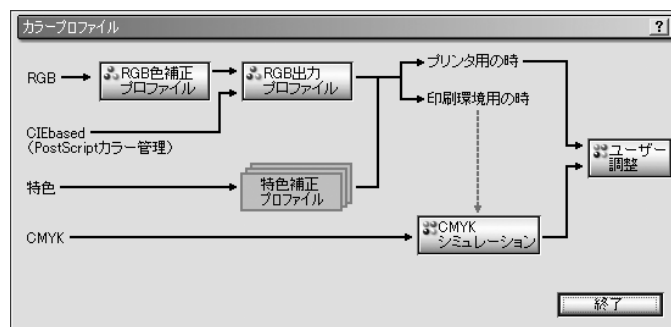
作成したユーザー調整カーブのプロファイルをプリントに適用するには、プロファイルを割り当てる必要があります。

操作手順

1 **ボタンをクリックします。**

［カラープロファイル］ダイアログボックスが表示されます。

補足

［カラー調整］メニューから［カラープロファイルの割り当て］を選択しても、［カラープロファイル］ダイアログボックスを表示できます。

2 ［ユーザー調整］をクリックします。

［ユーザー調整カーブ・割り当て］ダイアログボックスが表示されます。

3 ［接続プリンタ］から、ユーザー調整カーブのプロファイルを設定するプリンターを選択します。［ユーザー調整］の 1 ～ 10 のどれかのユーザー調整で、登録するユーザー調整カーブのプロファイル名を選択します。

デフォルトは、すべてのユーザー調整に［無調整］が設定されています。

4 ［OK］をクリックします。

［カラープロファイル］ダイアログボックスに戻ります。ダイアログボックスを閉じるときは、［終了］をクリックします。

作成したカラープロファイルをプリントに反映するときは、プリントオプションの［カラー］タブにある［ユーザー調整カーブ］で、プロファイルを選択する必要があります。

プリントの調整と設定

2章

2.1　両面プリントのずれを微調整する 64
2.2　プリント濃度のムラを補正する 70
2.3　用紙に合わせて転写電圧を調整する 75
2.4　白黒印刷の連続プリント時に用紙間隔を調整する 76
2.5　EPS（JPEG エンコーディング）画像の扱いについて 77
2.6　K オーバープリントの設定 79
2.7　プリントオプションについて 80

この章では、プリント時の調整や各種設定について説明します。

2.1 両面プリントのずれを微調整する

両面印刷で表と裏の位置がずれる場合、ずれ幅を調整することで、サーバーからプリンターを微調整できます。

注記

- 調整後に保存されている値は、トレイごとに1つです。
- 片面だけの位置の調整は、弊社のプリンターサポートデスクまたは販売店に連絡してください。

参照

両面印刷ができる用紙については、『取扱説明書（プリンター編）』を参照してください。

2.1.1 両面プリントの微調整をする

ここでは、A4 用紙がセットされているトレイを例に説明します。

操作手順

1 ［FX_ServerManager］ウィンドウの［ツール］メニューから、［両面印刷微調整］を選択します。

［両面印刷微調整・調整プリンタ選択］ダイアログボックスが表示され、現在の調整値が表示されます。現在の調整値でずれを確認する場合は、［確認］をクリックすると確認用シートが印刷されます。

調整値を直接入力することもできます。調整値をクリアする場合は、目的のトレイを選択して［クリア］をクリックするか、「0」を入力します。

両面印刷微調整・調整プリンタ選択

両面印刷微調整する接続プリンタを選択し、用紙トレイごとに調整値を入力してください。

接続プリンタ　DocuPrint CG835/1

用紙トレイ	幅方向 [-10.0～10.0mm]	長さ方向 [-10.0～10.0mm]
トレイ1	0.0	0.0
トレイ2	0.0	0.0
トレイ3	0.0	0.0
手差しトレイ(長辺とじ)	0.0	0.0
手差しトレイ(短辺とじ)	0.0	0.0
手差しトレイ(自動両面)	0.0	0.0

調整　確認　クリア

排出先

おもて面排出トレイ

うら面排出トレイ

幅方向の調整値は、おもて面の赤線がうら面の赤線より左側にある場合はプラス、右にある場合は、マイナスの数値を指定してください。

長さ方向の調整値は、おもて面の赤線がうら面の赤線より上側にある場合はプラス、下にある場合は、マイナスの数値を指定してください。

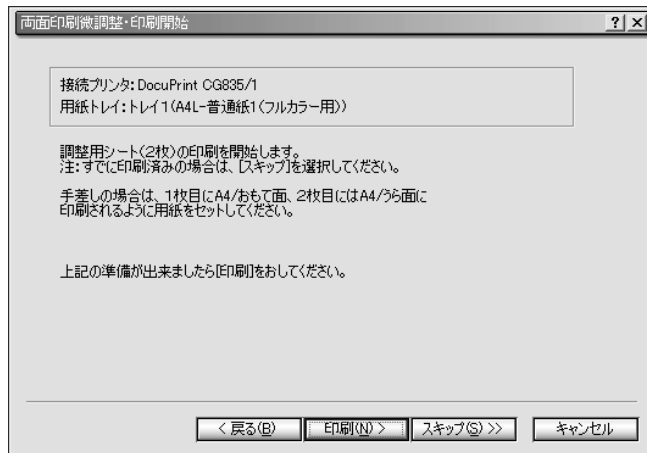
OK　キャンセル

補足

<手差しトレイを調整する場合>

- 用紙は方向にセットしてください。
- 長辺とじ（表と裏が同じ方向を上にして印字する）と短辺とじ（表と裏の上下の方向を逆にして、プリント方向を 180 度回転して印字する）では、調整方向が異なるので別々に調整する必要があります。目的の項目を選択してください。
- ［手差しトレイ（長辺とじ）］の調整値は、用紙をに方向セットした場合の長辺とじと方向にセットした場合の短辺とじで使用されます。
  ［手差しトレイ（短辺とじ）］の調整値は、用紙をに方向セットした場合の短辺とじと方向にセットした場合の長辺とじで使用されます。

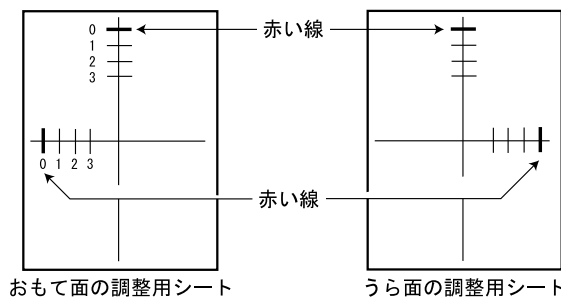
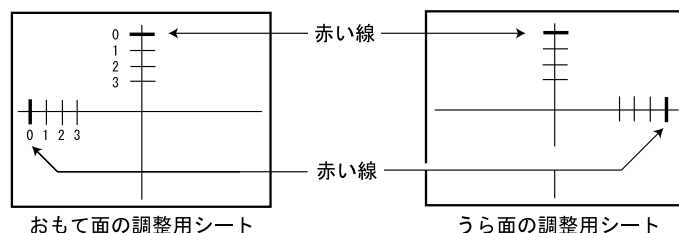
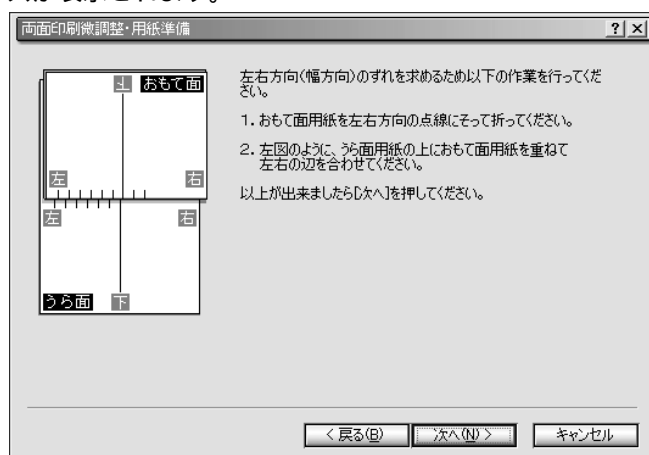
2 **［接続プリンタ］と、A4 用紙がセットされている［用紙トレイ］、［排出先］を選択し、［調整］をクリックします。**

［両面印刷微調整・印刷開始］ダイアログボックスが表示されます。

3 **指定した用紙トレイに用紙がセットしてあるかを確認し、［印刷］をクリックします。**

補足

手差しトレイを調整する場合、用紙は方向にセットしてください。

調整用シートがプリントされます。

■A4の用紙を選択した場合の調整用シート

■A4▯の用紙を選択した場合の調整用シート

調整用シートのプリントが終了すると、左右方向のずれ幅を求めるためのダイアログボックスが表示されます。

4　ダイアログボックスのイラストのように、2 枚のシートを重ねます。

① おもて面用のシートを、印刷面を外側にして左右方向の線に沿って折ります。

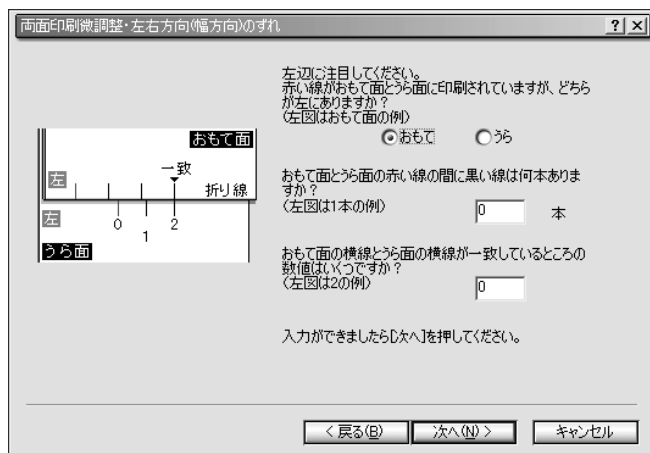
上側と右側に赤い線がプリントされているほうが、おもて面用のシートです。
上側と左側に赤い線と数字がプリントされているほうが、うら面用のシートです。

② うら面用のシートの印刷面を表にして置き、その上に 2 枚めのシートを重ねます。

シートの上下方向を間違えないように注意してください。

③ 両方のシートの左右方向の線を合わせてから、用紙の左右の辺をぴったりそろえます。

5 **［次へ］をクリックします。**

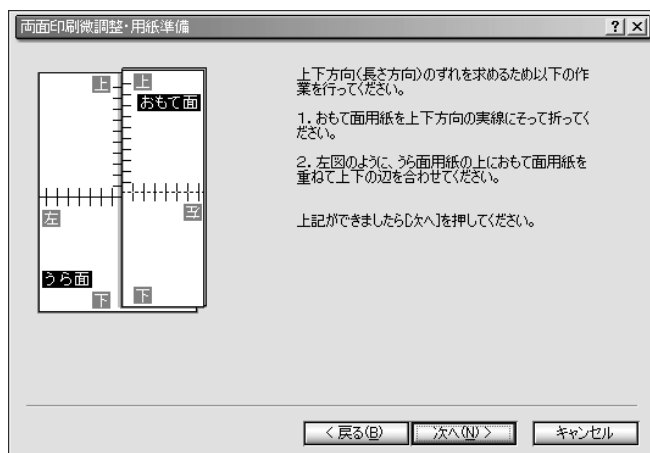
左右方向のずれを調整するためのダイアログボックスが表示されます。

6 **ダイアログボックスのイラストのように、次の順で両方のシートの位置や本数を確認して、結果を入力します。**

① 両方のシートの赤い線の位置を確認し、相手より左にあるほうをオンにします。

② おもて面用のシートとうら面用のシートの赤い線の間に目盛りが何本あるかを確認し、本数を入力します。

③ 両方の目盛りが一致しているところを確認し、その位置の番号を入力します。

7 **［次へ］をクリックします。**

上下方向のずれ幅を求めるためのダイアログボックスが表示されます。

8 ダイアログボックスのイラストのように、今度は用紙の上辺をそろえて、2 枚のシートを重ねます。

① おもて面用のシートを、印刷面を外側にして上下方向の線に沿って折ります。

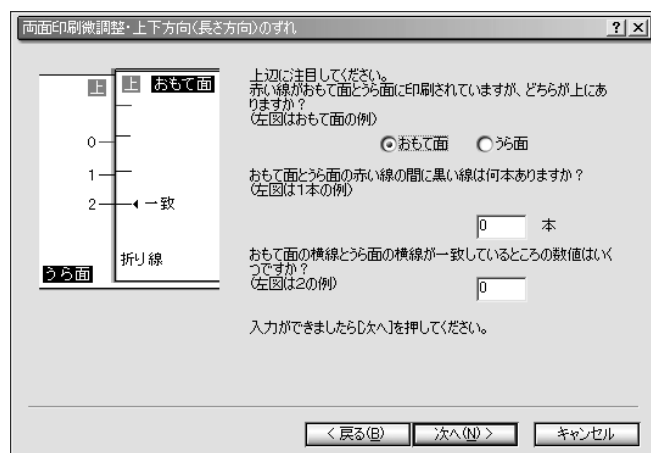
上側と右側に赤い線がプリントされているほうが、おもて面用のシートです。
上側と左側に赤い線と数字がプリントされているほうが、うら面用のシートです。

② うら面用のシートの印刷面を表にして置き、その上に 2 枚めのシートを重ねます。

シートの上下方向を間違えないように注意してください。

③ 両方のシートの上下方向の線を合わせてから、用紙の上下の辺をぴったりそろえます。

9 ［次へ］をクリックします。

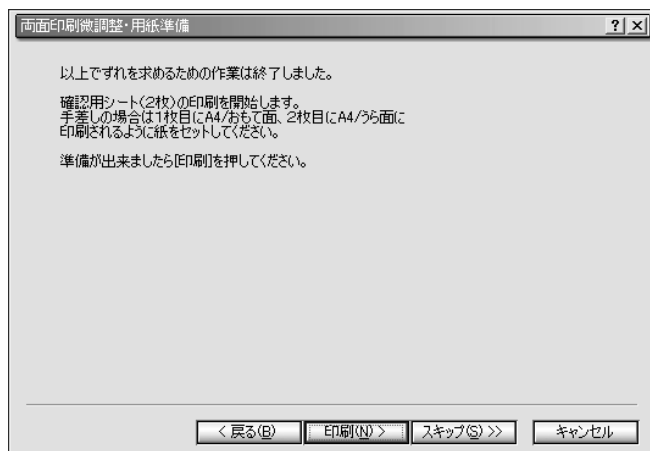
上下方向のずれを調整するためのダイアログボックスが表示されます。

10 手順 6 と同じように、両方のシートの線の位置や本数を確認して、結果を入力します。

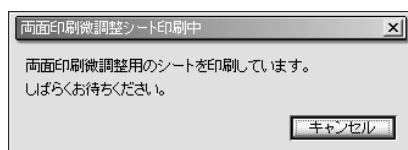
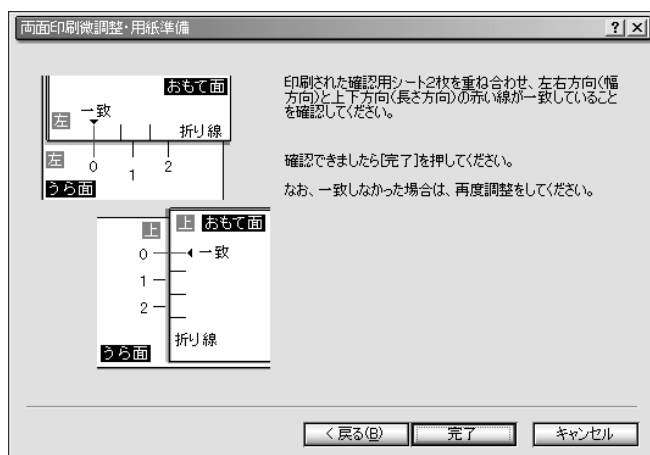
① 両方のシートの赤い線の位置を確認し、相手より上にあるほうをオンにします。

② おもて面用のシートとうら面用のシートの赤い線の間に目盛りが何本あるかを確認し、本数を入力します。

③ 両方の目盛りが一致しているところを確認し、その位置の番号を入力します。

11 ［次へ］をクリックします。

調整が終了したことを知らせるダイアログボックスが表示されます。

12 指定した用紙トレイに用紙がセットされていることを確認し、［印刷］をクリックします。

確認用シートのプリントが開始します。

プリントが終了すると、調整結果を確認するダイアログボックスが表示されます。

13 プリントされた確認用シート 2 枚を合わせて、左右方向、上下方向の赤い線が一致しているかを確認します。

補足

左右方向の合わせ方は手順 4、上下方向の合わせ方は手順 8 を参照してください。

14 赤い線が一致している場合、［完了］をクリックして調整を終了します。

赤い線が一致していない場合は、［戻る］をクリックして調整をやり直します。

2.2 プリント濃度のムラを補正する

プリント時に用紙内で濃度のムラがないように補正します。原稿タイプごとに、補正することができます。
濃度ムラは、プリンターの設置場所の環境の影響を受け、時間経過とともに変わる可能性があります。規則的に補正を行えば、濃度ムラの日々の変化に対処できます。
補正方法には、次の2とおりがあります。

■目視

「TargetSheetA」と「ReferenceSheet」の2枚の評価用シートをプリントします。目視によって、「TargetSheetA」に近い濃度のパッチを「ReferenceSheeet」から選択します。

■濃度計

「TargetSheetA」と「TargetSheetB」の 2 枚の評価用シートをプリントします。お持ちの濃度計を使って、各 TargetSheet に印刷されているパッチの濃度を測ります。

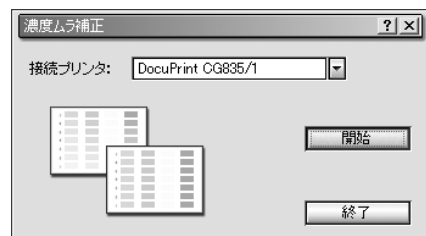
2.2.1 目視による濃度ムラ補正手順の流れ

以下に、目視による濃度ムラ補正の手順を説明します。
濃度計を使用する場合は、後述の「2.2.2 濃度計を使って濃度ムラを補正する」を参考にしたうえで、濃度ムラ補正を行ってください。

補足
評価用シートをプリントするため、用紙トレイに A4 サイズ以上の用紙をあらかじめセットしておきます。

操作手順

1 ［FX_ServerManager］ウィンドウの［ツール］メニューから、［濃度ムラ補正］を選択します。

［濃度ムラ補正］ダイアログボックスが表示されます。

2 ［接続プリンタ］からプリンターを選択し、［開始］をクリックします。

［濃度ムラ補正 - 出力設定］ダイアログボックスが表示されます。

濃度ムラ補正-出力設定

濃度ムラ補正を開始します。

評価モードと原稿タイプ、評価用シートをプリントする用紙トレイを選択してください。
選択できる用紙トレイは、幅297mm以上の用紙がセットされているトレイのみとなります。

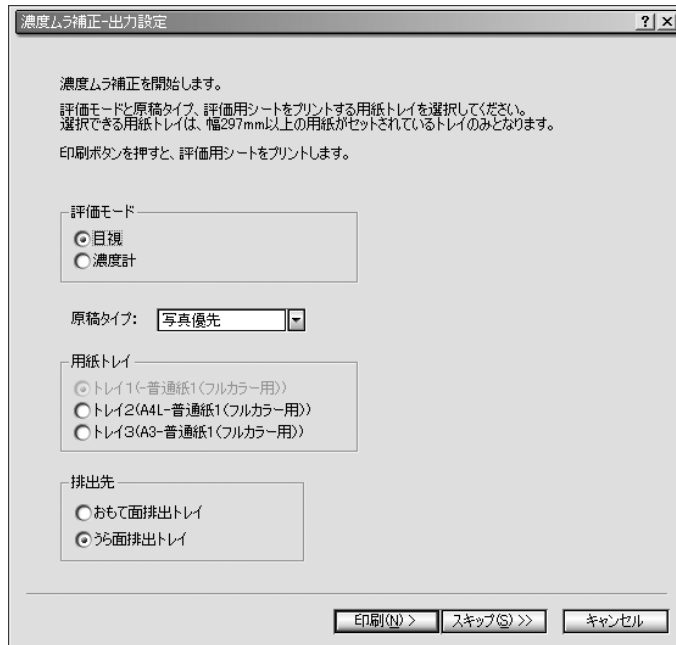
印刷ボタンを押すと、評価用シートをプリントします。

評価モード
目視
濃度計

原稿タイプ： 写真優先

用紙トレイ
トレイ1(-普通紙1(フルカラー用))
トレイ2(A4L-普通紙1(フルカラー用))
トレイ3(A3-普通紙1(フルカラー用))

排出先
おもて面排出トレイ
うら面排出トレイ

印刷(N) > スキップ(S) >> キャンセル

3 ［評価モード］と評価する［原稿タイプ］、評価用シートをプリントする［用紙トレイ］と［排出先］を設定し、［印刷］をクリックします。

補足

プリントオプションで、［原稿タイプ］から［文字 / 写真（写真優先）］を選択した場合は、［写真優先］に割り当てられた補正値が使用され、［文字 / 写真（文字優先）］を選択した場合は、［文字優先］に割り当てられた補正値が使用されます。

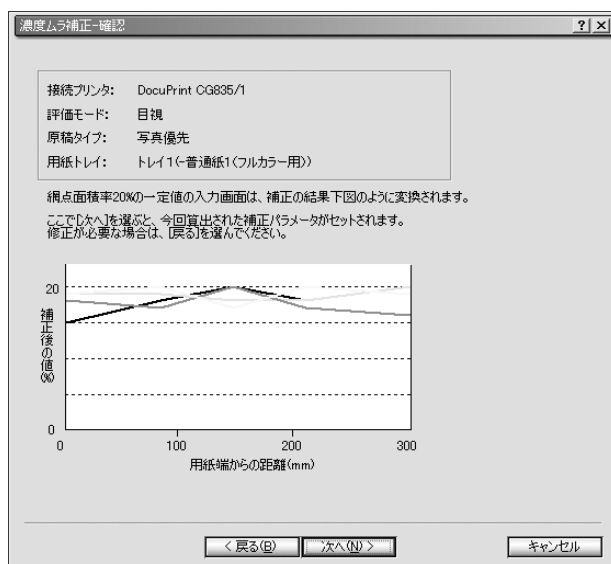
しばらくすると、はじめにマシン調整シートがプリントされ、続いて評価用シートがプリントされます。

4 **プリントされた「TargetSheetA」の、(1)から(5)までのC(シアン)、M(マゼンタ)、Y(イエロー)、K(ブラック)それぞれのパッチについて、「ReferenceSheet」の1～7の中から、最も近い濃度のパッチの番号を選択します。**

5 **選択したパッチの番号を、[濃度ムラ補正 - 目視モード]ダイアログボックスに入力します。**

目視の場合、ブランクのままにしておくと、そのパッチの値は周辺のパッチの値から自動的に決められます。

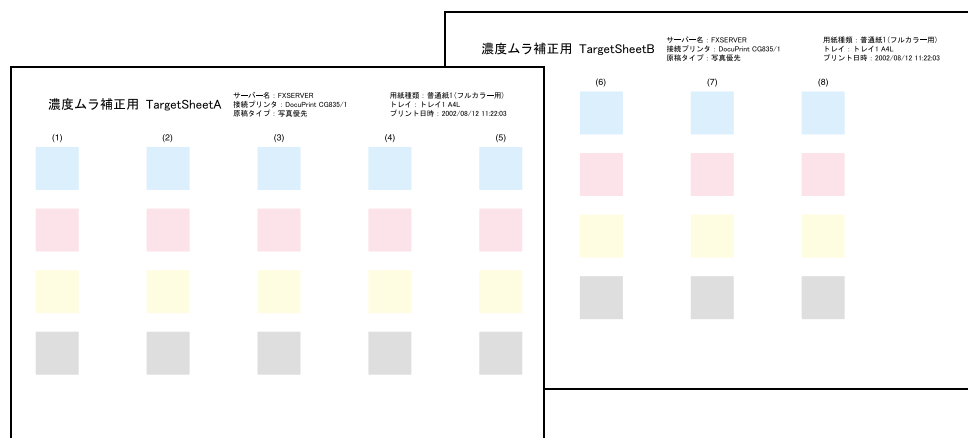
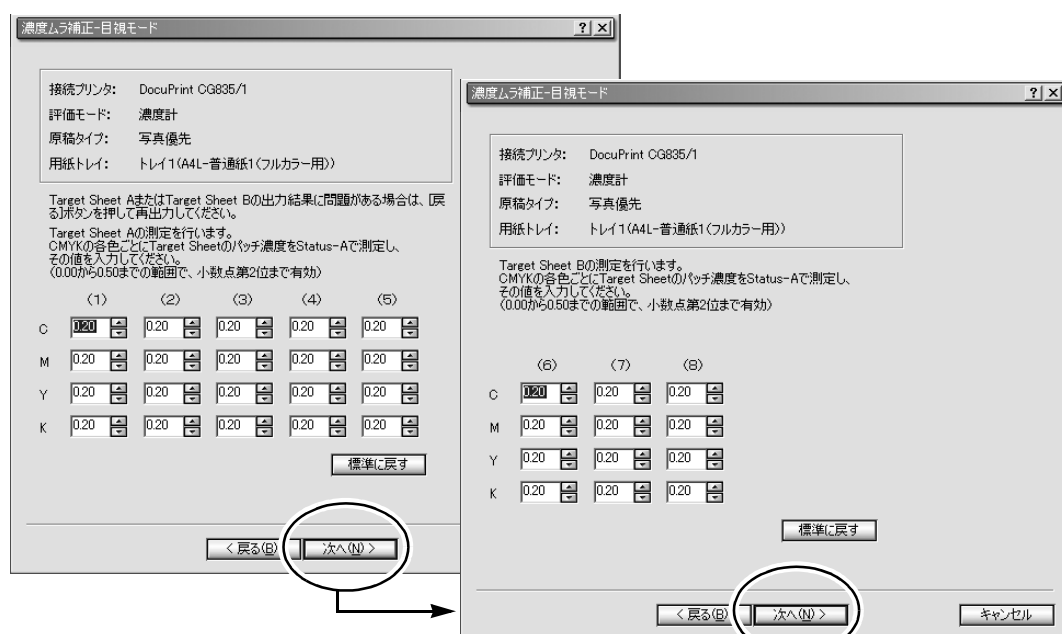
6 ［次へ］をクリックします。

［濃度ムラ補正 - 確認］ダイアログボックスが表示されます。

7 測定した値をもとに補正を行う場合は、［次へ］をクリックします。

［濃度ムラ補正 - 完了］ダイアログボックスが表示されます。

8 ［OK］をクリックし、［濃度ムラ補正］ダイアログボックスで［終了］をクリックします。

2.2.2 濃度計を使って濃度ムラを補正する

評価用モードで［濃度計］を選択すると、マシン調整シートがプリントされたあと、評価用シートとして、「TargetSheetA」と「TargetSheetB」の 2 枚がプリントされます。
（1）～（8）までの C（シアン）、M（マゼンタ）、Y（イエロー）、K（ブラック）それぞれのパッチを、色空間を Status-A の濃度に設定して測定します。

測定結果を、「2.2.1 目視による濃度ムラ補正手順の流れ」の手順 5 と同様に、［濃度ムラ補正 - 濃度計モード］に入力します。濃度計の場合は、ブランクの箇所がないように、すべての項目を入力してください。

［濃度ムラ補正 - 確認］ダイアログボックスに進みます。

2.3 用紙に合わせて転写電圧を調整する

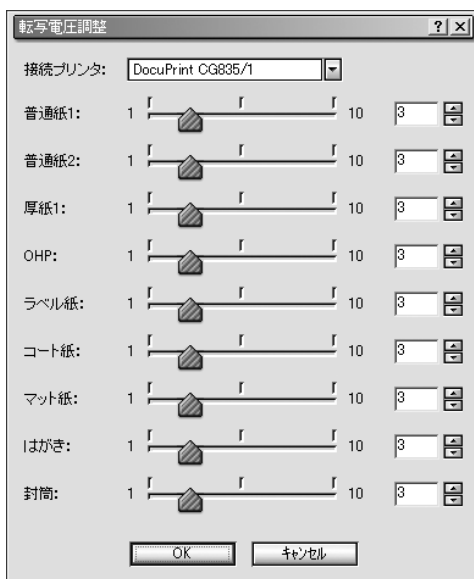
多種・多様な用紙に対応するために、転写電圧を調整できます。標準紙に出力した場合と比べて印字が薄かったり、かすれたりする場合、使用される用紙に合わせて転写電圧を調整することによって、最適な印字結果を得ることができます。
用紙の種類ごとに 1 ～ 10 までの値を指定できます。下の図を参考にして、値を調整し、プリント結果を確認してみてください。デフォルトは、すべての用紙について［3］が設定されています。

転写電圧の設定	使用している用紙		
1	薄い	ツルツル	低い
↑	↑	↑	↑
3	厚さ	表面性	抵抗（電気）
↓	↓	↓	↓
10	厚い	粗い	高い

注記
転写電圧調整機能は、用紙の保存状態や用紙の種類によっては、最適な印字結果を得られない場合もあります。

操作手順

1 **［FX_ServerManager］ウィンドウの［ツール］メニューから、［転写電圧調整］を選択します。**

［転写電圧調整］ダイアログボックスが表示されます。

2 **［接続プリンタ］からプリンターを選択し、用紙の種類ごとに転写電圧を調整し、［OK］をクリックします。**

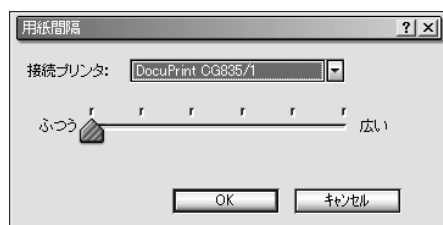
2.4 白黒印刷の連続プリント時に用紙間隔を調整する

白黒原稿を連続プリントするときのプリント速度を設定できます。
お使いの用紙によっては、白黒原稿を連続プリントしたときに、定着不良などの画質トラブルが発生することがあります。その場合に、用紙間隔調整を実施してください。
［ふつう］〜［広い］の間で、6 段階（35 ページ / 分、32 ページ / 分、30 ページ / 分、28 ページ / 分、26 ページ / 分、20 ページ / 分）に設定できます。

補足
この設定は、白黒原稿だけで、カラー原稿の連続プリント時には適用されません。

操作手順

1 **［FX_ServerManager］ウィンドウの［ツール］メニューから、［用紙間隔］を選択します。**

［用紙間隔］ダイアログボックスが表示されます。

2 **［接続プリンタ］からプリンターを選択して、用紙間隔を調整し、［OK］をクリックします。**

2.5 EPS（JPEG エンコーディング）画像の扱いについて

コンポジットカラージョブではカラーでプリントされる EPS（JPEG）画像ですが、イメージセッターなどへの分版ジョブでは、EPS（JPEG）画像は墨版（K）のみになってしまいます。
Print Server の分版合成モードまたはオーバープリント再現機能は、イメージセッターへの分版ジョブと同様に、EPS（JPEG）画像を墨版のみでプリントできるようになっています。
また、特定のイメージセッターでは、分版ジョブの EPS（JPEG）画像をカラーで扱うことができるものがありますが、このようなイメージセッターを想定する場合には、Print Server でもカラーで扱うように設定変更することができます。
変更は、次のファイルに設定します。
D:\Fuji Xerox\Print Server Series\cpsi\Startup\JpegEPSOpt.ps

分版合成モードでの EPS（JPEG）画像の取り扱い

分版合成モードで、EPS（JPEG）画像をカラーでプリントできるように変更するには、以下のように変更してください。
変更前（デフォルト）：
FX_dict /FXJpegEPSColorSeparation false put
変更後：
FX_dict /FXJpegEPSColorSeparation true put

オーバープリント再現モードでの EPS（JPEG）画像の取り扱い

オーバープリント再現モードで、EPS（JPEG）画像をカラーでプリントできるように変更するには、以下のように変更してください。
変更前（デフォルト）：
FX_dict /FXJpegEPSColorOPPreview false put
変更後：
FX_dict /FXJpegEPSColorOPPreview true put

InDesign1.0/2.0、Illustrator10.0 からの EPS（JPEG）画像

InDesign1.0/2.0、Illustrator10.0 の分版出力は、ほかのアプリケーションの分版出力のように EPS（JPEG）画像が墨版（K）のみとなってプリントされるのと異なり、EPS（JPEG）画像をカラーでプリントするようなコードを出力するようになっています。
したがって、分版合成モードでは、FXJpegEPSColorSeparation が false の状態でも、EPS（JPEG）画像は、カラーでプリントされます。
ただし、FXJpegEPSColorSeparation を true にしたときには、同じように EPS（JPEG）画像はカラーでプリントされますが、PrintServer の機能が使用され、4～5 倍の高速処理が行われるようになります。
オーバープリント再現モードでは、FXJpegEPSColorOPPreview の指定に従って、プリントされます。

InDesign1.0/2.0、Illustrator10.0 で EPS（JPEG）にトランスファーカーブがある場合

InDesign1.0/2.0、Illustrator10.0 の分版出力は、EPS（JPEG）画像をカラーでプリントするようなコードを出力するようになっていますが、EPS（JPEG）画像にトランスファーカーブが適用されている場合は、その EPS（JPEG）画像の、C,M,Y,K すべてに、K のトランスファーカーブを適用するようなコードになっています。
Print Server の、EPS（JPEG）をカラーにする機能は、EPS（JPEG）画像の、C,M,Y,K のそれぞれには C,M,Y,K のトランスファーカーブをそれぞれ適用するようになっています。
もし、InDesign1.0/2.0、Illustrator10.0 と同様に、C,M,Y,K すべてに、K のトランスファーカーブを適用するように変更したい場合には、以下のような変更を行ってください。
変更前（デフォルト）：
FX_dict /IDTCSimulation <u>false</u> put
変更後：
FX_dict /IDTCSimulation <u>true</u> put

2.6 Kオーバープリントの設定

Kオーバープリント機能は、DTPのデータ入稿確認のためではなく、Print Serverからの黒のオブジェクトの見栄えを向上させるのが主な目的です。
Kオーバープリント機能の動作の変更は、次のファイルで行います。
D:\Fuji Xerox\Print Server Series\cpsi\Startup\OverprintLimit.ps

Kオーバープリントを開始する値

Kオーバープリントのデフォルトでは、ブラック100%（K=100%）のオブジェクトにオーバープリントがかかりますが、以下のように修正することによって、指定のKの値以上のオブジェクトにオーバープリントがかかるように変更できます。
例）K=95%以上のオブジェクトにオーバープリントがかかるようにする場合
変更前（デフォルト）：
FX_dict /OverprintLimit 1.0 put
変更後：
FX_dict /OverprintLimit 0.95 put

Kオーバープリントの時のIE（輪郭補正）制御

通常、この設定を変更する必要はありませんが、K=100%が薄いCMYKプロファイルを選択している場合には、K=100%の文字が出力装置ではK=100%ではなく薄くなるので、ぼやけて見える場合があります。また、出力装置のK=100%でないと、IE（輪郭補正）機能が働かないので、文字などをより精細にプリントすることはできなくなります。
このような場合、以下の設定によって、K=100%の文字などのオブジェクトを見栄えよくプリントすることが可能になります。プリントオプションの［Image Enhancement］を「オン」にして使用してください。
ただし、K=100%が薄いCMYKプロファイルを選択している場合には、CMYKプロファイルが適用されるK=99%と、出力装置のK=100%となるK=100%との差が顕著になってしまう場合があるので、注意して使ってください。
変更前（デフォルト）：
FX_dict /OverprintIE false put
変更後：
FX_dict /OverprintIE true put

2.7 プリントオプションについて

Mac OS X（10.1.5）、Windows NT 4.0、および PageMaker では、以下のプリントオプションに制限があります。

- ［メモ書き］では［コメント］機能を使用できません。
- ［ユーザ名］、［アカウント］、［コメント］、［セキュリティプリント］機能は指定できません。

3章 リファレンス

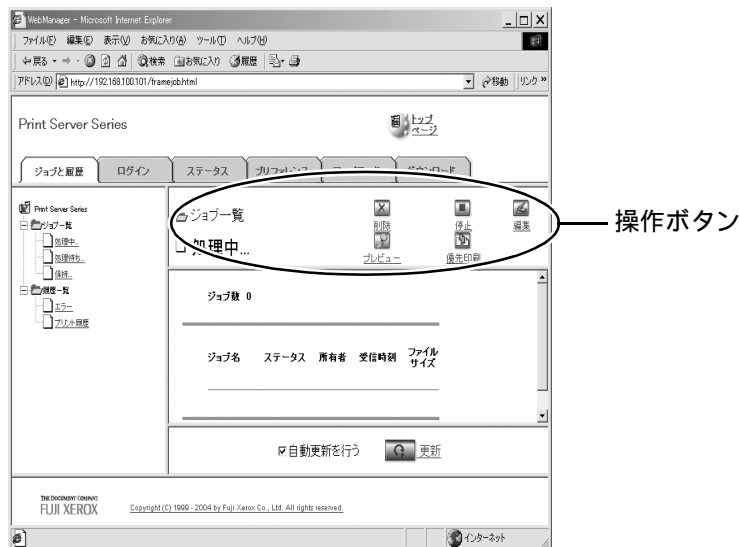
3.1 WebManager 82
3.2 StatusMonitor (Macintosh) 88

3.1 WebManager

WebManager で設定できる項目を、WebManager ウィンドウのタブ別に説明します。

ジョブと履歴タブ

［ジョブと履歴］タブには、ServerManager ウィンドウのメニューおよび［ジョブ管理リスト］と同様の働きをする項目が表示されます。

［ジョブと履歴］タブで設定できる項目は、次のとおりです。

操作ボタンについて

WebManager の操作ボタンは、ServerManager で使う［ジョブ］メニューと同様の働きをします。ジョブの状態に応じて、使用できる操作ボタンが異なります。

注記

- 選択したジョブや、ジョブの状態により、使用できるボタンは異なります。
- セキュリティープリントの指定がされているジョブは、WebManager では操作できません。

ServerManager のメニューにない項目、または ServerManager の機能と異なる項目は、次の 2 つです。

［プレビュー］ボタン
選択したジョブのプレビュー画像が、別のウィンドウで表示されます。

補足

プレビュー画像が存在しない場合は、プレビュー画像がないことを表すウィンドウが表示されます。

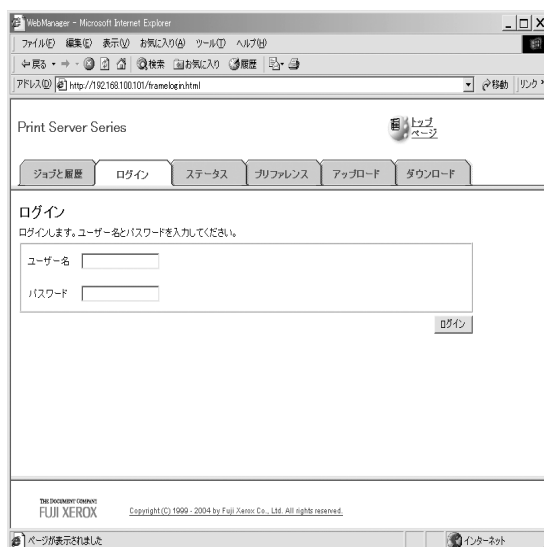
［編集］ボタン
ServerManagerの編集機能と異なる項目は、次のとおりです。
次のエラーメッセージが表示された場合は、RIP処理済みデータを作成してください。
「RIP済みデータを削除しました。RIP済みデータの作成を行ってください」

プリント履歴

左側フレームから［プリント履歴］を選択すると、プリントジョブの履歴を、表計算アプリケーションで編集できるCSV形式のファイルに出力して、画面に表示、または保存できます。プリンターを共有している場合、部門やユーザーごとにプリント履歴の確認ができるので、管理がしやすくなります。

注記
プリント履歴を記録するためには、ServerManagerで設定が必要です。ServerManagerの設定については、「2.3.1 ServerManagerの環境設定」の「 プリント履歴タブ」を参照してください。

［ログイン］タブ

［ログイン］タブは、WebManagerにログインするときに使用します。

注記
［ユーザー名］と［パスワード］は、大文字と小文字を区別します。

参照
WebManagerにログインするためのユーザー名とパスワードは、ServerManagerで指定します。

［ステータス］タブ

［ステータス］タブには、ServerManager のマシン状態ウィンドウと同様の働きをする項目が表示されます。
サーバーの状態、用紙トレイにセットされている用紙サイズや用紙の残量、およびトナー量などが確認できます。

［ステータス］タブで確認できる項目は、次のとおりです。

サーバー
現在のサーバーの状態が表示されます。

装置
接続している装置の情報を確認できます。

トレイ
各トレイにセットされている用紙の種類、用紙サイズ、用紙の残量、トレイの状態が表示されます。

トナー
各トナーの、トナーの状態が表示されます。
接続しているプリンターごとに、トナーの状態を確認できます。

ネットワーク
サーバーに設定した、ネットワークプロトコルごとのプリンターの稼働状態や、通信状態が表示されます。

[プリファレンス] タブ

[プリファレンス] タブには、ServerManager で設定したキャリブレーションデータやカラープロファイルなどの設定内容を、確認および変更できる機能が表示されます。

[プリファレンス] タブで設定できる項目は、次のとおりです。

キャリブレーション方法の選択
標準プロファイルに適用されているキャリブレーションの方法を確認できます。

キャリブレーション
各トレイに割り当てられているキャリブレーションデータと、データの作成日時を、キャリブレーションの種類別に確認できます。

RGB 色補正プロファイル
ユーザー 1 〜 10 までに割り当てられている、RGB 色補正プロファイルを確認できます。

RGB 出力プロファイル
ユーザー 1 〜 10 までに割り当てられている、RGB 出力プロファイルを確認できます。

CMYK シミュレーション
プロファイル 1 〜 10 までに割り当てられている、カラープロファイルを確認できます。

ユーザー調整カーブ
ユーザー調整に割り当てられている、ユーザー調整カーブのプロファイルを確認できます。

環境設定
ジョブリストの自動更新間隔を設定できます。

■自動更新間隔

自動的に更新する間隔を設定できます。0 〜 30 までの範囲で設定できます。[0] の場合は、自動で更新しません。単位は、「秒」です。デフォルトは、[30] 秒です。

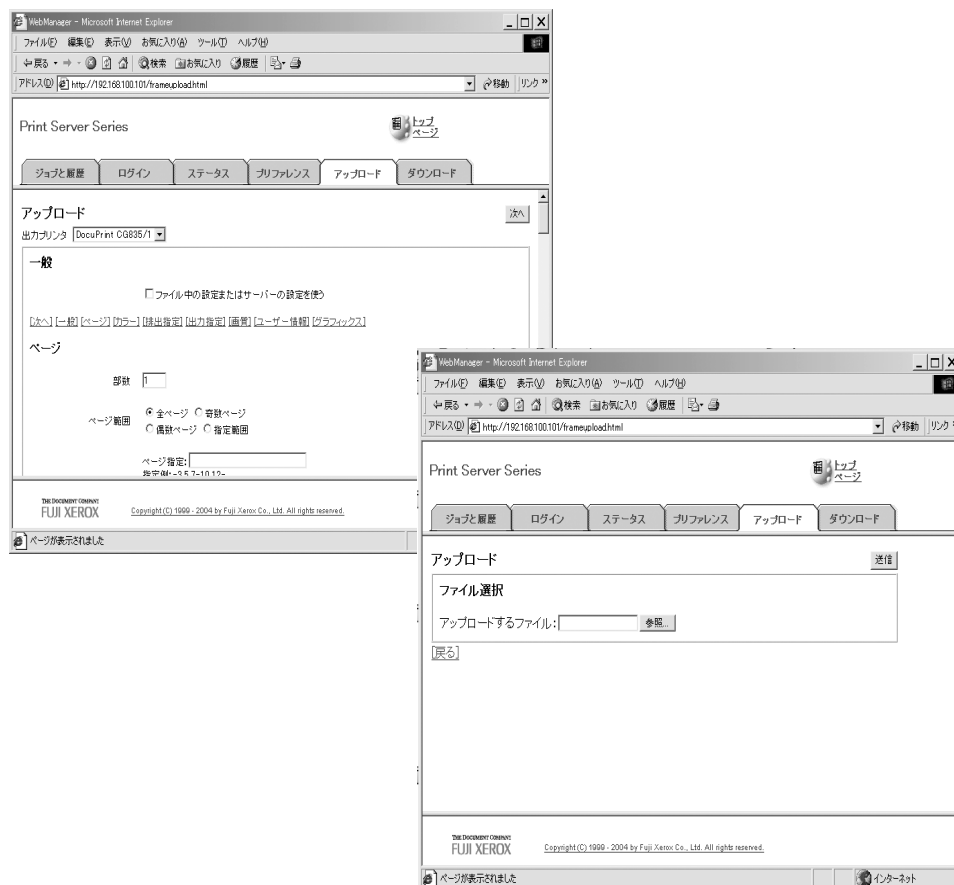
■[新しい設定を適用する] ボタン

設定した数値で実行します。

アップロードタブ

[アップロード] タブでは、クライアントのコンピューターにあるドキュメントをサーバーに送信してプリントできます。
設定できるプリントオプションの項目は、クライアントから設定するプリントオプションや [ジョブ編集] ダイアログボックスに表示される項目と同様です。

参照

プリントオプションの詳細については、「プリントオプション」を参照してください。

[ダウンロード] タブ

[ダウンロード] タブでは、クライアントのコンピューターで使用するプリンタードライバーなど、同梱されているCD-ROMと同じ内容のアプリケーションや、サーバーのCMYKシミュレーションの割り当て情報などを入手できます。
クライアントソフトウエアは、左側フレームの各OSの項目から、またプロファイル設定は、左側フレームの[共通] からダウンロードできます。

参照

ソフトウエアのダウンロードについては、「ソフトウエアの入手方法」を参照してください。

3.2 StatusMonitor（Macintosh）

StatusMonitor は、AppleTalk プロトコルを使用して Macintosh からサーバーやジョブの状態を確認するためのソフトウエアです。

補足
TCP/IP 環境でお使いの場合は、クライアント PC の Web ブラウザーで WebManager が利用できます。WebManager については、「Web ブラウザーでジョブを管理する」を参照してください。

StatusMonitor では、以下のことが行えます。

- **ジョブの確認や操作ができます。**
  サーバーに送信したジョブを確認したり、サーバーに保存したジョブを削除したりできます。

- **サーバーやプリンターの状態を確認できます。**
  サーバーの状態、プリンターにセットされている用紙サイズや用紙の残量、およびトナー量などを確認できます。

接続について
- **1 台のサーバーにつき、同時に 10 クライアントまで接続できます。**
- **1 クライアントから、同時に 4 台までのサーバーに接続できます。**

3.2.1 サーバーに接続する

サーバーへの接続には、次の方法があります。
- **アプリケーションアイコンから接続する**
- **StatusMonitor の［ファイル］メニューから接続する**
- **接続設定ファイルを開いて接続する**

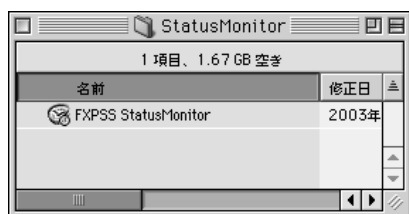
ここでは例として、Macintosh の Classic モードの場合で説明します。

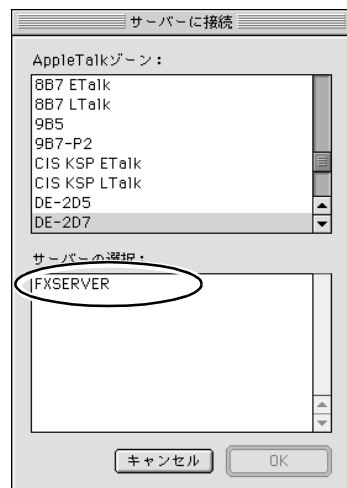
アプリケーションアイコンから接続する

操作手順

1 **［Print Server Series］フォルダ内の［StatusMonitor］フォルダをダブルクリックします。**

［Print Server Series］フォルダは、インストール時に作成されたフォルダです。
［StatusMonitor］フォルダの内容が表示されます。

2 **［FXPSS StatusMonitor］をダブルクリックします。**

StatusMonitor が起動し、［セレクタ］で選択されているプリンターに接続を開始します。
［セレクタ］で DocuPrint CG835 L II が選択されている場合は、StatusMonitor のウィンドウが表示されます。

［セレクタ］で DocuPrint CG835 L II 以外が選択されている場合は、［サーバーに接続］ダイアログボックスが表示されます。
DocuPrint CG835 L II を選択して、［OK］をクリックしてください。

補足
選択されているプリンターが Print Server Series 以外の場合は、［サーバーに接続］ダイアログボックスの表示に時間がかかることがあります。

接続できると、StatusMonitor のウィンドウが表示されます。

StatusMonitor の［ファイル］メニューから接続する

［ファイル］メニューから［新規］または［接続ファイルを開く］、［最近使ったサーバー］を選択して接続できます。

［新規］
新規にサーバーに接続できます。
［新規］を選択し、表示される［サーバーに接続］ダイアログボックスで、接続したいサーバーを選択して、［OK］をクリックします。

［接続ファイルを開く］
［接続ファイルを開く］を選択し、表示されるダイアログボックスで、接続設定ファイルを選択して、［OK］をクリックします。

補足
接続設定ファイルについては、「3.2.3 StatusMonitor を終了する」を参照してください。

［最近使ったサーバー］
［最近使ったサーバー］には、接続設定ファイルを保存したサーバーのうち、最新の 10 個が表示されます。
サーバーを選択すると、該当する接続設定ファイルが開き、その設定内容で、StatusMonitor ウィンドウが表示されます。

参照
接続設定ファイルについては、「3.2.3 StatusMonitor を終了する」を参照してください。

接続設定ファイルを開いて接続する

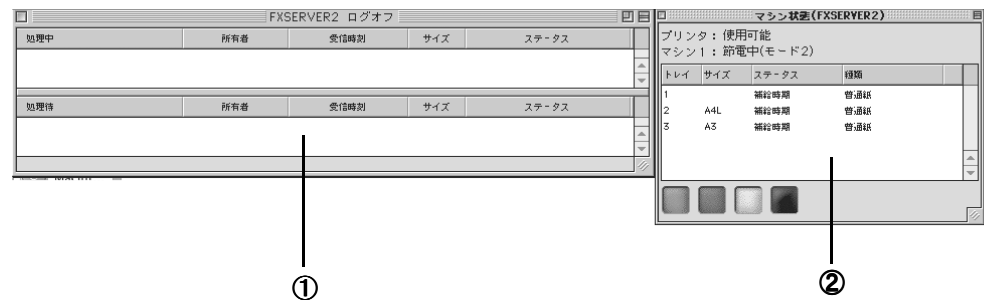
操作手順

1 **接続設定ファイルをダブルクリックします。**

StatusMonitor が起動し、接続設定ファイルに保存された内容で StatusMonitor ウィンドウが表示されます。

参照
接続設定ファイルについては、「3.2.3 StatusMonitor を終了する」を参照してください。

3.2.2　StatusMonitor のウィンドウ

StatusMonitor は、次の 2 つのウィンドウから構成されています。

① StatusMonitor ウィンドウ

StatusMonitor のメインウィンドウです。ジョブの状態が表示されます。

ジョブ管理リスト

ジョブ管理リストには、サーバー内にあるすべてのジョブが表示されます。通常、文字の色は黒で表示されますが、ジョブの状態によって色文字が使われるものもあります。ジョブの状態には、次のものがあります。

■処理中キュー

現在サーバーでプリント処理されているジョブの一覧が表示されます。処理中ジョブのうち、プリント中のものは青い文字で、用紙切れなどが発生しているものは赤い文字で表示されます。

■処理待ちキュー

現在サーバーでプリント処理を待っているジョブの一覧が表示されます。

■保持キュー

プリント処理が終わったものなど、サーバーに保持されているジョブの一覧とジョブ数が表示されます。

■エラーキュー

プリント処理で、エラーが発生したジョブの一覧とジョブ数が表示されます。エラージョブのうち、用紙切れなどプリントオプションの設定を変更する必要がないエラーが発生しているものは黒い文字で、プリントオプションの設定を変更すれば再プリントできるものはオレンジ色の文字で表示されます。また、クライアントでドキュメントを作成し直す必要があるジョブなどは、赤い文字で表示されます。

②マシン状態ウィンドウ

マシン状態ウィンドウでは、次の項目が表示されます。
［表示］メニューの［マシン状態］を選択すると、表示 / 非表示の切り替えができます。

トレイ情報
各トレイにセットされている用紙サイズ、トレイの状態、および用紙の種類が表示されます。

補足
トレイ 2 とトレイ 3 は、オプションのトレイモジュールが装着されている場合に表示されます。

トナー量
各トナーの残量が、4 種類のアイコンで表現されます

	トナーが十分にある状態です。
	トナーが残り少ない状態です。トナーカートリッジの交換時期です。
	トナーが空の状態です。トナーカートリッジを交換してください。
	トナーカートリッジがセットされていません。トナーカートリッジを正しくセットしてください。

StatusMonitor のメニュー

StatusMonitor にあるメニュー項目について説明します。

ファイル
StatusMonitor の接続に関するメニューです。
「ファイルメニュー」で、詳細を説明します。

編集
StatusMonitor では、このメニュー項目は選択できません。

表示
保持キュー、エラーキュー、マシン状態ウィンドウの表示 / 非表示の切り替えと、表示を最新のサーバー状態に更新します。

ジョブ操作
ジョブの操作ができます。よく使うメニューの1つです。
「ジョブ操作メニュー」で、詳細を説明します。

ウィンドウ
開いている他のStatusMonitorウィンドウに切り替えることができます。
現在最前面に表示されているStatusMonitorウィンドウ名には、先頭にチェックマークが付きます。

ファイルメニュー

［ファイル］メニューで操作できる項目は、次のとおりです。

新規
「サーバーに接続する」を参照してください。

接続ファイルを開く
「サーバーに接続する」を参照してください。

切断
アプリケーションを終了しないで、最前面にあるStatusMonitorウィンドウを閉じて、接続先のサーバーとの接続を切断します。
対象のサーバーとの接続設定ファイルが一度も保存されていない場合は、ファイル保存のダイアログボックスが表示されます。接続設定ファイルを開いて接続し、ログイン状態が変更になっている場合は、パスワードについての確認のダイアログボックスが表示されます。

参照
接続設定ファイルについては、「3.2.3 StatusMonitorを終了する」を参照してください。

接続を保存
最前面にあるStatusMonitorウィンドウの設定を、接続設定ファイルに保存します。ログイン状態が変更になっている場合は、パスワードについての確認のダイアログボックスが表示されます。

参照
接続設定ファイルについては、「3.2.3 StatusMonitorを終了する」を参照してください。

別名で保存
接続設定ファイルを別名で保存します。ログイン状態が変更になっている場合は、パスワードについての確認のダイアログボックスが表示されます。

参照
接続設定ファイルについては、「3.2.3 StatusMonitorを終了する」を参照してください。

最近使ったサーバー
「サーバーに接続する」を参照してください。

初期設定
サーバー情報の更新間隔を設定します。1 ～ 30 秒の範囲で、1 秒刻みに指定できます。デフォルトは、[10] 秒です。

ログイン / ログオフ
ログイン / ログオフ状態を切り替えます。ログオフ状態からログイン状態に切り替える場合は、パスワード入力画面が表示されます。
サーバーの管理者パスワード、または一般ユーザーのパスワードを入力して、[OK] をクリックします。

終了
StatusMonitor を終了します。保存されていない接続がある場合は、接続設定ファイルの保存確認のダイアログボックスが表示されます。

参照
接続設定ファイルについては、「3.2.3 StatusMonitor を終了する」を参照してください。

ジョブ操作メニュー

[ジョブ操作] メニューおよびポップアップメニューで使用できる項目は、次のとおりです。

注記
- ログイン状態になっていないと、[すべてのジョブを選択] 以外は選択できません。
- セキュリティープリントの指定がされているジョブに対しての操作はできません。

全てのジョブを選択
ジョブを選択し、[ジョブ操作] メニューから [全てのジョブを選択] を選択します。
選択したジョブがあるリストの、すべてのジョブが選択されます。
このメニューは、すべてのリストで使用できます。

削除
ジョブを選択し、[ジョブ操作] メニューから [削除] を選択して、表示された [ジョブの削除] ダイアログボックスで、[はい] をクリックします。
選択したジョブが削除されます。
このメニューは、すべてのリストで使用できます。

優先印刷

ジョブを選択し、［ジョブ操作］メニューの［優先印刷］を選択します。
選択したジョブが最優先にプリントされます。
選択したジョブが処理中の場合は、現在プリント中のジョブの次にプリントされます。選択したジョブが処理待ちの場合は、ジョブが処理待ちリストの先頭に移動されます。
RIP 処理中のジョブに対しては、優先印刷ができません。

補足
ServerManager の［サーバーの環境設定］の［プリント］タブで、［カバーページを印刷する］を選択している場合には、処理中ジョブの優先印刷はできません。

停止

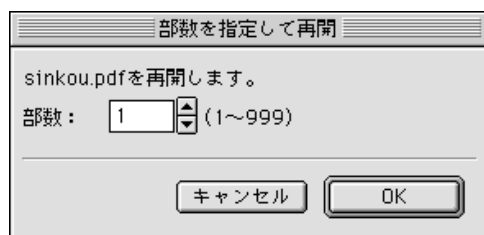
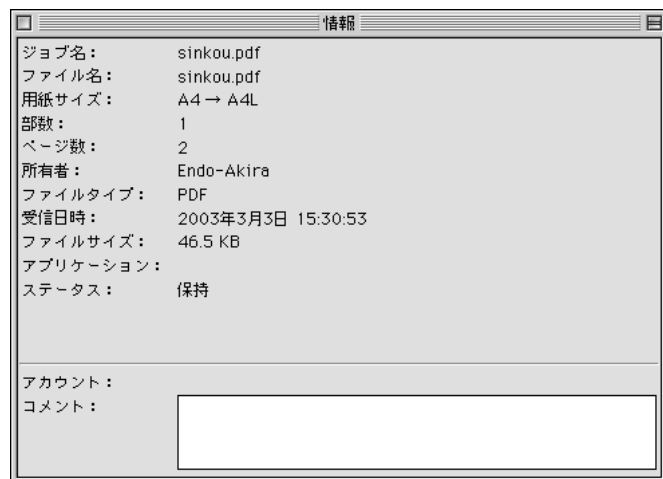
ジョブを選択し、［ジョブ操作］メニューから［停止］を選択します。
処理中のジョブが停止し、保持リストの最下段に移動されます。
このメニューは、処理中または処理待ちリストにあるジョブを選択した場合にだけ使用できます。

補足
受信中のジョブを途中で停止しても、受信が終了するまで処理中リストにあるジョブは停止されません。受信終了後、次のジョブの処理（RIP）が開始されます。

再開

ジョブを選択し、［ジョブ操作］メニューの［再開］を選択します。
選択したジョブが、処理待ちリストの最下段に移動されます。
このメニューは、保持またはエラーリストにあるジョブを選択した場合にだけ使用できます。

部数を指定して再開

ジョブを選択し、［ジョブ操作］メニューの［部数を指定して再開］を選択します。
［部数を指定して再開］ダイアログボックスが表示されます。1 〜 999 部の範囲で、1 部刻みに指定できます。
このメニューは、保持またはエラーリストにあるジョブを選択した場合にだけ使用できます。
部数を変更すると、ServerManager 上の該当ジョブの部数も変更されます。

ジョブ情報
ジョブを選択し、［ジョブ操作］メニューの［ジョブ情報］を選択します。
選択したジョブの［情報］ウィンドウが表示されます。複数のジョブを選択した場合は、選択されたすべての［情報］ダイアログボックスを別々のウィンドウで表示します。
このメニューは、すべてのリストで使用できます。

3.2.3 StatusMonitor を終了する

操作手順

1 ［ファイル］メニューから［終了］を選択します。

以下のようなダイアログボックスが表示されます。

［保存］をクリックすると、ウィンドウの状態やログインパスワードをファイルに保存できます。手順 2 に進みます。

設定を保存しない場合は、［保存しない］をクリックします。StatusMonitor が終了します。

2 **［名前］を指定し、ログインモードの場合は、必要に応じて［ログインパスワードを保存する］チェックボックスをオンにし、［保存］をクリックします。**

［ログインパスワードを保存する］チェックボックスをオンにすると、作成される接続設定ファイルにログインパスワードが保存できます。

次回からは作成されたファイルを開くだけで、保存された設定でStatusMonitorウィンドウが表示されます。

指定した場所に、接続設定ファイルが保存されます。

フォントについて

4.1　市販フォントのインストール 100
4.2　フォント情報の確認と バックアップ 101
4.3　代替フォントの指定 107

この章では、市販フォントのインストールと代替フォントの指定について説明します。

4.1 市販フォントのインストール

市販フォントをインストールする手順について説明します。

補足
欧文フォントのダウンロードには、製品に同梱されている PSTool 2.0J を使用してください。

注記
- 市販フォントをインストールする場合は、まず ServerManager の［ツール］メニューから［サーバーの環境設定］を選択し、［ネットワーク］タブから AppleTalk のプリンターを作成してください。そのあと、市販フォントをインストールしてください。
- 新規にフォントをインストールし、［フォント更新］を実行したときに、PostScript エラーが発生した場合は、いったん新規に追加したフォントをアンインストールして、再度インストールしてください。
- フォントがインストールできない場合や、フォントの更新時にエラーが発生する場合は、サーバー本体上で、利用しているネットワーク環境の通信速度に合わせて、ネットワークカードの通信速度を 10Base-Half、または 100Base-Half に固定した状態でフォントをインストールしてください。

操作手順

1 ［FX_ServerManager］ウィンドウの［ファイル］→［特別］→［フォントダウンロード開始］を選択します。

補足
［フォントダウンロード開始］を選択すると、［フォントダウンロード終了］を選択するまで、プリント処理は行われません。

2 セレクタ（漢字 Talk 7.6.1 以降）またはプリントセンター / プリンタ設定ユーティリティ（Mac OS X）で、フォントダウンロード用のプリンターに接続します。

フォントダウンロード用のプリンター名は、「XXX-Font」になります。

補足
「XXX」には、AppleTalk のプリンター名が表示されます。

3 フォントメーカーのインストール手順に従い、インストールします。

4 インストールが終了したら、［FX_ServerManager］ウィンドウの［ファイル］→［特別］→［フォントダウンロード終了］を選択します。

5 ほかにもインストールしたいフォントがあるときは、手順 1 ～ 4 を繰り返します。

フォントメーカーによっては、一度に複数の書体をインストールできる場合もあります。各フォントメーカーのインストール手順に従ってください。

6 フォントのインストールがすべて完了したら、［ファイル］メニューから［フォントの更新］を選択します。

フォントの更新をすることで、Macintosh からの FontQuery に応答できるようになり、インストールされているフォントを使用してプリントできます。

Windows からのプリントには影響しません。

4.2 フォント情報の確認とバックアップ

■この機能でできること

サーバーにインストールされているすべてのフォント情報に関して、次の項目を確認および実行できます。

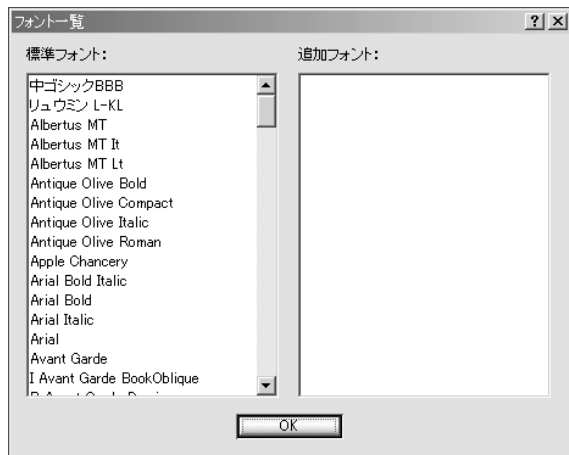
- **フォント一覧の表示およびプリント**
- **フォントのバックアップおよびバックアップしたフォントの復元**
- **フォントディスクの作成、変更、および削除**
- **フォントのダウンロードの開始および終了**

安全のため、フォントのバックアップを作成することをお勧めします。万一トラブルが起きたときに、復旧作業の時間を短縮できます。

フォント一覧を表示する

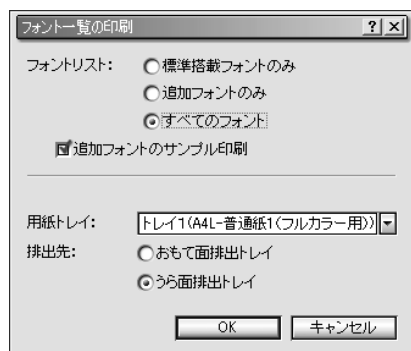
操作手順

1 **［FX_ServerManager］ウィンドウの［ファイル］メニューから［フォント一覧の表示］を選択します。**

［フォント一覧］ダイアログボックスが表示されます。

フォント一覧を印刷する

操作手順

1 **［FX_ServerManager］ウィンドウの［ファイル］メニューから、［フォント一覧の印刷］を選択します。**

［フォント一覧の印刷］ダイアログボックスが表示されます。

2 **フォントリストを選択します。**

次の指定ができます。デフォルトは、［すべてのフォント］です。

- **標準搭載フォントのみ**
  標準搭載フォントの書体名と印字サンプルがプリントされます。
- **追加フォントのみ**
- **すべてのフォント**
- **追加フォントのサンプル印刷**
  ［追加フォントのみ］または［すべてのフォント］を選択した場合に、指定できます。
  チェックボックスをオンにすると、追加フォントの書体名と印字サンプルがプリントされます。オフにすると、追加フォントの書体名だけがプリントされます。

注記
追加したフォントは、インストールをした順ではなく、アルファベット順に表示されます。

3 **［用紙トレイ］、［排出先］を設定して、［OK］をクリックします。**

フォント一覧がプリントされます。

フォントについて

4

フォントのバックアップを作成する

操作手順

1 ［FX_ServerManager］ウィンドウの［ファイル］→［特別］→［フォントのバックアップの作成］を選択します。

［パスワード確認］ダイアログボックスが表示された場合は、管理者用パスワードを入力し、［OK］をクリックします。

［名前を付けて保存］ダイアログボックスが表示されます。

2 保存するディレクトリを指定して、［保存］をクリックします。

指定したディレクトリにフォントファイルがバックアップされます。

ファイルの拡張子は、「.far」です。
バックアップファイルは、100MB 単位で分割して保存されます。ファイルが 100MB を超える場合は、バックアップファイルを分割して作成します。
分割した場合の 2 番め以降のファイル名は、「ファイル名 +（n-1）.far」になります。

バックアップしたフォントを復元する

注記

すべてのバックアップファイルがサーバー上にないと、バックアップしたフォントを復元できません。

操作手順

1 ［FX_ServerManager］ウィンドウの［ファイル］→［特別］→［フォントのバックアップの復元］を選択します。

［パスワード確認］ダイアログボックスが表示された場合は、管理者用パスワードを入力し、［OK］をクリックします。

［ファイルを開く］ダイアログボックスが表示されます。

2 復元するファイルを指定して、［開く］をクリックします。

指定したバックアップファイルが復元されます。

ファイルの拡張子は、「.far」です。バックアップファイルが分割されている場合は、最初に作成されたバックアップファイルを指定します。

フォントディスクを追加する

指定したドライブにフォントディスクを作成し、追加することができます。

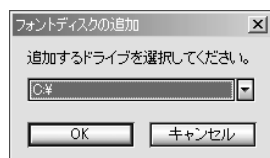
補足

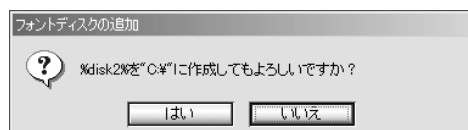
- フォントディスクは、市販フォントのインストール用ディスクスペースです。
- 指定したドライブに、すでにフォントディスクが存在する場合は、作成できません。

操作手順

1 **［FX_ServerManager］ウィンドウの［ファイル］→［特別］→［フォントディスクの追加］を選択します。**

［パスワード確認］ダイアログボックスが表示された場合は、管理者用パスワードを入力し、［OK］をクリックします。

［フォントディスクの追加］ダイアログボックスが表示されます。

2 **フォントディスクを追加するドライブを選択し、［OK］をクリックします。**

［フォントディスクの追加］の確認ダイアログボックスが表示されます。

3 **［はい］をクリックします。**

指定したドライブにフォントディスクが追加されます。

フォントディスクを変更する

指定したドライブにフォントディスクを作成し、指定されたフォントディスクの内容をコピーして、コピー終了後にもとのフォントディスクを削除します。

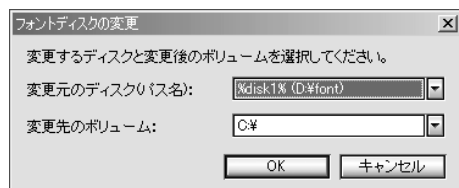
補足

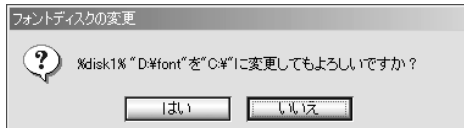
指定したドライブに、すでにフォントディスクが存在する場合は、作成できません。

操作手順

1 **［FX_ServerManager］ウィンドウの［ファイル］→［特別］→［フォントディスクの変更］を選択します。**

［パスワード確認］ダイアログボックスが表示された場合は、管理者用パスワードを入力し、［OK］をクリックします。

［フォントディスクの変更］ダイアログボックスが表示されます。

2 **フォントディスクを変更するドライブ、変更後に保存するドライブを選択し、[OK] をクリックします。**

［フォントディスクの変更］の確認ダイアログボックスが表示されます。

3 **[はい] をクリックします。**

指定したドライブのフォントディスクが変更されます。

フォントディスクを削除する

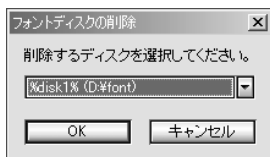
注記

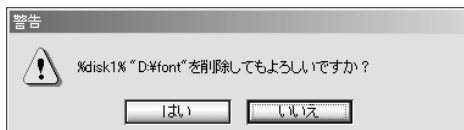
Disk0 は削除できません。削除を実行しても、フォントディスク番号は変更されません。

操作手順

1 **[FX_ServerManager] ウィンドウの [ファイル] → [特別] → [フォントディスクの削除] を選択します。**

［パスワード確認］ダイアログボックスが表示された場合は、管理者用パスワードを入力し、［OK］をクリックします。

［フォントディスクの削除］ダイアログボックスが表示されます。

2 **フォントディスクを削除するドライブを選択し、[OK] をクリックします。**

［警告］ダイアログボックスが表示されます。

3 **[はい] をクリックします。**

指定されたフォントディスクが削除されます。

フォントのダウンロードを開始 / 終了する

サーバーにフォントをダウンロードできます。ダウンロード用のプリンター名が、AppleTalk 上に作成されます。
この間、プリントジョブの受信はされますが、RIP 処理は行われません。
フォントダウンロードの開始と終了は、メニューの選択によって切り替わります。

操作手順

1 **［FX_ServerManager］ウィンドウの［ファイル］→［特別］→［フォントダウンロード開始］を選択します。**

［パスワード確認］ダイアログボックスが表示された場合は、管理者用パスワードを入力し、［OK］をクリックします。

フォントのダウンロードが開始されます。

フォントダウンロード用のプリンター名は、「XXX-Font」になります。

補足
「XXX」には、AppleTalk のプリンター名が表示されます。

2 **ダウンロードを終了する場合は、手順 1 に戻って［フォントダウンロード終了］を選択します。**

補足
市販フォントのインストール手順については、「付録 F 市販フォントのインストール」を参照してください。

フォントを更新する

注記
市販のフォントを追加したら、フォントの更新をしてください。フォントの更新をしないと、追加したフォントをサーバーが認識できません。

フォントリストの更新は、メニューから実行します。
［ファイル］メニューの［フォントの更新］を選択すると、処理中リストに、「フォントリストの再構築中」と表示されます。処理中のジョブがある場合は、処理待ちリストに表示されます。

4.3 代替フォントの指定

この機能を使うと、ドキュメントで使用しているフォントがプリンターにインストールされていないときに置き換えるフォントを指定できます。
標準で設定されている代替フォントは、欧文が「Courier」、和文が「平成明朝体 W3」です。

操作手順

1 **［FX_ServerManager］ウィンドウの［ファイル］メニューから［終了］を選択します。**

ServerManager が終了します。

2 **「D:￥Fuji Xerox\Print Server Series\cpsi\Startup」ディレクトリの SubstituteFont.ps ファイルを、メモ帳などのアプリケーションを使って開きます。**

3 **次の箇所の（　　）内を、代替するフォント名に書き換えます。**

```
%!

currentglobal true setglobal

FX_dict /RomanSubstFont (Courier) put
FX_dict /JapaneseSubstFont (Heisei-Mincho) put
```

4 **編集したファイルを保存します。**

5 **サーバーを再起動します。**

5章

その他の情報

5.1　エラージョブメッセージ一覧 110
5.2　プリンタードライバーのインストール 119
5.3　Microsoft Windows Network で使用する場合 136
5.4　Windows 2000/XP で共有プリンターを使う場合 139
5.5　Mac OS X から IPP を使う場合 141
5.6　NetWare で使用する場合 142
5.7　TCP/IP からのプリント使用制限の設定 151
5.8　AppleTalk を使用する場合の注意事項 152
5.9　PostScript ファイルを作成する 153
5.10　SunRaster と XWD について 157
5.11　ディスプレイの調整 159
5.12　リカバリー CD-ROM の使い方 161
5.13　カスタムサイズの用紙へのプリント 164
5.14　セキュリティに関する設定 166
5.15　使用上のご注意 169
5.16　eye-one_Reader と測色器について 170
5.17　用語集 178

5.1 エラージョブメッセージ一覧

エラーになったジョブに表示される、エラーメッセージについて説明します。
以下のメッセージは、ServerManager と StatusMonitor のエラーリスト中の「ステータス」や、[ジョブ編集] ダイアログボックスを表示したときに、[情報] タブの [ステータス] に表示されます。

RIP エラー

番号	エラーリストのステータス	[情報] タブの [ステータス]	対応
1 ～ 6	RIP エラー	CPSI の内部でエラーが発生しました	通常の使用では発生しません。サーバーを再起動してください。
7	CPSI 初期化エラー	CPSI の内部でエラーが発生しました。必要なファイルが見つかりません	通常の使用では発生しません。
8 ～ 9	RIP エラー	CPSI の内部でエラーが発生しました	通常の使用では発生しません。サーバーを再起動してください。
10	RIP エラー	RIP エラー	通常の使用では発生しません。サーバーを再起動してください。
11	VM エラー	CPSI のメモリが不足しています	サーバーを再起動してください。このエラーが何度も発生する場合は、お買い求めの販売店または、プリンターサポートデスクに連絡してください。
12	ディスク容量不足	ディスクの容量が不足しています	不要なジョブなどを削除して、ディスクの空き容量を増やしてから再プリントしてください。
13 ～ 14	RIP エラー	CPSI の内部でエラーが発生しました	通常の使用では発生しません。サーバーを再起動してください。
91	PDF 印刷エラー	このPDFファイルは印刷を許可されていません	セキュリティーが設定されている PDF ファイルはプリントできません。
92 ～ 94	PDF 変換エラー	PDFファイルを変換するときにエラーが発生しました	Acrobat Reader などからプリントしてください。
100	ジョブ入力エラー	ジョブ読み込みに失敗しました	再度、ジョブをサーバーに送信してください。たびたび起こる場合は、ディスク障害の可能性もあります。

番号	エラーリストのステータス	［情報］タブの［ステータス］	対応
101	ファイル出力エラー	ディスクへの書き込みに失敗しました	RIP 直前データの保存に失敗しました。（通常の運用では使用されていません） 不要なジョブなどを削除して、ディスクの空き容量を増やしてから再プリントしてください。空きがあるのに起こる場合は、ディスク障害の可能性もあります。
102	プリントオプションエラー	分版合成はカラーモード「グレースケール」ではできません	［グレースケール］と［色分版の合成］を同時に指定してプリントしたために発生しました。［色分版の合成］は、カラーモードのときだけ利用可能な機能です。［カラー］でプリントしてください。
103	プリントオプションエラー	このプリントオプションでは両面印刷できません	プリントオプションを確認して再プリントしてください。
104	プリンター電源オフ	プリンタの電源が入っていません	プリンターの電源を入れてから、エラーリストに入った該当するジョブを再開してください。
105	プリントオプションエラー	このプリンタは両面印刷できません	片面でプリントしてください。両面印刷を行うには、両面印刷モジュール（オプション）をプリンターに装着する必要があります。
106	ラスター画像変換エラー	画像変換に失敗しました	SunRaster・XWD・TIFF 画像の変換に失敗しました。
107	PostScript エラー	PostScript エラーです	ドキュメントを確認してください。
108	用紙トレイなし	指定された用紙（用紙サイズ、用紙の種類）に必要なトレイがありません	使用したい用紙をプリンターにセットしてから、エラーリストに入った該当ジョブを再開してください。
112	ディスク容量不足	ディスクが一杯です	不要なジョブなどを削除して、ディスクの空き容量を増やしてから再プリントしてください。
114	RIP 済みデータ入力エラー	RIP済みデータの読み込みに失敗しました	RIP 処理済みデータを削除して、再プリントしてください。

番号	エラーリストのステータス	[情報]タブの[ステータス]	対応
115	RIP 済みデータ出力エラー	RIP済みデータの書き込みに失敗しました	ディスクの空き容量が不足しているため、RIP 処理済みデータをディスクに書き込めません。 不要なジョブなどを削除して、ディスクの空き容量を増やしてから再プリントしてください。空きがあるのに起こる場合は、ディスク障害の可能性もあります。
116	出力部数エラー	コピー部数が999を超えています	部数を 999 部以下に設定して、再プリントしてください。
117	ユーザー調整ファイルエラー	ユーザー調整用のファイルが見つかりません	ユーザー調整カーブの割り付け状態を確認してから、再プリントしてください。
118	キャリブレーションファイルエラー	キャリブレーション用のファイルが見つかりません	キャリブレーションの割り付け状態を確認してから、再プリントしてください。
120	分版合成エラー	色版の数が合わないため分版合成に失敗しました	[色分版の合成]のところで[QuarkXPress3-Style]などを指定してプリントしたときに色版の数が合っていません。 [自動]を指定して、プリントしてください。
121	ディスク容量不足	ジョブデータがディスクに保存されていないため処理できません	ジョブが空きディスク容量不足でディスクに保存できなかった場合、再プリントや[ソートする(一部ごと)]などで発生します。不要なジョブなどを削除して、ディスクの空き容量を増やしてから再度、ジョブをサーバーに送信してください。
122	両面印刷サイズエラー	おもて面とうら面の用紙サイズが異なるため両面印刷できません	改ページの場所を調整するか、片面でプリントしてください。
126	プリントオプションエラー	指定された用紙種類では両面印刷できません	両面印刷ができる用紙を使用してください。
133	メモリー不足エラー	メモリの確保に失敗しました	メモリー容量が不足しています。再プリントしてください。
139	用紙トレイなし	指定された用紙サイズ(RIP 済みデータの用紙サイズ)、用紙種類)に必要なトレイがありません	RIP 処理済みデータの用紙サイズをトレイにセットするか、RIP 処理済みデータを削除して、再度 RIP 処理し直してください。

番号	エラーリストのステータス	［情報］タブの［ステータス］	対応
140	サイズエラー	用紙サイズが自動の場合、手差しトレイは指定できません	EPS/TIFF/SunRaster/XWD はプリントオプションの［グラフィックス］タブで、［用紙サイズ］を［自動］に設定している場合、手差しトレイは指定できません。 ほかのトレイを指定してください。
141	サイズエラー	節電中にトレイの用紙サイズが変更されたため印刷できませんでした	用紙サイズを確認してください。
142	サイズエラー	SunRaster/XWD は A3x2/B4x2/A2L/B3L に印刷できません	用紙サイズを確認してください。
143	RGB 色補正プロファイルエラー	RGB色補正プロファイルが見つかりません	プロファイルを確認してください。
144	RGB 出力プロファイルエラー	RGB出力プロファイルが見つかりません	プロファイルを確認してください。
152	RIP エラー	CMYK 色補正に問題（nnn）があります。	nnn に表示される番号を書き留めたうえで、お買い求めの販売店、またはプリンターサポートデスクに連絡してください。
153	RIP エラー	トナー制限に問題（nnn）があります	nnn に表示される番号を書き留めたうえで、お買い求めの販売店、またはプリンターサポートデスクに連絡してください。
155	RIP エラー	ユーザー調整・TRC・キャリブレーションに問題（nnn）があります	nnn に表示される番号を書き留めたうえで、お買い求めの販売店、またはプリンターサポートデスクに連絡してください。
156	プリントオプションエラー	手差しトレイからは A5 ブックレットを出力できません	ほかのトレイを指定してください。
157	プリントオプションエラー	範囲指定したページがありません	ページ範囲の指定を確認してください。
164	用紙トレイなし	指定された用紙トレイがありません	オプションのトレイモジュール（2 段）/（1 段）が装着されていない場合は、トレイ 2、3 を指定できません。 ほかのトレイを指定してください。

番号	エラーリストのステータス	［情報］タブの［ステータス］	対応
165	両面印刷エラー	特 A3 トレイから両面印刷をおこなうことはできません	ほかのトレイを指定してください。
199	RIP エラー	RIP エラー	お買い求めの販売店、またはプリンターサポートデスクに連絡してください。

コントローラーボードエラー

コントローラーボードエラーが発生すると、エラーリストには「コントローラボードエラー」と表示され、［情報］タブの［ステータス］では、「コントローラボードでエラーが発生しました」と表示されます。
エラーコードには、次のものがあります。

番号	説明	対応
1001 ～ 1013	基本的にこのエラーコードでジョブがエラーになることはありません。	サーバーを再起動してください。
1031	メモリー容量が不足しています。	定常状態で、再実行または拡張メモリーの追加をしてください。
1041	DMA 転送エラーです。	サーバーを再起動してください。

プリンターエラー

番号	エラーリストのステータス	［情報］タブの［ステータス］	対応
1	プリンターエラー	プリンタが故障しています	お買い求めの販売店、またはプリンターサポートデスクに連絡してください。
2	プリンターエラー	他機種の両面ユニットが装着されています	お買い求めの販売店、またはプリンターサポートデスクに連絡してください。
99	プリンターエラー	プリンタが故障しています	お買い求めの販売店、またはプリンターサポートデスクに連絡してください。
101	トレイ 1 故障	トレイ 1 が故障しています	お買い求めの販売店、またはプリンターサポートデスクに連絡してください。

番号	エラーリストのステータス	[情報] タブの[ステータス]	対応
102	トレイ 2 故障	トレイ 2 が故障しています	お買い求めの販売店、またはプリンターサポートデスクに連絡してください。
103	トレイ 3 故障	トレイ 3 が故障しています	お買い求めの販売店、またはプリンターサポートデスクに連絡してください。
104	手差しトレイ故障	手差しトレイが故障しています	お買い求めの販売店、またはプリンターサポートデスクに連絡してください。
199	プリンターエラー	プリンタが故障しています	お買い求めの販売店、またはプリンターサポートデスクに連絡してください。
201	カバーオープン	カバーを閉じてください	カバーを閉じてください。
210	トレイなし	トレイがありません	指定した用紙サイズのトレイをセットしてください。
212	トレイ用紙サイズエラー	トレイの用紙サイズを確認してください	正しい用紙をセットしてください。
213	手差し用紙サイズエラー	手差しトレイの用紙サイズを確認してください	正しい用紙をセットしてください。
214	手差し用紙種類エラー	手差しトレイの用紙種類を確認してください	正しい用紙をセットしてください。
215	プリンターエラー	トレイに OHP をセットすることはできません	OHP フィルムは手差しトレイにセットしてください。
216	手差し用紙サイズエラー	手差しトレイに用紙サイズが正しくない紙がセットされています	正しい用紙をセットしてください。
217	プリンターエラー	枠つき OHP フィルムは使用できません	適切な OHP フィルムを使用してください。
218	用紙サイズエラー	トレイの用紙サイズが設定されていません	特 A3 トレイにセットされている用紙サイズを指定してください。
219	用紙トレイエラー	トレイが正しくセットされていません	トレイを正しくセットしてください。
232	紙づまり	紙づまりです	詰まった用紙を取り除いてください。
251	イエロートナーなし	イエロートナーがありません	イエローのトナーカートリッジを交換してください。
252	マゼンタトナーなし	マゼンタトナーがありません	マゼンタのトナーカートリッジを交換してください。
253	シアントナーなし	シアントナーがありません	シアンのトナーカートリッジを交換してください。

番号	エラーリストのステータス	［情報］タブの［ステータス］	対応
254	ブラックトナーなし	ブラックトナーがありません	ブラックのトナーカートリッジを交換してください。
263	ドラムカートリッジ交換	ドラムカートリッジを交換してください	ドラムートリッジを交換してください。
266	トナー回収ボトルなし	トナー回収ボトルを確認してください	トナー回収カートリッジを正しくセットしてください。
267	トナー回収ボトルフル	トナー回収ボトルを交換してください	トナー回収カートリッジを交換してください。
281	トレイ 1 用紙なし	トレイ 1 に用紙がありません	用紙を補給してください。
282	トレイ 2 用紙なし	トレイ 2 に用紙がありません	用紙を補給してください。
283	トレイ 3 用紙なし	トレイ 3 に用紙がありません	用紙を補給してください。
285	手差しトレイ用紙なし	手差しトレイに用紙がありません	用紙を補給してください。
399	プリンターエラー	プリンタでエラーが発生しました。プリンタを確認してください	お買い求めの販売店、またはプリンターサポートデスクに連絡してください。
401	プリンターエラー	プリンタとの通信エラーが発生しました	サーバーを再起動してください。
499	プリンターエラー	コントローラ側でエラーが発生しました	お買い求めの販売店、またはプリンターサポートデスクに連絡してください。

データベースエラー

番号	エラーリストのステータス	［情報］タブの［ステータス］	対応
26	エラー終了	ジョブの処理が正常に行われていません	おもに、サーバー起動時にデータベースファイルのジョブ情報に不整合が見つかりました。 必要な作業はありません。自動的に不整合を修復し、該当するジョブがエラージョブに移動されます。

受信時エラー

番号	エラーリストのステータス	[情報] タブの[ステータス]	対応
1	ディスク容量不足	ディスクがいっぱいです	不要なジョブなどを削除して、ディスクの空き容量を増やしてください。
2	スプールファイル出力エラー	ファイルの書き込みに失敗しました	サーバーを再起動してください。
3	スプールファイル作成エラー	ファイルの作成に失敗しました	サーバーを再起動してください。
4,5	ジョブ受信エラー	受信時にエラーが発生しました	再度、ジョブをサーバーに送信してください。
6	ジョブ受信エラー	指定されたデバイスとは違うものが接続されています	接続を確認してください。

メール受信時エラー

番号	内容	対応
200	受信したメールに、印刷可能なファイルが添付されていませんでした。	送信元にご確認ください。受信したメールには印刷可能なファイルが添付されていません。
201	受信ドメインの制限によって、メールの受信が中止されました。	PDF 配信の環境設定で、受信ドメインの設定を確認してください。
202	メールサーバーからエラー通知メールを受信しました。	PDF 配信でエラーメールを確認してください。
203	分割送信されたメールの一部を受信しましたが、一定時間内に全部を受信できませんでした。	送信元にメールを再送するように依頼してください。
210	POP3 サーバーの IP アドレスを参照できませんでした。	PDF 配信の環境設定で、POP3 サーバー名を確認してください。
211	POP3 サーバーに接続できませんでした。	ネットワーク管理者にご確認ください。
212	POP3 サーバーとの接続が中断しました。	ネットワークの状態を確認してください。
213	POP3 サーバーに認証されませんでした。	ネットワーク管理者にご確認ください。

番号	内容	対応
214	POP3 サーバー上のメールボックスが開けませんでした。	ネットワーク管理者にご確認ください。
215	POP3 サーバーエラー。	ネットワーク管理者にご確認ください。
220	受信処理のためのディスク容量が不足しています。	エラーメールや不要なファイルの削除、ServerManager の不要なジョブなどを削除して、ディスクの空き容量を増やしてください。
221	受信処理中にディスクエラーが発生しました。	ディスク障害の可能性があります。お買い求めの販売店、またはプリンターサポートデスクに連絡してください。

5.2 プリンタードライバーのインストール

5.2.1 Windows 95/98/Me 用プリンタードライバーのインストール

■操作の前に
あらかじめ「5.3 Microsoft Windows Network で使用する場合」を参照し、必要な設定を行ってください。

ドライバーをインストールする前に、起動しているアプリケーションをすべて終了してください。正しくインストールできない場合があります。
あらかじめ、プリンタードライバーをダウンロードしておいてください。
ここでは、Windows 98 を例にとって説明します。

操作手順

1 「AdobePS453J」フォルダの、setup.exe アイコンをダブルクリックします。
AdobePS ドライバーのインストーラーが起動します。

2 [次へ] をクリックして、インストールを続行します。
使用許諾契約を求めるダイアログボックスが表示されます。

3 内容を確認し [同意する] をクリックして、インストールを続行します。
[プリンタの接続方法] ダイアログボックスが表示されます。

その他の情報

5

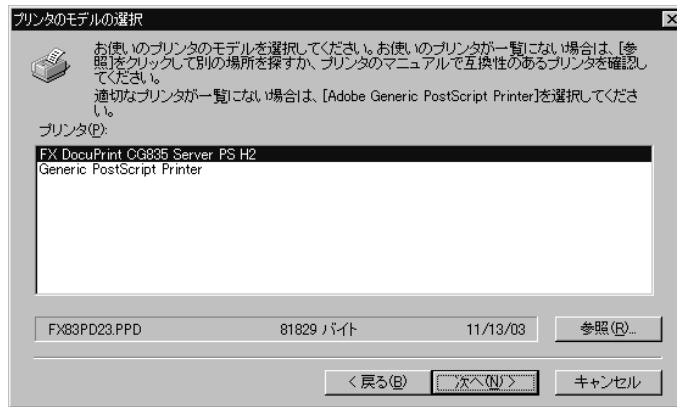
4　［ネットワークに接続（ネットワークプリンタ）］を指定して、［次へ］をクリックします。

［ネットワークパス］ダイアログボックスが表示されます。

5　ネットワークパスがわかっている場合は、テキストボックスに入力します。わからない場合は、［参照］をクリックします。

［参照］をクリックすると、ネットワークの中からプリンターを探して選択するためのウィンドウが表示されます。サーバーで共有しているプリンターを選択したら、［OK］をクリックします。

6 **［次へ］をクリックします。**

［プリンタのモデルの選択］ダイアログボックスが表示されます。

補足

DocuPrint CG835 Server PS H2が表示されないときは、［参照］をクリックして、セットアッププログラムが格納されているディレクトリを選択してください。

7 **［FX DocuPrint CG835 Server PS H2］を選択して、［次へ］をクリックします。**

［プリンタ情報］ダイアログボックスが表示されます。

8 **プリンター名を変更したい場合は、テキストボックスに入力します。**

9 **DocuPrint CG835 PS H2を通常使用するプリンターとして設定する場合は、［はい］を指定します。**

10 **インストールの完了後にテストページをプリントする場合は、［はい］を選択します。**

11 ［次へ］をクリックします。

［セットアップ情報］ダイアログボックスが表示されます。

12 ［次へ］をクリックします。

プリンタードライバーのインストールが開始されます。

インストールが終了すると、［プリンタの設定］ダイアログボックスが表示されます。

13 ［はい］を選択し、［次へ］をクリックします。

プロパティダイアログボックスが表示されます。

14 必要なオプションを設定したら、［OK］をクリックします。

［セットアップ完了］ダイアログボックスが表示されます。

15 ［完了］をクリックして、インストールを終了します。

以上で、AdobePS ドライバーのインストールは終了です。

5.2.2 Windows NT 4.0 用プリンタードライバーのインストール

■操作の前に

- **ドライバーをインストールする前に、起動しているアプリケーションをすべて終了してください。正しくインストールできない場合があります。**
- **共有プリンターを使う場合と使わない場合で、インストール方法が異なります。**
- **あらかじめ、プリンタードライバーをダウンロードしておいてください。**

注記

プリンタードライバーのインストールは、Administrator権限を持つユーザーアカウントで行ってください。

共有プリンターを使う場合

サーバーが Microsoft Windows Network 経由で印刷データを受信する場合は、あらかじめ「5.3 Microsoft Windows Networkで使用する場合」を参照し、必要な設定を行ってください。

操作手順

1 「AdobePS522J」フォルダの、setup.exe アイコンをダブルクリックします。

AdobePS ドライバーのインストーラーが起動します。

2 [次へ] をクリックして、インストールを続行します。

使用許諾契約を求めるダイアログボックスが表示されます。

3 内容を確認し [同意する] をクリックして、インストールを続行します。

[プリンタの接続方法] ダイアログボックスが表示されます。

その他の情報 5

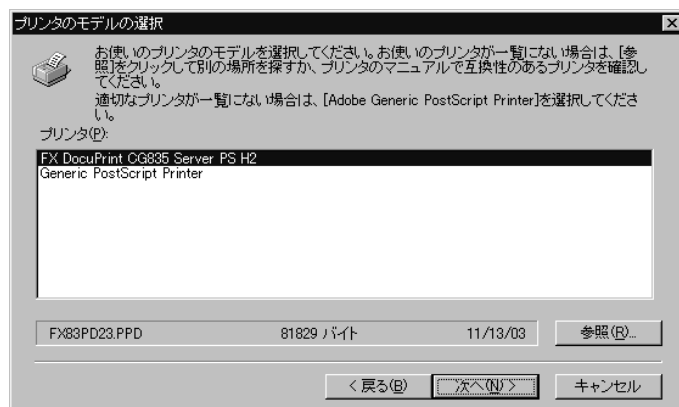
4 **［ネットワークに接続（ネットワークプリンタ）］を指定して、［次へ］をクリックします。**

［ネットワークパス］ダイアログボックスが表示されます。

5 **ネットワークパスをテキストボックスに入力します。**

ネットワークパスがわからない場合は、［参照］をクリックし、表示されたウィンドウでサーバーが共有しているプリンターを選択し、［OK］をクリックします。

6 ［次へ］をクリックします。

エラーメッセージが表示された場合は、［はい］をクリックしてインストールを続行します。
［プリンタのモデルの選択］ダイアログボックスが表示されます。

補足

DocuPrint CG835 Server PS H2 が表示されないときは、［参照］をクリックして、セットアッププログラムが格納されているディレクトリを選択してください。

7 ［FX DocuPrint CG835 Server PS H2］を選択して、［次へ］をクリックします。

［プリンタ情報］ダイアログボックスが表示されます。

8 **DocuPrint CG835 Server PS H2を通常使用するプリンターとして設定する場合は、［はい］を指定します。**

9 **インストールの完了後にテストページをプリントする場合は、［はい］を選択します。**

10 **［次へ］をクリックします。**

［セットアップ情報］ダイアログボックスが表示されます。

11 **［次へ］をクリックします。**

プリンタードライバーのインストールが開始されます。

インストールが終了すると、［プリンタの設定］ダイアログボックスが表示されます。

12 **［はい］を選択し、［次へ］をクリックします。**

プロパティダイアログボックスが表示されます。

13 **必要なオプションを設定したら、［OK］をクリックします。**

［セットアップ完了］ダイアログボックスが表示されます。

14 **［完了］をクリックして、インストールを終了します。**

以上で、共有プリンターを使う場合の AdobePS ドライバーのインストールは完了です。

共有プリンターを使わない場合

■操作の前に

共有プリンターを使わないで LPR ポートを使用してプリントする場合は、プリンタードライバーをインストールする前に、「TCP/IP プロトコル」と「Microsoft TCP/IP 印刷」をインストールしておく必要があります。「TCP/IP プロトコル」と「Microsoft TCP/IP 印刷」については、ご使用のコンピューターの取扱説明書を参照してください。

注記

AdobePS プリンタードライバーをインストールする手順の途中では、新しく LPR ポートを作成できません。以下に示す手順に従って、LPR ポートを作成してから、AdobePS プリンタードライバーをインストールしてください。

操作手順

1 タスクバーの［スタート］→［設定］→［プリンタ］を選択します。

［プリンタ］ウィンドウが表示されます。

2 ［ファイル］メニューから［サーバーのプロパティ］を選択します。

［プリントサーバーのプロパティ］ダイアログボックスが表示されます。

3 **［ポート］タブを選択して、［ポートの追加］をクリックします。**

［プリンタポート］ダイアログボックスが表示されます。

4 **［LPR Port］を選択して、［新しいポート］をクリックします。**

［LPR 互換プリンタの追加］ダイアログボックスが表示されます。

5 **［lpd を提供しているサーバーの名前またはアドレス］に、サーバーの IP アドレスを入力します。**

6 **［サーバーのプリンタ名またはプリンタキュー名］に、サーバーに設定してある TCP/IP のプリンター名を入力します。**

7 **［OK］をクリックします。**

8 **［プリンタポート］ダイアログボックスで［閉じる］をクリックします。**

9 **［プリントサーバーのプロパティ］ダイアログボックスで［OK］をクリックします。**

10 **ダウンロードした「AdobePS522J」フォルダの setup.exe アイコンをダブルクリックします。**

AdobePS ドライバーのインストーラーが起動します。

11 ［次へ］をクリックして、インストールを続行します。

使用許諾契約を求めるダイアログボックスが表示されます。

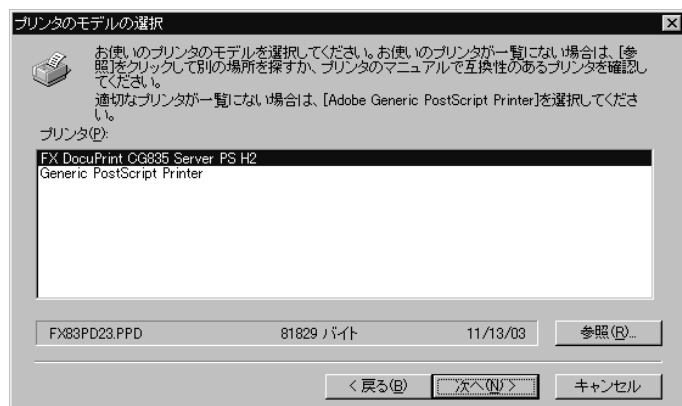
12 内容を確認し［同意する］をクリックして、インストールを続行します。

［プリンタの接続方法］ダイアログボックスが表示されます。

13 ［コンピュータに直接接続（ローカルプリンタ）］を指定して、［次へ］をクリックします。

［ローカルポートの設定］ダイアログボックスが表示されます。

14 手順 5 で設定したポートを選択して、[次へ] をクリックします。

[プリンタのモデルの選択] ダイアログボックスが表示されます。

補足

FX DocuPrint CG835 Server PS H2 が表示されないときは、[参照] をクリックして、セットアッププログラムが格納されているディレクトリを選択してください。

15 [FX DocuPrint CG835 Server PS H2] を選択して、[次へ] をクリックします。

[共有] ダイアログボックスが表示されます。

16 **プリンターを共有する場合は、［共有する］を指定し、プリンターの共有名をテキストボックスに入力します。共有しない場合は、［共有しない］を指定します。**

［次へ］をクリックします。

［プリンタ情報］ダイアログボックスが表示されます。

17 **プリンター名を変更したい場合は、テキストボックスに入力します。**

18 **FX DocuPrint CG835 Server PS H2 を通常使用するプリンターとして設定する場合は、［はい］を指定します。**

19 **インストールの完了後にテストページをプリントする場合は、［はい］を指定します。**

20 **［次へ］をクリックします。**

［セットアップ情報］ダイアログボックスが表示されます。

21 ［次へ］をクリックします。

プリンタードライバーのインストールが開始されます。

インストールが終了すると、［プリンタの設定］ダイアログボックスが表示されます。

22 ［はい］を選択し、［次へ］をクリックします。

プロパティダイアログボックスが表示されます。

23　必要なオプションを設定したら、[OK] をクリックします。

［セットアップ完了］ダイアログボックスが表示されます。

24　[完了] をクリックします。

以上で、共有プリンターを使わない場合の AdobePS ドライバーのインストールは完了です。

5.3 Microsoft Windows Networkで使用する場合

サーバーが、Windows 95/98/Me、Windows NT 4.0、Windows 2000/XPクライアントからMicrosoft Windows Network経由でプリント印刷データを受信するためには、次の設定が必要です。また、IPPを使う際も、この設定が必要です。

参照

TCP/IP環境でMicrosoft Windows Networkをお使いになる場合、本機を共有プリンターとして利用するには、設定が必要です。設定方法については、同梱されているアプリケーションCD内の「etc\RRAS_setup」フォルダにあるReadMe.txtを参照してください。

ServerManagerの設定

操作手順

1 **［スタート］→［プログラム］→［Fuji Xerox］→［DocuPrint CG835 L II］→［Server Manager］を選択します。**

ServerManagerのウィンドウが表示されます。

2 **ボタンをクリックし、表示された［ログイン］ダイアログボックスから、管理者でログインします。**

3 **ボタンをクリックします。**

［サーバーの環境設定］ダイアログボックスが表示されます。

補足

［ツール］メニューの［サーバーの環境設定］を選択しても、［サーバーの環境設定］ダイアログボックスを表示できます。

その他の情報

5

4　［ネットワーク］タブを選択します。

［ネットワーク］タブが表示されます。

5　［Windows ネットワーク］の［プロパティ］をクリックします。

プロパティダイアログボックスが表示されます。

6　［共有］タブを選択します。

［共有］タブが表示されます。

7　［共有する］を選択し、［共有名］を入力します。

注記
プリンターを複数使用している場合は、異なる［共有名］を付けてください。

補足
［共有名］は、Microsoft Windows Network で使用されます。

8　プロパティダイアログボックスの［OK］をクリックします。

9　［サーバーの環境設定］ダイアログボックスの［OK］をクリックします。

ServerManager の［ネットワーク状態］ウィンドウに、「Windows ネットワーク」が表示されていることを確認します。

以上で、Microsoft Windows Network 経由で、クライアント PC からの印刷データ受信できます。

5.4 Windows 2000/XP で共有プリンターを使う場合

サーバーが Microsoft Windows Network 経由で印刷データを受信する場合は、あらかじめ「5.3 Microsoft Windows Networkで使用する場合」を参照し、必要な設定を行ってください。

ここでは例として、Windows 2000 での設定方法を説明します。

操作手順

1　タスクバーの［スタート］→［設定］→［プリンタ］を選択します。

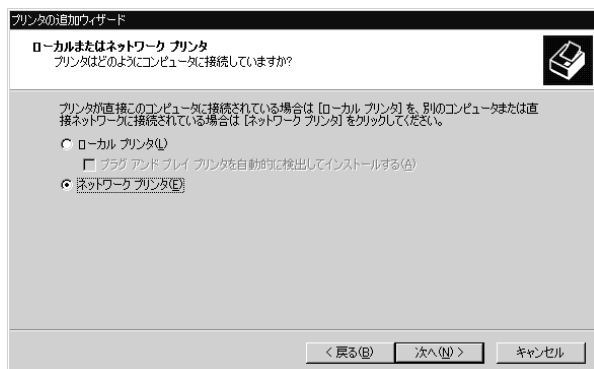
［プリンタ］ウィンドウが表示されます。

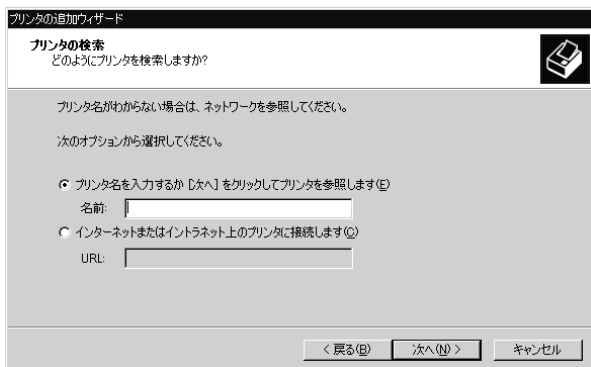
2　［プリンタの追加］をダブルクリックします。

［プリンタの追加ウィザード］が表示されます。

3　［次へ］をクリックします。

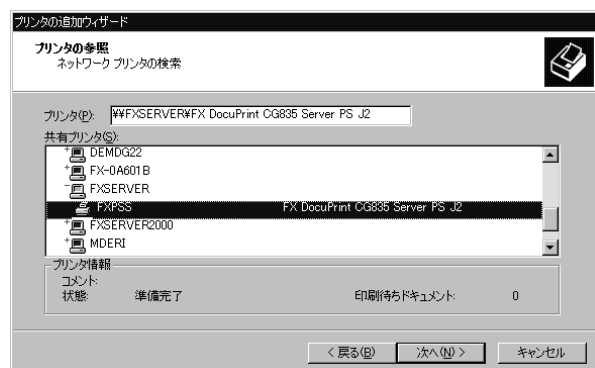
［ローカルまたはネットワークプリンタ］画面に変わります。

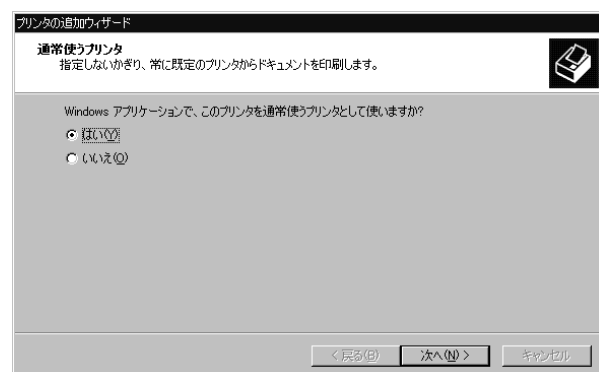
4　［ネットワークプリンタ］を指定して、［次へ］をクリックします。

［プリンタの検索］画面に変わります。

5　［プリンタ名を入力するか［次へ］をクリックしてプリンタを参照します］を選択し、［次へ］をクリックします。

注記

IPP を利用する場合は、［インターネットまたはイントラネット上のプリンタに接続します］を選択し、URL を指定してください。
例
http:// ＜ IP アドレス（または名前）＞ /printers/ ＜共有名＞ /.printer

［プリンタの参照］画面に変わります。

6 共有プリンターの一覧からプリンターを選択し、［次へ］をクリックします。

［通常使うプリンタ］画面に変わります。

7 Print Server Series を通常使用するプリンターとして設定する場合は、［はい］を指定し、［次へ］をクリックします。

［プリンタ追加ウィザード］の完了画面が表示されます。

8 ［完了］をクリックします。

9 ［プリンタ］ウィンドウを閉じます。

注記

PageMaker を使用する場合、PageMaker 用 PPD をインストールしてください。
PageMaker 用 PPD のインストールについては、『取扱説明書（導入編）』を参照してください。

5.5 Mac OS Xから IPPを使う場合

**Mac OS X から IPP を使うには、以下のようにして IPP の設定を行う必要があります。
また、サーバー側で共有プリンターを使えるようにしておくことが必要です。あらかじめ、「5.3 Microsoft Windows Network で使用する場合」を参照し、サーバー側で必要な設定を行ってください。**

操作手順

1 ［プリントとファクス］ダイアログボックスを開き、［プリンタを設定］をクリックする。

［プリンタリスト］ダイアログボックスが表示されます。

2 ＜ Option ＞キーを押しながら［追加］をクリックします。

3 プルダウンメニューから［詳細］を選択します。

補足

手順2で＜Option＞キーを押しながら［追加］をクリックしないと、［詳細］は表示されません。

4 以下の項目を設定し、［追加］をクリックします。

① ［装置］で、［Internet Printing Protocol（HTTP 使用）］を選択します。

② ［装置名］に任意の名前を入力します。

③ ［装置の URI］に「http:// ＜プリンターの IP アドレス＞ /printers/ ＜共有名＞ /.printer」を入力します。

補足

［装置の URI］には、Web ブラウザーから指定するときと同じものを入力してください。

④ ［プリンタの機種］で、プリンターの PPD ファイルを選択します。

5 設定が終了したら、ダイアログボックスを閉じます。

5.6 NetWare で使用する場合

サーバーが、クライアントPCからIPXネットワーク経由で、プリントジョブを受信するためには、次の設定が必要です。

Novell NetWare サーバーの設定

Novell NetWareからサーバーにプリントする場合には、あらかじめNetWareサーバーにプリント待ち行列とプリントサーバーを設定します。
DocuPrint CG835 L II では次のバージョンのNetWareサーバーに対応しています。

- **Novell NetWare 5**
- **Novell intraNetWare 4.11J**
- **Novell NetWare 4.1J**
- **Novell NetWare 3.2J**
- **Novell NetWare 3.12J**

サーバーにプリントできるように、Novell NetWare サーバーをセットアップするときは、Novell NetWare サーバーに接続されたクライアントから、PCONSOLEや NWADMIN を使用して、サーバー用のプリントサーバーとプリントキューを作成します。お使いの使用環境に合う項を参照して、設定してください。

注記
以降の手順では、プリントサーバー名やプリンター名、プリントキュー名に、それぞれ「FXPSS」、「FXPSS_P」、「FXPSS_Q」を推奨していますが、同一ネットワーク内で複数のプリンターを使用している場合は、プリンターごとに異なる名前を付けてください。

■Novell NetWare 5 の設定（ディレクトリサービスの場合）

キューベースのプリントサービスの設定について説明します。DocuPrint CG835 L II は、NDPS には対応していません。

操作手順

1. **Novell NetWare に接続されている Novell NetWare クライアントから、Administrator またはそれに相当するユーザーとして、Novell NetWare サーバーにログインします。**
2. **Novell NetWare クライアントで、SYS ボリュームをマップして SYS\PUBLIC の NWADMN32.EXE を起動します。**
3. **[ツール] メニューから、[プリントサービスのクイックセットアップ（非NDPS)] を選択します。**
4. **[プリントサーバ名] に、このプリントサーバーオブジェクトの名前を入力します。「FXPSS」という名前をお勧めします。**
5. **[プリンタ] の [名前] に、このプリンターオブジェクトの名前を入力します。「FXPSS_P」という名前をお勧めします。**

6 [プリンタ] の [タイプ] に [その他 / 不明] を選択し、[バナータイプ] に [ポストスクリプト] を選択します。

7 [プリントキュー] の [名前] に、新しいプリントキューオブジェクトの名前を入力します。「FXPSS_Q」という名前をお勧めします。

8 [ボリューム] に、物理的なキューを作成するボリュームのフルネームを入力します。または、[参照] をクリックして、使用できるボリュームから選択します。

9 [作成] を選択します。

以上で、サーバーで NetWare の設定を行う準備が終了しました。
NWADMN32 コマンドに関する詳しい説明、または特定の用途に合わせて手動でプリントオブジェクトを作成、設定したい場合は、Novell NetWare の説明書を参照してください。

■Novell intraNetWare 4.11J の設定（ディレクトリサービスの場合）

操作手順

1 Novell NetWare に接続されている Novell NetWare クライアントから、Administrator またはそれに相当するユーザーとして、Novell NetWare サーバーにログインします。

2 Novell NetWare クライアントで、SYS ボリュームをマップして SYS\PUBLIC の PCONSOLE.EXE を起動します。

3 [プリンタ] を選択し、<Enter> キーを押してプリンターのリストを表示します。

4 <Insert> キーを押して DocuPrint CG835 L II 用プリンターに名前を入力します。「FXPSS_P」という名前をお勧めします。

5 <Enter> キーを押してプリンターを作成したあと、作成したプリンターを選択して <Enter> キーを押します。

6 プリンターの環境設定で、[プリンタタイプ] に [その他 / 不明] を選択し、[バナータイプ] に [ポストスクリプト] を選択し、<F10>（保存）キーを押します。

7 <Esc> キーを押して、次にプリントサーバーを選択したあと、<Enter> キーを押します。

8 <Insert> キーを押して、DocuPrint CG835 L II用プリントサーバーに名前を入力します。「FXPSS」という名前をお勧めします。

9 <Enter> キーを押してプリントサーバーを作成したあと、作成したプリントサーバーを選択して <Enter> キーを押します。

10 [プリンタ] を選択し、<Enter> キーを押してサービスプリンターのリストを表示します。

11 <Insert> キーを押し、手順 4 で作成したプリンターをリストから選択して <Enter> キーを押します。

12 <Esc>キーを3回押して、[プリントキュー]を選択し、<Enter>キーを押します。

13 <Insert> キーを押し、DocuPrint CG835 L II用プリントキューに名前を入力します。「FXPSS_Q」という名前をお勧めします。

14 <Enter> キーを押してプリンターを作成したあと、ボリューム名を指定します。

15 作成したプリントキューを選択して <Enter> キーを押します。[プリントサーバ] を選択し、<Enter> キーを押します。

16 <Insert> キーを押し、手順 8 で作成したプリントサーバーをリストから選択し、<Enter> キーを押します。

17 <Esc> キーを 1 回押して [ユーザー] を選択し、<Enter> キーを押します。プリントキューユーザーのリストを確認、または追加します。

18 <Esc> キーを 4 回押してウィンドウを閉じ、<Enter> キーを押して PCONSOLE を終了します。

注記

PCONSOLE の［コンテキストの変更］で、コンテキストをデフォルトのコンテキストから変更しないでください。プリンター / サーバー / キューは、それらを作成する NetWare サーバーの、デフォルトのコンテキストに作成しないと、サーバーから NetWare サーバーに接続できません。

以上で、サーバーで NetWare の設定を行う準備が終了しました。PCONSOLE コマンドに関する詳しい説明は、Novell NetWare の説明書を参照してください。

■Novell NetWare 4.1J の設定（ディレクトリサービスの場合）

操作手順

1. Novell NetWare サーバーに接続されている Novell NetWare クライアントから、administrator またはそれに相当するユーザーとして Novell NetWare サーバーにログインします。

2. Novell NetWare クライアントで、SYS ボリュームをマップして SYS\PUBLIC の PCONSOLE.EXE を起動します。

3. ［プリントサーバ］を選択し、<Enter> キーを押してプリントサーバーのリストを表示します。

4. <Insert> キーを押して、DocuPrint CG835 L II 用プリントサーバーに名前を入力します。「FXPSS」という名前をお勧めします。

5. <Enter> キーを押してプリントサーバーを作成したあと、<Esc> キーを押してプリントサーバーウィンドウを閉じます。

6. ［プリントキュー］を選択し、<Enter> キーを押してプリントキューのリストを表示します。

7. <Insert> キーを押し、DocuPrint CG835 L II 用プリントキューに名前を入力します。「FXPSS_Q」という名前をお勧めします。

8. <Enter> キーを押します。

9. プリントボリュームを入力するために <Insert> キーを押します。オブジェクトクラスウィンドウで、プリントキューを割り当てるボリュームを選択して、<Enter> キーを押します。

   これでプリントキューの作成は終了です。

10. 「FXPSS_Q」が選択されていることを確認し、<Enter> キーを押します。

11. ［プリントサーバ］を選択し、<Enter> キーを押して、プリントサーバーのリストを表示します。リストには何も表示されません。

12. <Insert> キーを押して、オブジェクトクラスウィンドウで使用できるプリントサーバーのリストを表示します。

13. 手順 4 で作成したプリントサーバー「FXPSS」を選択して、プリントサーバーにコピーするために <Enter> キーを押します。

14 <Esc> キーを 4 回押してウィンドウを閉じ、<Enter> キーを押して PCONSOLE を終了します。

以上で、サーバーで NetWare の設定を行う準備が終了しました。PCONSOLE コマンドに関する詳しい説明は、Novell NetWare の説明書を参照してください。

■Novell NetWare 4.1J の設定（バインダリーサービスの場合）

操作手順

1 Novell NetWare サーバーに接続されている Novell NetWare クライアントから、SUPERVISOR またはスーパーバイザー権があるユーザーとして Novell NetWare サーバーにログインします。

2 Novell NetWare クライアントで、SYS ボリュームをマップして SYS\PUBLIC の PCONSOLE.EXE を起動します。

3 [プリントサーバ] を選択し、<Enter> キーを押してプリントサーバーのリストを表示します。

DS モードに関するメッセージが表示されますが、無視して <Enter> キーを押してください。

4 <Insert> キーを押して、DocuPrint CG835 L II 用プリントサーバーに名前を入力します。「FXPSS」という名前をお勧めします。

5 <Enter> キーを押してプリントサーバーを作成したあと、<Esc> キーを押してプリントサーバーウィンドウを閉じます。

6 [プリントキュー情報] を選択し、<Enter> キーを押してプリントキューのリストを表示します。

7 <Insert> キーを押し、DocuPrint CG835 L II 用プリントキューに名前を入力します。「FXPSS_Q」という名前をお勧めします。

8 <Enter> キーを押してプリントキューを作成します。

9 [FXPSS_Q] が選択されていることを確認し、<Enter> キーを押します。

10 [プリントサーバ] を選択し、<Enter> キーを押してプリントサーバーのリストを表示します。リストには何も表示されません。

11 <Insert> キーを押して、プリントサーバー候補ウィンドウで、使用できるプリントサーバーのリストを表示します。

12 手順 4 で作成したプリントサーバー「FXPSS」を選択して、プリントサーバーにコピーするために <Enter> キーを押します。

13 <Esc> キーを 4 回押してウィンドウを閉じ、<Enter> キーを押して PCONSOLE を終了します。

以上で、サーバーで NetWare の設定を行う準備が終了しました。PCONSOLE コマンドに関する詳しい説明は、Novell NetWare の説明書を参照してください。

■Novell NetWare 3.12J/3.2J の設定（バインダリーサービスの場合）

操作手順

1 Novell NetWare サーバーに接続されている Novell NetWare クライアントから、SUPERVISOR、またはスーパーバイザー権があるユーザーとして Novell NetWare サーバーにログインします。

2 Novell NetWare クライアントで、SYS ボリュームをマップして SYS\PUBLIC の PCONSOLE.EXE を起動します。

3 [プリントサーバ情報] を選択し、<Enter> キーを押してプリントサーバーのリストを表示します。

4 <Insert> キーを押して、DocuPrint CG835 L II用プリントサーバーに名前を入力します。「FXPSS」という名前をお勧めします。

5 <Enter> キーを押してプリントサーバーを作成したあと、<Esc> キーを押してプリントサーバーウィンドウを閉じます。

6 [プリントキュー情報] を選択し、<Enter> キーを押してプリントキューのリストを表示します。

7 <Insert> キーを押し、DocuPrint CG835 L II用プリントキューに名前を入力します。「FXPSS_Q」という名前をお勧めします。

8 <Enter> キーを押してプリントキューを作成します。

9 [FXPSS_Q] が選択されていることを確認し、<Enter> キーを押します。

10 [キューサーバ] を選択し、<Enter> キーを押してキューサーバーリストを表示します。リストには何も表示されません。

11 **<Insert> キーを押して、［キューサーバ候補］ウィンドウで、使用できるプリントサーバーのリストを表示します。**

12 **手順 4 で作成したプリントサーバー「FXPSS」を選択して、プリントキューにコピーするために <Enter> キーを押します。**

13 **<Esc> キーを 4 回押してウィンドウを閉じ、<Enter> キーを押して PCONSOLE を終了します。**

以上で、サーバーで NetWare の設定を行う準備が終了しました。PCONSOLE コマンドに関する詳しい説明は、Novell NetWare の説明書を参照してください。

Novell Netware Client のインストール

サーバーに、Novell Netware Clientをインストールする手順について説明します。

補足

Novell Netware Client がインストールされていない場合、ServerManager の［サーバーの環境設定］ダイアログボックスの［ネットワーク］タブで表示される［NetWare］は、選択できません。

操作手順

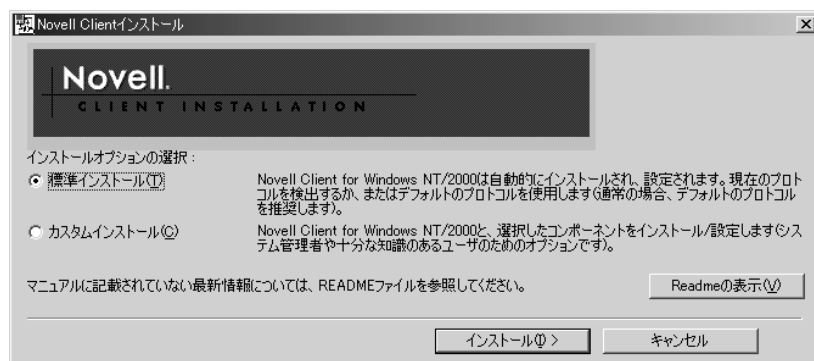
1 **デスクトップにある［マイコンピュータ］アイコンをダブルクリックし、D ドライブのアイコンをダブルクリックします。**

2 **D ドライブ内の「Novell」フォルダを開き、「i386」フォルダをダブルクリックします。**

3 **SETUPNW.exe アイコンをダブルクリックします。**

［IntranetWare Client for Windows NT ライセンス契約］ダイアログボックスが表示されます。

4 **［はい］をクリックします。**

［Novell Client インストール］ダイアログボックスが表示されます。

5 **［標準インストール］を選択し、［インストール］をクリックします。**

インストールが開始されます。
インストールが完了すると、［インストール完了］ダイアログボックスが表示されます。

6 **［再起動］をクリックします。**

以上で、Novell Netware Client のインストールは終了です。

ServerManager での設定

操作手順

1 **［スタート］→［プログラム］→［Fuji Xerox］→［Print Server Series］→［Server Manager］を選択します。**

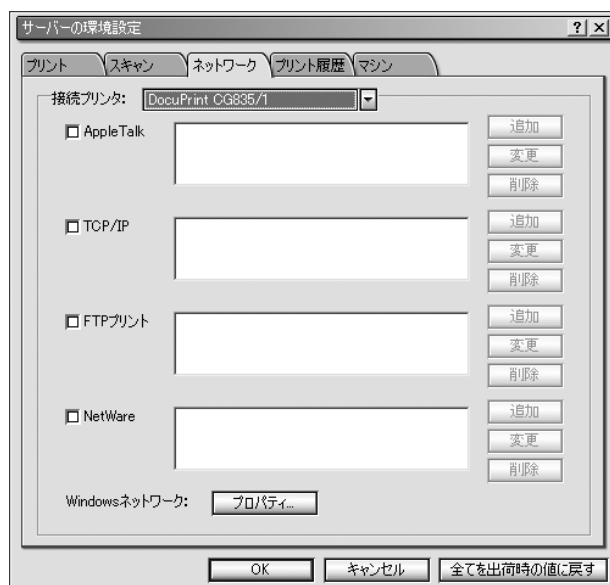
ServerManager のウィンドウが表示されます。

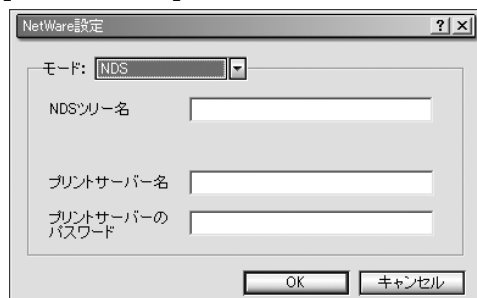
2 **ボタンをクリックし、表示された［ログイン］ダイアログボックスから、管理者でログインします。**

3 **ボタンをクリックし、［サーバーの環境設定］ダイアログボックスで［ネットワーク］タブを選択します。**

［ネットワーク］タブが表示されます。

補足

［ツール］メニューの［サーバーの環境設定］を選択しても、［サーバーの環境設定］ダイアログボックスを表示できます。

4 **［NetWare］のチェックボックスをオンにして、［追加］をクリックします。**

［NetWare 設定］ダイアログボックスが表示されます。

5 **モードを選択して、プリンターを設定します。**

ディレクトリーサービスの場合は、［モード］メニューで［NDS］を選択し、NDS ツリー名を入力します。

バインダリーサービスの場合は、［モード］メニューで［Bindery］を選択し、NetWare キュー名と NetWare サーバー名を入力します。

6 **プリントサーバー名とプリントサーバーのパスワードを設定している場合は、パスワードを入力します。**

7 **［NetWare 設定］ダイアログボックスの［OK］をクリックします。**

8 **［サーバーの環境設定］ダイアログボックスの［OK］をクリックします。**

ServerManager の［ネットワーク状態］ウィンドウに、「NetWare」が表示されていることを確認します。

以上で、NetWare サーバーからの印刷データを受信できます。

5.7 TCP/IP からのプリント使用制限の設定

TCP/IP（LPR）からのプリントの使用制限を設定できます。
使用制限は、次のファイルに設定します。

D:\Fuji Xerox\Print Server Series\Pref\Ip_limit.txt

ファイルの編集には、メモ帳（NotePad）を使用できます。ファイルは、テキスト形式です。

ファイルの記述方法

ファイルの記述ルールは、次のとおりです。

- 各行１エントリとし、”＃”以降行末までをコメントとして無視します。
- エントリには、IP アドレスを使用できます。DNS を使用している場合は、DNS 名を使用することもできます。
- IP アドレス、および DNS 名の指定には、ワイルドカードとして「＊」も使用できます。
  記述例は、次のとおりです。
  192.168.100.*
  *.example.com
- プリントを許可しない場合は、行の先頭に「-」を付けます。
  記述例は、次のとおりです。
  -192.168.100.20
  -hostA.example.com
- 複数行を記述した場合は、先頭行から読み込んで判断します。条件が矛盾した場合、あとに書かれた行が優先されます。
  次のように記述した場合、192.168.100 ネットのコンピューターにプリントを許可していますが、そのうち 192.168.100.20 のコンピューターだけは、プリントを許可しないという設定になります。
  192.168.100.*
  -192.168.100.20
  次のように記述した場合は、1 行めで 192.168.100.20 のプリントを許可していませんが、2 行めで 192.168.100 ネットのコンピューターにプリントを許可しているので、192.168.100.20 でもプリントを許可する設定になります。
  -192.168.100.20
  192.168.100.*
- 工場出荷時のデフォルトは、次に示すように、すべてのコンピューターにプリントを許可しています。
  *. *. *. *　　# 全て許可

5.8 AppleTalk を使用する場合の注意事項

Print Server で AppleTalk を使用する場合は、次のことに注意してください。

構内ネットワークに、スパニングツリー機能付きのハブが使用されている場合は、プリンター本体、パーソナルコンピューター、およびネットワークの設定が正常でも、ハブとの通信が適切に処理されません。
そのため、複数のプリンターの電源を一斉に入れたときなど、ハブとの通信が適切に処理されず、ネットワークを介して接続された機器間の接続や通信が、適切に動作しないことがあります。

この現象は、お使いのネットワーク環境で、ネットワーク管理者が、次のいずれかの方法で対応すると改善されます。

- スパニングツリー機能を搭載しないハブを使用します。
- スパニングツリー機能を使用しないようハブの設定を変更します。
- プリンター本体を、スパニングツリー機能を搭載しないハブを介して、構内ネットワークに接続します。停電後などに、プリンターの電源を一斉に入れる場合は、ネットワークサーバーが立ち上がってから、Print Server を１台ずつ順に、1 分間程度の間隔を置いて電源を入れます。

5.9 PostScriptファイルを作成する

■この機能でできること

サーバーにドキュメントをプリントする代わりに、PostScript フォーマットにして、ディスクファイルとして保存できます。
作成したPostScript ファイルの用途は、次のとおりです。

- **ディスク上での印刷データファイルの作成**
- **印刷データを作成したアプリケーションがインストールされていないコンピューターからのプリント**
- **プリントに関する問題点の診断**

補足
多くのアプリケーションでは、［印刷］ダイアログボックスに、［ファイルへ出力］チェックボックスが用意されています。PostScript ファイルの作成方法については、アプリケーションの説明書を参照してください。

5.9.1 Macintosh の場合

操作手順

1 アプリケーションの［ファイル］メニューから、［プリント］を選択します。
プリントダイアログボックスが表示されます。

2 ［出力先］から［ファイル］を選択して、［保存］をクリックします。

3 表示されたダイアログボックスに、保存先とファイル名を入力して、［保存］をクリックします。
ファイルが作成されます。

その他の情報 5

5.9.2 Windows の場合

Windows95/98/Me の場合

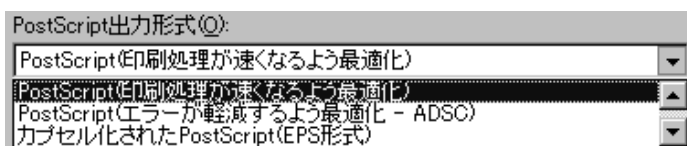
Windows 95/98/Me で PostScript ファイルを作成する手順について、Windows 98 の画面を例にとって説明します。

操作手順

1 **［スタート］→［設定］→［プリンタ］を選択します。**
表示された［プリンタ］ウィンドウから、DocuPrint CG835 L IIのプリンターを選択します。

2 **プリンターの、プロパティダイアログボックスを開き、[PostScript] タブを選択します。**

［PostScript］タブが表示されます。

3 **［PostScript 出力形式］メニューから、［PostScript（エラーが軽減するよう最適化）-ADSC］、または［カプセル化された PostScript（EPS 形式）］を選択します。**

- **PostScript ファイルを作成する場合は、［PostScript（エラーが軽減するよう最適化）-ADSC］を選択します。サービスビューローにファイルを渡すときなど、PostScript 言語のフォーマットのファイルであれば、そのファイルを作成したアプリケーションがサービスビューロー側になくてもプリントできます。**
- **EPS ファイルを作成する場合は、［カプセル化された PostScript（EPS 形式）］を選択します。EPS ファイルは単独ではプリントできませんが、ほかのファイルに取り込めばプリントできます。ワープロのアプリケーションでは、EPS のグラフィックファイルを取り込めるものもあります。**

4 **［OK］をクリックします。**

5 **アプリケーションの［ファイル］メニューから、［印刷］を選択します。**

6 **［印刷］ダイアログボックスで、［ファイルへ出力］チェックボックスをオンにします。**

7 **印刷範囲などを指定して、［OK］をクリックします。**

［ファイルへ出力］ダイアログボックスが開きます。作成する PostScript ファイルや EPS ファイルに付ける名前を指定します。

8 **保存先とファイル名を指定して、［OK］をクリックします。**

ファイルが作成されます。

Windows NT 4.0、Windows 2000/XP の場合

Windows NT 4.0 および Windows 2000/XP で、PostScript ファイルを作成する手順について、Windows NT 4.0 の画面を例にとって説明します。

操作手順

1 **アプリケーションの［ファイル］メニューから、［印刷］を選択します。**

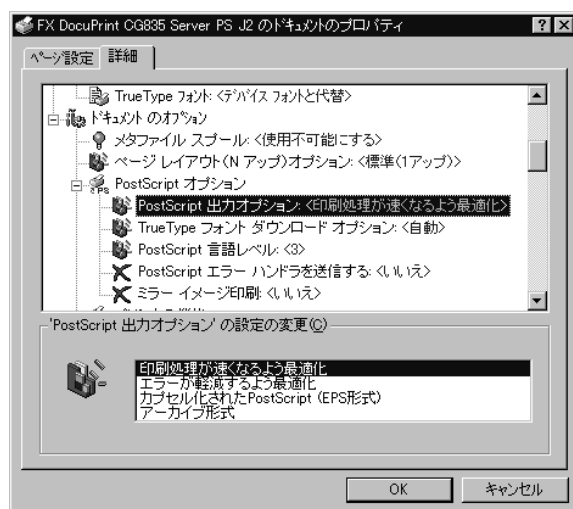
［印刷］ダイアログボックスが表示されます。

2 **プリンターに DocuPrint CG835 L II を選択し、[プロパティ] をクリックします。**

ドキュメントのプロパティダイアログボックスが表示されます。

Windows 2000/XP の場合は、[レイアウト] タブ、または [用紙 / 品質] タブの [詳細設定] をクリックします。

3 **画面をスクロールして、[PostScript オプション] の [PostScript 出力オプション] をクリックします。**

PostScript 出力形式が表示されます。

4 **[PostScript 出力オプションの設定の変更] から、[エラーが軽減するよう最適化] か、または [カプセル化された PostScript (EPS 形式)] を選択します。**

参照

[PostScript 出力オプションの設定の変更] については、前述の「Windows95/98/Me の場合」を参照してください。

5 **[OK] をクリックします。**

6 **[印刷] ダイアログボックスで [ファイルへ出力] チェックボックスをオンにし、印刷範囲や印刷部数を指定して、[OK] をクリックします。**

[ファイルへ出力] ダイアログボックスが表示されます。

7 **保存先とファイル名を指定して、[OK] をクリックします。**

ファイルが作成されます。

5.10 SunRaster と XWD について

SunRaster と XWD をサポートしているファイルフォーマットと、SunRaster や XWD をプリントするときの指定方法について説明します。

ファイルフォーマットについて

SunRaster と XWD では、次のファイルフォーマットをサポートしています。

■SunRaster

Depth　：　1、8、24、32
RasType　：　RT_OLD、RT_STANDARD、RT_BYTE_ENCODED、RT_FORMAT_RGB
MapType　：　RMT_NONE、RMT_EQUAL_RGB

■XWD

File_version：　7
Byte_order と bitmap_bit_order は、同じ指定であること。
Visual_class：　PseudeColor だけサポートしています。

SunRaster と XWD のプリント

SunRaster と XWD の場合は、指定された出力用紙の中央にイメージがプリントされます。また、イメージの縦横のサイズから、用紙の向きと合うように自動的に回転してプリントされます。
SunRaster/XWD をプリントする場合、lpr コマンドの Class オプションで次の項目を指定できます。

■用紙サイズ

各用紙サイズの指定は、次のとおりです。
◆ A4（SEF、LEF ともに）（A4）または（a4）
◆ B4（SEF のみ）（B4）または（b4）
◆ A3（SEF のみ）（A3）または（a3）
◆ B5（SEF、LEF ともに）（B5）または（b5）
◆ Letter（SEF、LEF ともに）(LETTER）または（letter）
◆ Leger（SEF のみ）（LEGER）または（leger）
◆ OHP（手差しトレイ、A4 サイズ）(OHP）または（ohp）

出力用紙サイズの指定がない場合、サーバーの［プリントオプションの初期設定］で指定された出力用紙サイズが適用されます。
［プリントオプションの初期設定］の用紙サイズの指定が自動の場合は、データを出力するために必要な最小の用紙にプリントします。
イメージのサイズが A3 よりも大きい場合は、すべて A3 にプリントされます。
このとき、イメージを A3 サイズに収まるように縮小処理はされません。

コマンド例）

```
lpr -Pfxpss -C”(a4)”data1.xwd
```

補足

指定した用紙サイズに対して、SEF と LEF の 2 つのトレイがある場合、回転処理を必要としない用紙トレイが選択されます。また、イメージが正方形の場合は LEF 用紙が選択されます。

■解像度

指定できる解像度は、50 〜 1200dpi です。
50dpi 以下が指定された場合は、50dpi として扱われます。
1200dpi 以上が指定された場合は、1200dpi として扱われます。
解像度の指定がない場合、サーバーの［プリントオプションの初期設定］で指定された解像度が適用されます。
解像度の指定によって、イメージが拡大または縮小される場合は、最隣点法で補間されます。
解像度には、整数値だけを指定できます。

コマンド例）

```
lpr  -Pfxpss  -C"(res=400)" data1.xwd
```

■白黒反転

ディスプレイ上での画像を見やすくする目的で、白と黒を反転させているような場合、再反転してプリントできます。
白黒反転は、イメージが 1pixel8bit でカラーマップを参照している場合にだけ有効です。

コマンド例）

```
lpr  -Pfxpss -C"(inv)" data1.xwd
```

■複数の項目を指定する場合

各項目を続けて入力します。
項目の間にはスペースを入れません。

コマンド例）

```
lpr  -Pfxpss -C”(res=400)(inv)”data1.xwd
```

5.11 ディスプレイの調整

オプションの液晶ディスプレイの調整手順と、調整できる機能について説明します。

操作手順

1　コントロールダイヤルを押します。

メインメニュー画面が OSD 表示されます。

2　コントロールダイヤルを回して、カーソル（文字が赤色で表示されます）を調整する項目に合わせます。

3　目的の機能が選択されたら、コントロールダイヤルを押します。

4　サブメニューが表示された場合は、調整画面が表示されるまで、手順 2 ～ 3 を繰り返します。

5　コントロールダイヤルを回して、調整します。

6　調整が終了したら、コントロールダイヤルを押します。

調整した値が保存されます。

サブメニュー画面から、メインメニュー画面に戻るには、カーソルを［Exit］に合わせ、コントロールダイヤルを押します。

7　さらに、ほかの機能を調整する場合は、手順 2 ～ 6 を繰り返します。

8　設定操作を終了するときには、メインメニュー画面でカーソルを［Exit］に合わせ、コントロールダイヤルを押します。

設定できる機能

メニューには、次の項目があります。

- **Auto Setup**　自動調整機能によって、画面を調整します。
- **Brightness**　画面の明るさを調整します。左右の画面の幅を調整します。
- **Contrast**　画面のコントラストを調整します。
- **DisPlay**　画面の位置を調整します。
  H-Position　左右の表示位置を調整します
  V-Position　上下の表示位置を調整します。
- **Color Temp**　色温度を調整します。
  「User」を選択すると、Red（赤色）、Green（緑色）、Blue（青色）の強さを調整できます。

その他の情報 5

• Clock/Phase	Clock	画面の位置を微調整します。
	Phase	画面のちらつきやにじみを調整します。
• ManageMent	OSD Display	OSD の表示位置（H.Position、V.Position）を調整します。
	Language	OSD の表示言語を選択します。
	Source	入力ビデオ信号を Analog または Digital に切り替えます。
	Recall	保存されたデータをすべて初期化します。

5.12 リカバリーCD-ROMの使い方

リカバリーCD-ROMは、何らかの障害によって、ハードディスクの内容が壊れてしまった場合や、システムが正常に動作しなくなってしまった場合に、システムを復元するために使用します。リカバリーCD-ROMを使用して、システムを再セットアップすると、ハードディスク内の内容が工場出荷時の状態に戻ります。
以下に、リカバリーCD-ROMの使い方を説明します。

■再セットアップが必要な場合とは

次のような場合、リカバリーCD-ROMを使用してください。

- ハードディスク内のシステムファイルを削除してしまった
- Cドライブを初期化してしまった
- 電源を入れても、OSが起動しない

■再セットアップの種類

リカバリーCD-ROMによる再セットアップには、次の2種類があります。

- ハードディスク全体を修復する
- システム起動領域（Cドライブ）だけを修復する

■操作の前に

- 本機を購入後に保存、設定した内容はすべて消去されます。可能であれば、次のファイルをあらかじめバックアップしてください。
  ①フォント
  ②設定情報（[ツール]メニューで設定した環境設定などの情報、キャリブレーションデータと割り当て情報、各種カラープロファイルデータと割り当て情報）
- オプションのHDDを取り付けている場合は、ディスク内のデータを誤って消去する事故を防止するために、プロセッサー本体と切り離してください。
  プロセッサーの左側面カバーを外して、HDDの電源コネクターから電源ケーブルを外してください。
  また、USBポートなどに周辺装置を接続している場合は、取り外してください。

操作手順

1 リカバリー CD-ROM（Disk1）を、サーバーの CD-ROM ドライブにセットし、リブートします。

注記

- リカバリー CD-ROM は Disk1 と Disk2 があります。必ず Disk1 をセットしてください。
- プロセッサーの障害状況によっては、電源スイッチを押しても電源が切れない場合があります。その場合は、電源スイッチを約 4 秒以上押し続けてください。強制的に電源を切ることができます。

リカバリー方法を選択する画面が表示されます。

> **◆標準 HDD 全体を修復する場合は A を、**
> **◆システム起動領域（C: ドライブ）のみを修復する場合は C を押してください。**
> **◆作業を中止する場合は X を押してください。**
>
> **リカバリー方法を選択してください。(A（推奨）/C/X)**

2 リカバリー方法を選択します。「A」または「C」を入力後は、処理の中断はできません。

「A」または「C」を入力すると、レストア処理が開始されます。

3 「A」を入力した場合は、次の CD-ROM の挿入を促すダイアログボックスが表示されるので、リカバリーCD-ROM（Disk2）を挿入して、[OK] をクリックします。

4 レストアが完了したことを示すメッセージが表示されたら、CD-ROM を取り出してプロセッサーの電源を切り、再度電源を入れてください。

Windows 2000 Professional セットアップの［プロダクトキー］ダイアログボックスが表示されます。

5 プロセッサー本体の上部に貼られているシールに記載されている Product Key を入力し、［次へ］をクリックします。

自動セットアップが開始され、終了すると、自動的に再起動されます。

以上で、リカバリー CD-ROM による再セットアップは完了です。

■操作のあとに

再セットアップ後は、工場出荷時の状態に戻っています。
再セットアップ前と同じ状態でサーバーを使用するためには、続けて次の作業を行ってください。

- **必要に応じて、Windows Update などを利用し、OS の更新をします。**
- **オプションの HDD を使用する場合は、外した電源ケーブルを接続します。**
- **サーバーのネットワーク環境の設定、およびバックアップデータの復元作業を行います。**

参照
「第 2 章 プリントの調整と設定」

5.13 カスタムサイズの用紙へのプリント

カスタムサイズの用紙を使うには、2 つの方法があります。

(1)　サーバー側で用紙サイズを変更する。
定型用紙で作ったジョブをサーバーに一度送って保存し、ServerManager の［ジョブ］→［ジョブ編集］からページの［用紙 / イメージサイズの変更］の中の［カスタム］を選択し、サイズを設定すればプリントすることができます。

(2)　PPD ファイルを編集して使用する
クライアント PC 側からカスタムサイズの用紙を指定できるようにするには、PageMaker 用の PPD ファイルを編集する必要があります。

PPD ファイルの編集手順は以下のとおりです。

注記
編集した PPD ファイルを使ってプリントした場合に、うまくプリントできなかったり、プリンタードライバーの画面が正しく表示されなかった場合は、PPD ファイルを再インストールしてください。

補足
PageMaker 用 PPD を使用すると、プリント時にカスタム UI を表示できないため、指定可能なプリントオプションに制限があります。

操作手順

1　定義するカスタム用紙サイズの単位をポイントに変換します。

1 ポイントは、0.3528mm になります。以下に例を示します。

定義できる用紙のサイズは、縦は 90.00 ～ 330.20mm（255 ～ 936 ポイント）、横は 139.70 ～ 457.20mm（396 ～ 1296 ポイント）です。

■199 × 229mm の場合

199 ÷ 0.3528 ＝ 564 ポイント

229 ÷ 0.3528 ＝ 649 ポイント

2　SimpleText などのアプリケーションで PPD ファイルを開き、下線の太字部分を編集します。

```
        :
*DefaultPageSize: A4L
*PageSize Custom1: "
%FX_PrintOption: PageSize
<</PageSize [564 649] /ImageBBox null>> setpagedevice
"
*End
        :
*DefaultPageRegion: A4L
*PageRegion Custom1: "
%FX_PrintOption: PageRegion
<</PageSize [564 649] /ImageBBox null>> setpagedevice
"
*End
        :
*DefaultImageableArea: A4L
*ImageableArea Custom1: "11.40 11.40 552.6 637.6"
        :
*DefaultPaperDimension: A4L
*PaperDimension Custom1: "564 649"
        :
```

■Custom1

ここには、任意の文字列を入力します。ここで指定した文字列が、プリンタードライバーの用紙設定に表示されます。

■ImageableArea

ここには印刷可能な範囲を設定します。本機では、用紙の端から 11.4 ポイントは印字不可能領域になります。そのため、用紙サイズから、11.4 ポイント引いた値をここで定義します。

■PaperDimension

ここには、用紙サイズを設定します。ここで設定する用紙サイズは、手順 1 で計算したポイント単位で指定します。

5.14 セキュリティに関する設定

セキュリティに関する設定について説明します。

5.14.1 Administrator のパスワードについて

Administrator ユーザーにパスワードを設定しなかったり、簡単なパスワードを設定している場合､コンピュータウィルスなどに簡単に感染する恐れがあります。本機は初期状態で自動ログイン機能が有効になっています。

補足
工場出荷時の Asministrator のパスワードは「printserver_v5.2」に設定されています。

自動ログイン機能の解除

自動ログイン機能を解除するには、以下の手順で設定します。

操作手順

1. **タスクバーの［スタート］→［設定］→［コントロールパネル］を選択します。**
   ［コントロールパネル］ウィンドウが表示されます。
2. **［ユーザーとパスワード］をダブルクリックします。**
   ［ユーザーとパスワード］ダイアログボックスが表示されます。
3. **［このコンピュータを使うには､ユーザー名とパスワードを入力する必要があります］チェックボックスをチェックして、［OK］をクリックします。**

Administrator のパスワード変更

Administrator のパスワードは、以下の手順で変更できます。

操作手順

1. **<Ctrl> キーと <Alt> キーを同時に押しながら、<Delete> キーを押します。**
   ［Windows のセキュリティ］ウィンドウが表示されます。
2. **［パスワードの変更］をクリックします。**
   ［パスワードの変更］ダイアログボックスが表示されます。

3 **［古いパスワード］に現在のパスワードを入力し、［新しいパスワード］と［新しいパスワードの確認入力］に新しいパスワードを入力して、［OK］をクリックします。**

パスワード変更について詳しくは、Windows 2000 のオンラインヘルプを参照してください。Windows 2000 のオンラインヘルプは、タスクバーの［スタート］をクリックして表示される［ヘルプ］を選択すると表示されます。

5.14.2 FTP の匿名アクセスについて

FTP で匿名アクセスを許可していると、コンピュータウィルスに感染する恐れがあります。
そのため、本機では FTP の匿名アクセスを許可しない設定にしてあります。
FTP に匿名アクセスを許可する場合は、インターネットサービスマネージャに設定をする必要があります。

匿名アクセスの許可は、以下の手順で設定します。

操作手順

1 **タスクバーの［スタート］→［設定］→［コントロールパネル］を選択します。**
［コントロールパネル］ウィンドウが表示されます。

2 **［管理ツール］をダブルクリックします。**

3 **［インターネット サービス マネージャ］をダブルクリックします。**
［インターネットインフォメーションサービス］ウィンドウが表示されます。

4 **ウィンドウ左側の［*fxserver］を選択します。**

補足
「fxserver」は初期状態のコンピュータ名です。名称を変更している場合は、変更後のコンピュータ名が表示されます。

5 **［既定の FTP サイト］を選択し、［操作］メニューの［プロパティ］を選択します。**
［既定の FTP サイトのプロパティ］ダイアログボックスが表示されます。

6 **［セキュリティ・アカウント］タブを選択します。**

7 **［匿名接続を許可する］チェックボックスをオンにして、［OK］をクリックします。**

8 ［インターネット サービス マネージャ］を終了します。

詳細なインターネットサービスマネージャの設定方法については、Windows 2000 のオンラインヘルプを参照してください。Windows 2000 のオンラインヘルプは、タスクバーのスタートをクリックして表示される「ヘルプ」を選択すると表示されます。

5.15 使用上のご注意

lpr のコントロールファイルを無視する場合へのご注意

lpr のコントロールファイルを無視する場合や、データファイルを受信しながら RIP 処理をしたいときは、［lpr のコントロールファイルを無視する］をチェックしてください。

補足

- ここをチェックすると、PostScript ファイル内の記述から所有者名およびジョブファイル名が取得され ServerManager 上やプリント履歴に表示されます。
- ここをチェックすると、UNIX システムから lpr でプリントした場合に、コントロールファイルを待たずに、RIP 処理が行われます。PostScript/PDF/EPS/TIFF ファイルをプリントする場合には、コントロールファイルはプリント時に必要ありません。
- ここをチェックすると、SunRaster/XWD をプリントする場合に、Class オプションで指定したオプションが無視されます。

5.16 eye-one_Readerと測色器について

測色器として、GretagMacbeth 社の「Eye-One」を使用した場合のパッチの測色方法について説明します。
測色したデータは、Print Server Series の［CMYK プロファイルの読み込み］、または測色器キャリブレーションで使用できます。
測色には、eye-one_Reader というアプリケーションを使用します。
eye-one_Reader は、USB 接続可能な Windows コンピューターまたは、Mac OS 9 以降および Mac OS X 10.2.6 以降の Macintosh 上で動作します。

5.16.1 eye-one_Reader の操作

eye-one_Reader のインストール

eye-one_Reader のインストール手順について説明します。

操作手順

1 本機に同梱されているアプリケーション CD-ROM を CD ドライブに挿入します。

2 CD-ROM の中身を表示します。

eye-one_Reader は、以下のディレクトリに格納されています。
- **Windows の場合 : x:\Client\eye-one Reader**
- **Macintosh の場合 : /Client/eye-one Reader**

補足
x は CD ドライブに割り当てられている、ドライブ名です。

3 eye-one_Reader が格納されているディレクトリをディレクトリごと、任意のディレクトリにコピーします。

補足
Mac OS 9 で使用する場合は、「for Mac OS 9（機能拡張へ）」フォルダ内の「Eye-One USB Driver」をシステムフォルダの機能拡張へコピーし、Macintosh を再起動してください。

eye-one_Reader による測色

eye-one_Reader を使用した、パッチの測色手順について説明します。
測色に使用するパッチのパターン画像セットは、次の 3 種類があり、それぞれ画像ファイルを用意しています。用途や使用条件に応じて選択してください。

- PrintServer Series 1188 Chart
  1188 色のパターン画像セットで、Print Server Series の［CMYK プロファイルの読み込み］で使用する場合に使用します。画像ファイルは、Print Server Series 本体の以下のディレクトリにあります。
  ・D:\Fuji Xerox\Print Server Series\bin\CMYKProfiler\ チャートフォルダ
  ファイル名は、CMYK_eye-one_1.eps、CMYK_eye-one_2.eps、CMYK_eye-one_3.eps です。
- PrintServer Series DPCG835 Chart
  1188 色のパターン画像セットで、Print Server Series の［CMYK プロファイルの読み込み］で使用する場合に使用します。画像ファイルは、Print Server Series 本体の以下のディレクトリにあります。
  ・D:\Fuji Xerox\Print Server Series\bin\CMYKProfiler\ チャートフォルダ
  ファイル名は、DPCG835_eye-one_1.eps、DPCG835_eye-one_2.eps、DPCG835_eye-one_3.eps です。
- Calibration / 170 Chart
  測色器キャリブレーションを行うときに使用するパターンです。

ここでは、コンピューターで Eye-One が使える環境があることを前提に、Windows を例に説明します。

参照

- 測色器の基本的な使い方については、「5.16.2 測色器の使い方」を参照してください。
- Eye-Oneのドライバーインストールについては、Eye-One付属のマニュアルを参照してください。

操作手順

1. コンピューターを起動し、Eye-One を接続します。
2. コピーした eye-one_Reader のディレクトリを開きます。

その他の情報 5

3 **eye-one_Reader.exe（Macintosh の場合は、eye-one_Reader）をダブルクリックします。**

eye-one_Reader が起動します。

4 **測色パッチパターンを選択します。**
測色パッチパターンは、次の 4 つから選択します。測色するパッチに合わせて選択してください。

- **指定なし**
- **PrintServer Series 1188 Chart**
- **PrintServer Series DPCG835 Chart**
- **Calibration / 170 Chart**

補足

- キャリブレーションチャートを測色する場合は、「Calibration / 170 Chart」を選択してください。
- 測色パッチパターンを選択すると、読み込んでいるチャートのカラー値および数をチェックして、チャートの間違いや行数のズレを検出してエラーを表示するようになっています。したがって、専用のチャート以外は測れません。
- ［指定なし］は、専用チャート以外のパッチを測色する場合に選択します。測色は、［終了］ボタンを押すまで続きます。［終了］ボタンを押すと、データの保存ダイアログボックスが表示されます。

5 **測色方式を選択します。**
測色方式は、次の 3 つから選択します。

- **ストリップ測色**
  横一列のパッチを、Eye-One に付属しているルーラーを使って、測色器を横にスライドさせて測色します。右端のパッチまでスライドさせたら、横一列の測色は終了です。
- **ダブルストリップ測色**
  横一列のパッチを、Eye-One に付属しているルーラーを使って、測色器を横にスライドさせて測色します。右端のパッチまでスライドさせたら、左端のパッチまで測色器を再度スライドさせて測色します。往復で測色し、その平均値を測色値として使うため、ストリップ測色より精度が向上します。
- **スポット測色**
  パッチを一つずつ測色します。

補足

測色方式には、「ストリップ測色」または「ダブルストリップ測色」を推奨します。

6 測色データ形式を選択します。

測色データ形式は、次の 3 つから選択します。

- **三刺激値（CIELAB）**
- **濃度（ステータス -A）**
- **濃度（ステータス -T）**

Print Server Series の［CMYK プロファイルの読み込み］、測色器キャリブレーションで使用する場合は、必ず［三刺激値（CIELAB）］を選択してください。

7 ［測色開始］をクリックします。

パッチを測色するダイアログボックスが表示されます。

8 測色器をキャリブレーションします。

Eye-One に付属の白色版に、Eye-One をセットし、Eye-One のボタンを押してください。
キャリブレーションが終了すると、ビープ音がなります。

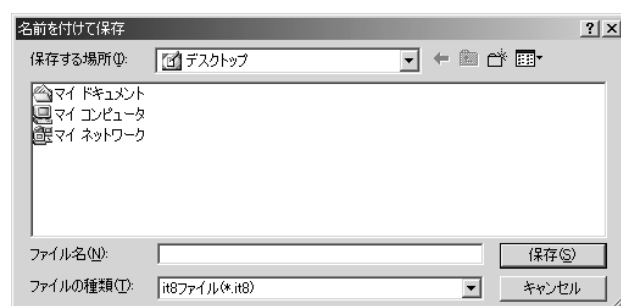
9 パッチを測色します。

ダイアログウィンドウの上部に表示されるメッセージに従って、パッチを測色してください。測色時の裏写りを防ぐため、測色対象と同じ用紙を数枚下に敷いて測色してください。

測色した結果はダイアログボックスに表示されます。

Index	Name	L*	a*	b*
6	"1F"	15.129	-1.674	7.296
7	"1G"	67.266	7.241	-7.168
8	"1H"	48.216	-37.585	-35.710
9	"1I"	89.551	-0.967	6.026
10	"1J"	70.615	-7.599	72.916
11	"1K"	57.236	-28.180	19.240
12	"1L"	22.471	-14.859	13.133
13	"1M"	37.008	-7.620	-5.138
14	"1N"	28.218	37.347	25.411
15	"1O"	12.119	0.048	2.134
16	"1P"	15.479	-8.801	6.293
17	"1Q"	68.553	-5.758	-5.428
18	"1R"	12.581	6.847	1.503
19	"1S"	15.239	14.580	-23.869
20	"1T"	41.199	-39.554	-18.057
21	"1U"	14.241	7.445	2.036
22	"1V"	66.914	21.155	-14.260

パッチの測色に失敗した場合、ダイアログウィンドウの上部にメッセージが表示されます。再度測色を実行してください。

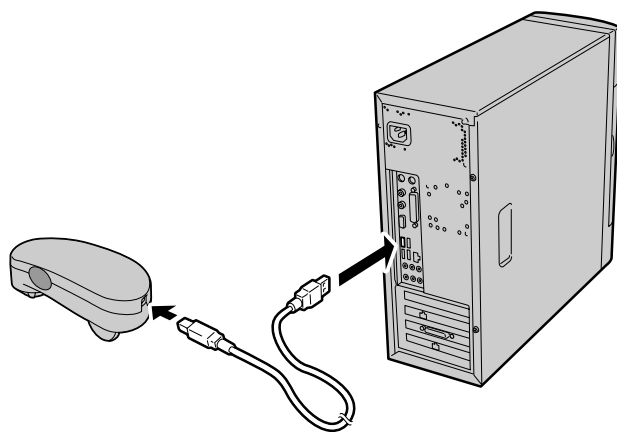
10 すべてのパッチの測色が終了すると、測色結果を保存するダイアログボックスが表示されます。

11 ファイル名を指定して、[保存]をクリックします。

便利な使い方

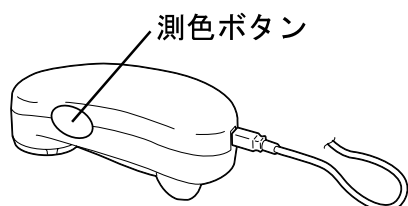
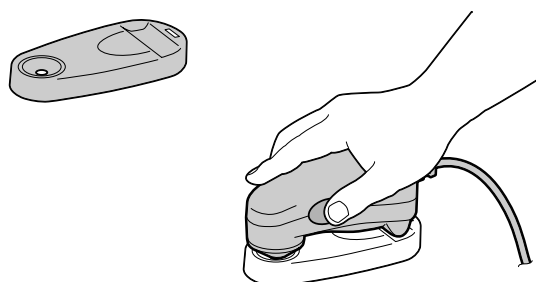
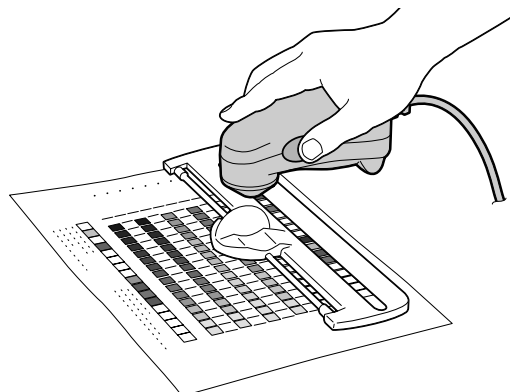
- **最終列データ削除**
  ルーラーにそって測色値をスライドさせているときに、測色器を少し浮かせてしまうような場合があります。
  このような場合、測色は成功しており、eye-one_Reader は次の列の測色をうながします。しかし、このようなデータは、精度の低下の原因となるデータであり、測り直すことが望ましいものです。このような場合には、[最終列データ削除] を押して、直前に成功した 1 列分の測色を削除し、精度の悪い心配のあるデータを測色し直してください。
- **エラーメッセージ表示からの素早い復帰**
  eye-one_Reader は、測色のスライド速度が速いなどのエラーが発生した場合に、エラーであることを示すプププというビープ音とともに 7 秒間のエラーメッセージ表示を行います。7 秒間のメッセージ表示は、十分にメッセージを読みとれるための長さとして設定されたものですが、eye-one_Reader に慣れてくると音と音色でエラーを判断できるようになり、7 秒間を待つことがわずらわしくなるかもしれません。このような場合には、エラーメッセージ表示中に、Eye-One のボタンを軽くクリックしてください。短いビープ音が鳴り、エラー表示がキャンセルされ、次の測色がすぐに行えるようになります。

5.16.2 測色器の使い方

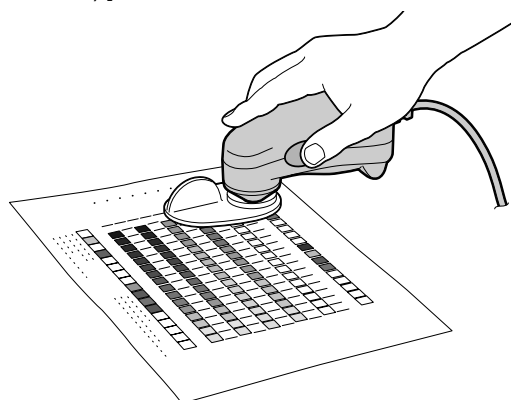
CMYK プロファイル作成用チャート、測色器キャリブレーションチャート、Gray Scale Target の測色には、Eye-One を使用できます。

測色器の接続

サーバーの背面あるいは前面の USB コネクターに、測色器を接続します。

測色器の使用方法

- 測色をするときには、測色ボタンを押します。測色するときには、ソフトウエアのメッセージにあわせて操作します。

- 測色の際に、測色器のキャリブレーションが必要になった場合には、付属の白色板を使用します。測色器の調整に使用する白色板と測色器は、1 対 1 の組み合わせになっています。

- **eye-one_Reader のソフトウエアを使用してストリップ測色、ダブルストリップ測色を行う場合には、付属のルーラーを使用します。CMYK プロファイル作成用チャート、測色器キャリブレーションチャートには、ルーラーの端にあわせるように点線の半円がプリントされています。点線の半円のところに書かれている番号の順番に従って測色を行ってください。各列の、番号の付いている側から、番号の付いていない側に向かって、測色を行ってください。**

- **eye-one_Reader のソフトウエアを使用してスポット測色を行う場合には、付属の測色台を使用します。**

補足

- Gray Scale Targetの測色は、スポット測色を選択します。測色データ形式は[濃度(ステータス -A)]を選択してください。

測色をするときの注意点

- **測色をするときには、測色するチャートと測色器の間に光が入らないように平らな場所で行ってください。**
- **測色器の調整に使用する白色板と測色器は、1 対 1 の組み合わせになっています。そのため、他の測色器のパッケージに同梱されている白色板を使用した場合、正確な調整ができません。必ず、パッケージに同梱されている測色器だけに使用してください。**
- **測色をするときには、フィルターは付けないでください。また、測色するチャートの下にチャートと同じ白紙を数枚下に敷いて測色を行ってください。**

5.17 用語集

DocuPrint CG835 L IIに関連する用語には、印刷用語をはじめ編集用語やDTP用語など、多岐に渡ります。サーバーの機能を理解し、本文を読み進むうえでの参考にしてください。

CIEbased［シー・アイ・イー・ベースド］
CIEは、commission Internationale de I'Eclariageの略で、国際照明委員会のこと。
CIEが発表しているデバイスに依存しないカラーモデルをもとに、色再現することをいいます。

GCR［ジー・シー・アール］
Gray-Component Replacementの略。
カラー画像のグレーの部分からCMYの成分を取り除き、Kの濃淡に置き換えることをいいます。
画像を変換するときに、GCRの値を調整できるアプリケーションもあります。
→ UCR

ICCプロファイル［アイ・シー・シー -］
International Color Consortiumの略。
各デバイスの色再現に関する情報を記述したファイルのことをいいます。

IE［アイ・イー］
Image Enhancementの略。文字の輪郭などをくっきり見せることをいいます。

IT8［アイ・ティー・エイト］
デバイスのキャリブレーションを行うための標準チャートのことをいいます。

PPD［ピー・ピー・ディー］
PostScript Printer Description Fileの略。
ポストスクリプトプリンターの設定情報を記述したファイルのことをいいます。

RIP［リップ］
Raster Image Processerの略。
ポストスクリプトデータをビットマップに展開することをいいます。

TWAIN［トゥエイン］
スキャナーソフトが、Photoshopなど、ほかのアプリケーションに対応するための規格の名称です。

UCR［ユー・シー・アール］
Under Color Removalの略。
カラー画像の黒色の部分からCMYの成分を取り除き、Kの濃淡に置き換えることをいいます。
RGBモードからCMYKモードに画像を変換するときに、UCRの値を調整できるアプリケーションもあります。
→ GCR

網点［あみてん］
印刷で色の濃淡が置き換えられる大小の点のことで、ハーフトーンともいいます。

色分版［いろぶんぱん］
RGB画像を、プロセス印刷で使用する4色のインキに対応したCMYKの画像に分けることをいいます。

オーバープリント
オブジェクト同士が重なり合う場合に、
上下の色を重ねて印刷することをいいます。印刷のずれで白地がでることを防ぎます。
ブラックの文字は、すべてオーバープリントするようにデフォルト設定されているアプリケーションもあります。
→抜き合わせ

ガンマ補正［- ほせい］
感光材の感光特性を表わすカーブのことをガンマといい、デバイスのガンマ値に応じた最適のカーブに補正することを、ガンマ補正といいます。
DocuPrint CG835 L IIやPhotoshopは、画像のガンマ補正をしてコントラストや明暗を調整できます。

キャリブレーション
色の経時変化を補正して、機器の色再現性を標準状態に維持することをいいます。

スクリーン線数［- せんすう］
画像を出力するときに使われる、網点の列または線の数をいいます。
出力解像度とスクリーン線数の組み合わせで、画像のきめ細かさが変化します。
フィルム出力で使うスクリーン線数は、イメージセッターの解像度や印刷方法、および用紙によって異なります。

墨版保持［すみはんほじ］
CMYK データをプリントする場合に、色再現で重要な役割を持つ K（墨）版の情報を保持するしくみのことをいいます。

特色［とくしょく］
あらかじめ色を混ぜ合わせた、さまざまな色のインキのことです。
特色インキは、会社のロゴなど、色を正確に再現しなければならないときに使われます。
スポットカラーともいいます。
→プロセスカラー

抜き合わせ［ぬきあわせ］
オブジェクト同士が重なり合う場合に、
下になる色を、上の形で白く抜くことで、
半透明の印刷インキを使うときに、色が重なって別の色になることを防ぎます。
→オーバープリント

プロセスカラー
CMYK の網点を重ね合わせて、さまざまな色を擬似的に再現する半透明のインキのことです。
→特色

プロファイル
デバイスごとのカラー属性を定義したファイルのことをいいます。

分版出力［ぶんぱんしゅつりょく］
印刷に使用するインキごとに、色の要素を分けてフィルムに出力します。
プロセスカラー印刷の場合は、各ページが CMYK の 4 枚のフィルムになります。

ホワイトポイント
画像内のもっとも明るい位置のことで、
白点ともいいます。

連続階調［れんぞくかいちょう］
写真のように、色と色がなめらかに変化していることをいいます。

索　引

記号・英数

CMYK プロファイルの登録 53
CMYK プロファイルの読み込み 51
CMYK プロファイルを作成する 47
DropPrintLite 27
Eye-One 47
eye-one_Reader 47
GretagMacbeth 社 47
ICC（International Color Consortium）..... 47
Microsoft Windows Network で使用する場合 136
NetWare で使用する場合 142
PostScript ファイルを作成する 153
RGB 色補正プロファイルの削除 42
RGB 色補正プロファイルの読み込み 40
RGB 色補正プロファイルの割り当て 42
RGB 色補正プロファイル名の変更 42
RGB 出力プロファイルの削除 45
RGB 出力プロファイルの読み込み 43
RGB 出力プロファイルの割り当て 45
RGB 出力プロファイル名の変更 45
RGB 用 ICC プロファイルを読み込む 40
SpectroChart 47
SpectroChart Lite 47
Spectrolino/SpectroScan 47
SunRaster 157
TCP/IP からのプリント使用制限の設定 151
Windows 95/98/Me 用プリンタードライバーの
インストール 119
Windows NT 4.0 用プリンタードライバーの
インストール 124
XWD 157

ア

色調整のヒント 3
色の調整とは 2
印刷 K100% 再現保証 52
印刷 K 単色保証 52
印刷プロファイル設定 51
エラーメッセージ 110

カ

紙地色補正方法 52
カラープロファイルの種類 55
キャリブレーション確認印刷 21
キャリブレーションで色を補正する 6
キャリブレーションデータの確認 17
キャリブレーションデータの割り当て ...19, 33
キャリブレーションの種類 6
キャリブレーション方法の選択 20, 34

サ

サーバーに画像ファイルを送信する 27
サーバーの起動と停止 136
自動キャリブレーション 22
自動キャリブレーションデータの作成10, 13, 29
自動キャリブレーションの精度を
向上させたい場合 39
市販フォントのインストール 100
スキャナーの使い方と調整 36
スキャナーを使用した
自動キャリブレーション 7
スキャナ調整ファイルの削除 38
スキャナ調整ファイルの作成 36

タ

代替フォントの指定 107
通常プロファイル 20, 34
ディスプレイの調整 159
転写電圧調整 75

ナ

濃度ムラ補正 70

ハ

バックアップしたフォントを復元する 103
フォント一覧を印刷する 102
フォント一覧を表示する 101
フォント情報の確認とバックアップ 101
フォントディスクを削除する 105
フォントディスクを追加する 103
フォントディスクを変更する 104
フォントのダウンロードを開始する 106
フォントのバックアップを作成する 103
フォントを更新する 106
プリンタプロファイル設定 51
プリントオプションについて 80
プロファイルを使用した
カラーシミュレーションの流れ 5

マ

マニュアルの種類 vi

ヤ

ユーザー調整カーブの更新 59
ユーザー調整カーブのコピー 59
ユーザー調整カーブの削除 60
ユーザー調整カーブの名前変更 59
ユーザー調整カーブの割り当て 60
ユーザー調整カーブを作成する 57
用語集 178
用紙間隔調整 76

ラ

両面プリントのずれを微調整する 64

マニュアルコメント用紙

本書をより使いやすいものとするために、皆様からの貴重なご意見（説明不足、間違い、誤字、誤植、ご要望など）をお待ちいたしております。ご記入に際しましては、マニュアルに関することのみ具体的にご指摘くださるようお願いいたします。

•マニュアルの名称	DocuPrint CG835 L II取扱説明書（サーバー編）	•管理番号	ME3740J1-1

•ご 芳 名		•貴 社 名	
•所属部門		•電話番号	[内線]
•所 在 地			

個人情報の取り扱いについて

マニュアルコメント用紙にご記入いただいたご芳名、所在地、電話番号等は、富士ゼロックス株式会社のマニュアル制作担当部門でマニュアルに対するお客様のご要望を具体的に把握・分析してマニュアルを改善するための活動、およびご協力いただいたお客様へのお礼状の送付のために利用いたします。

•ページ	•行	•内容へのご指摘 / ご要望

•富士ゼロックス記入欄		
•記事	•受付 NO.	•受付担当印

1 版

[折り込み線]

富士ゼロックス(株) 社内メール扱い

[送付先]

HID 開発部

マニュアルグループ 行

担当社員

事業部 営業所 課 G

氏名

[折り込み線]

切り取り線

- ご記入くださいましたら点線の部分で折り込みホチキスなどでとめたうえ、お買い求めの販売店にお渡しください。
- このままで郵便物として投函なさらないようにご注意ください。

商品のお問い合わせ先について

● この商品の**保守**、**操作**、**修理**(内容・期間・費用など)のお問い合わせ、**消耗品**のご購入について、および本機を廃却する場合は、
商品に貼られている保守サポートの問い合わせ先カードの裏面に記載のあるテレフォンセンター、
または商品センターにお問い合わせください。

表面

裏面

お問い合わせ先が不明の場合は、富士ゼロックスプリンティングシステムズプリンターサポートデスクにお問い合わせください。（各アプリケーションの操作につきましては、各ソフトウエアメーカーの問い合わせ窓口にお問い合わせください。）

フリーダイヤル　フジゼロックス

0120-66-2209　FAX：03-3342-1552

フリーダイヤル受付時間：土曜、日曜、休祝日を除く9時～17時30分、東京でお受けします。

ただし、通話地域制限がある内線電話機からはご利用になれません。全国通話できる電話機をご使用ください。
表記の窓口は日本国内のお客様に限らせていただきます。

弊社へのお問い合わせの際には、機種名と機械番号を確認させていただきます。
保守サポートの問い合わせ先カードの裏面の「機種」「機械No.」、もしくは商品の背面または側面の銀色のシールに記載されている「商品名」「商品コード」「SER#」を事前にご確認ください。

DocuPrint CG835 L II取扱説明書（サーバー編）

著作者 ― 富士ゼロックス株式会社　　発行年月―2006 年　7月　第 1 版
発行者 ― 富士ゼロックスプリンティングシステムズ株式会社

（管理 No:ME3740J1-1）